募集時使用禁止

複製・転用・転載厳禁

2026年1月版

ハンディー目安

代表的な傷病等別 冊子版「引受の目安」

TOKIO MARINE GROUP
To Be a Good Company

東京海上日動あんしん生命保険株式会社
業務プロセス企画部　新契約グループ

目次

1. ご利用の手引き ・・ i ～ ii

2. 参照方法

2.1 ハンディー目安の参照方法（新契約） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ iii ～ vi

2.2 ハンディー目安の参照方法（異動・特約中途付加/復活） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ vii ～ ix

3. 引受の目安

3.1 傷病の引受の目安 ・・ 1～68

3.2 健康診断検査項目の引受の目安 ・・ 69～93

4. その他

補足資料（付録）1～7 ・・・ 巻末付録

五十音順索引 ・・・ 索引（1）～（14）

募集上の注意

- 募集にあたって、「契約者」および「被保険者」との面談が必要です。被保険者が未成年・乳幼児の場合でも、被保険者本人との面談が必要です。
- 現在入院中の方や、出生後で退院する前の新生児への募集は不可となります。また、入院予定・手術予定のある方への募集も不可となります。

1.ご利用の手引き

ハンディー目安の位置づけ

本目安は「１種類の傷病・症状が平均的な経過をたどった場合」を前提としており、**「引受条件をお約束するもの」ではありません。**
そのため、目安と引受査定結果が一致しない場合があります。代表的なケースは以下のとおりです。

- 治療歴や通院歴、健康診断指摘歴、症状の発生などが直近の場合
- 傷病や症状などが複数合併している場合
- 標準と異なる経過（治療内容・治療期間など）をたどっていた場合
- 健康診断において、複数年指摘を受けている場合
- 健康診断において、複数項目の指摘を受けている場合
- 乳幼児や高齢者の方の場合

※本目安記載の内容は予告なく変更されることがあります。

用語の説明		
傷病名・健康診断による指摘項目および症状など		医師から告知された正式な傷病名・健康診断による指摘項目および症状などをご確認ください。 傷病名・健康診断による指摘項目および症状などは、一字異なるだけで、全く違う病気や状態を表すことがあります。 例）　子宮内膜炎と子宮内膜症、肺炎と肝炎、腎炎と胃炎、乳腺炎と乳腺症、尿蛋白と尿潜血など
引受の目安 ※1	「第一」	第一分野の保険の評価が記載されています。 ・ただし、商品によっては引受条件が異なることがあります。【ハンディー目安の参照方法（ⅲ～ⅸ）】を必ずご参照ください。
	「就業不能」	就業不能保障の保険の評価が記載されています。 ・Ⅰ～Ⅲ型で異なる評価となる場合があります。（Ⅰ～Ⅲ型で評価が異なる場合は、それぞれの型の評価が記載されています）
	「医療」	医療保険単品の評価が記載されています。 ・緩和型医療保険につきましては、『告知書（緩和型医療用）』の告知質問によりご判断いただきますようお願いします。 ・第一分野と同時にお申込の場合などは、異なる評価となる場合があります。
	「がん」	がん保険単品の評価が記載されています。 ・第一分野と同時にお申込の場合などは、異なる評価となる場合があります。
ポイント ■告知のポイント ●引受のポイント		「■告知のポイント」には、特に告知いただきたい項目を挙げています。 ・告知書記載の質問項目については特に記載していませんが、必ず告知いただいてください。 ・「治療内容」のうち「投薬名」については、精神疾患全般や貧血（鉄欠乏性貧血以外）などの場合に、告知が必須となります。 「投薬名」の告知が必須の傷病は、「■告知のポイント」にその旨明記していますのでご確認ください。（※） ただし、それ以外の傷病でも、経過（治療内容・治療期間など）によっては投薬名を確認させていただく場合があります。 ※喘息（気管支喘息）については、「追加告知書（ぜんそく専用）」の内容にて判断いたします。 「●引受のポイント」にはお引受にあたっての全般的なポイントを挙げています。 「※＋番号」の注釈は、表中の「※＋番号」に対応します。注意事項が挙げられていますので、必ずご確認ください。

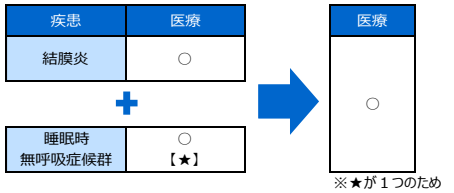
※1 主契約の引受の目安と特約・特則の引受の目安は一致しない場合があります。また、異動（復活や特約中途付加など）の場合は引受条件が異なることがあります。
詳細は【ハンディー目安の参照方法（ⅲ～ⅸ）】をご確認ください。

「引受の目安」の表記の説明	
○	標準体の可能性が高い
割増	特別保険料領収法の特別条件が適用される可能性が高い ・健康診断書扱でお申込いただくと、健診緩和査定により引受が緩和される可能性があります。
高割増	高度の特別保険料領収法の特別条件が適用される可能性が高く、あわせて保険金削減支払法の特別条件が適用される場合もある
削減	保険金削減支払法・給付金削減支払法の特別条件が適用される可能性が高い
部位不	特定疾病・部位不担保法の特別条件が適用される可能性が高い ・番号については、巻末の【特定疾病・部位不担保表】をご参照ください。 ・不担保期間は保険期間全期間または契約日から１～５年で設定されます。 ・不担保とする身体部位・特定疾病は、１契約２つまでです。（3つ以上となる場合は、お引受けできません）
特障	特定障害不担保法の特別条件が適用される可能性が高い
×	アテンド（募集）を見合わせてください
× (罹患歴有)	アテンド（募集）を見合わせてください ・がん（悪性新生物および上皮内新生物）に該当する傷病の、「がん」の引受の目安に記載されています。 ・特約・特則の引受の目安を参照する場合に注意が必要です。詳細は【ハンディー目安の参照方法（ⅲ～ⅸ）】をご確認ください。

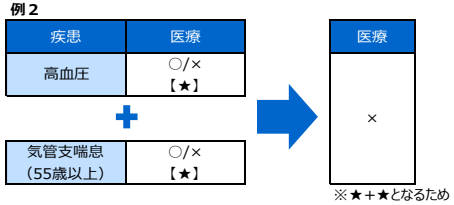
注意

- 上記はいずれも一般的な「目安」であり、告知内容・診査結果・追加資料の内容などによって、本目安に記載の内容と異なる引受査定結果となる場合があります。
- 希望される商品によっては引受条件が異なることがあります。また、異動（復活や特約中途付加など）の場合も引受条件が異なることがあります。
  必ず【ハンディー目安の参照方法（ⅲ～ⅸ）】をご参照ください。
- 引受の目安に条件が2つ以上記載されている場合は以下の通りとなります。
  ＊「割増+削減」とある場合、特別保険料領収法と保険金削減支払法の両方の特別条件が適用される可能性が高いことを表します。
  ＊「○/割増」とある場合、標準体もしくは特別保険料領収法の特別条件が適用される可能性が高いことを表します。
- 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合、医療保険はお引受けできません。
  2つの疾患があり、それぞれの医療の引受の目安を確認した結果【★】印を含む場合、総合的な医療の引受の目安は以下のようになります。

疾患1	疾患2	総合的な医療の目安
○	○【★】	○
○	○/×【★】	○/×
○【★】	○【★】	×
○/×【★】	○【★】	×
○/×【★】	○/×【★】	×



例２



2. 参照方法

2.1 ハンディー目安の参照方法 （新契約）

新契約のお申込の場合は、以下のSTEP1、STEP2の流れで引受の目安を参照してください。

例

「家計保障定期保険ＮＥＯ　5疾病・障害・介護保障プラン（Ⅲ型）」に加入希望

半年前の健康診断で「子宮筋腫」要精密検査の指摘あり、その後精密検査未受診のお客様

STEP1

P.1～93の 該当する傷病/健康診断検査項目、適用条件の**「引受の目安（第一・就業不能・医療・がん）」**を確認する ①

※ポイント(■告知のポイント、●引受のポイント)欄も必ずご確認ください ②

健康診断結果の項目	適用条件 ①		第一	就業不能	医療	がん	② ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮筋腫	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	

STEP2

P. iv～viの**「商品別の引受に関する取扱規定」**で、希望する商品の**「参照する引受の目安」**を確認し、STEP1で確認した「引受の目安」と対比する ① ②

※主契約と特約・特則の適用される引受の目安は一致しない場合があるため、必ずそれぞれの「参照する引受の目安」の列を確認してください

主契約 ① 付帯する保障・特約・特則	参照する引受の目安	適用される引受の目安 ② 第一					② 就業不能				医療			がん				留意点
		割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	部位不	特障	×	×（罹患歴有）	
家計保障定期保険ＮＥＯ	第一	適用	適用	適用	適用	×												
【5疾病・障害・介護保障プラン（Ⅲ型）】 特定疾病・就業不能保険料払込免除特則（Ⅲ型） 就業不能保障特約（Ⅲ型） 就業不能一時金特約（Ⅲ型）	就業不能						適用	適用	×	×								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅲ型の評価を参照してください。

引受の目安

家計保障定期保険ＮＥＯ（主契約）	「削減」が適用
【5疾病・障害・介護保障プラン（Ⅲ型）】 特定疾病・就業不能保険料払込免除特則（Ⅲ型） 就業不能保障特約（Ⅲ型） 就業不能一時金特約（Ⅲ型）	「部位不担保（18番・5年）」が適用

2.1 ハンディー目安の参照方法 （新契約）

新契約のお申込の場合は、以下の流れで引受の目安を参照してください。

該当する傷病/健康診断検査項目の
「引受の目安
（第一・就業不能・医療・がん）」
を確認する

→

希望する商品の
「商品別の引受に関する取扱規定」
を確認する

→

ー または **適用** の場合 → **アテンド（募集）を進めてください**
（ **適用** の場合は特別条件が適用される見込み ）

× の場合 → **アテンド（募集）を見合わせてください**

商品別の引受に関する取扱規定（新契約・第一分野）

■ 表の見方

ー	該当商品の引受可否、特別条件の適用には影響しない
適用	該当商品にその特別条件が適用される
×	該当商品はお引受けできない

<注>

◆「割増」については、健康診断書扱でお申込いただくと、健診緩和査定により「○」まで緩和される場合があります。

◆下表は新契約の場合に限ります。異動（復活や特約中途付加など）の取扱規定とは異なりますのでご注意ください。
（異動についてはvii～ixページをご参照ください）

主契約 / 付帯する保障・特約・特則	参照する引受の目安	適用される引受の目安																留意点
		第一					就業不能				医療			がん				
		割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	部位不	特障	×	×（罹患歴有）	
終身保険	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
養老保険	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
定期保険（満了時年齢：99歳）	**第一**	**適用**	**×**	**適用**	**適用**	**×**												
定期保険（上記以外）	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
スマートあんしん定期	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
特定疾病保険料払込免除特則	**第一、がん**	**×**	**×**	**ー**	**ー**	**×**								**×**	**ー**	**×**	**×**	【注意1】 「狭心症」「心筋梗塞」「脳梗塞」等の既往歴がある場合はお引受けできないことがあります。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください） 【注意2】 「大腸粘膜内癌」「乳房上皮内癌」「子宮頸部上皮内癌」「子宮頸部高度異形成」「子宮頸部異形成」については、「がん」の欄が「○」の場合もお引受けできません。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
長割り定期	**第一**	**適用**	**×**	**適用**	**適用**	**×**												
長生き支援終身	**第一**	**適用**	**×**	**適用**	**×**	**×**												【注意】 傷病・健康診断指摘によってはお引受けできない場合があります。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
特定疾病保険料払込免除特則	**第一、がん**	**×**	**×**	**ー**	**ー**	**×**								**×**	**ー**	**×**	**×**	【注意1】 「狭心症」「心筋梗塞」「脳梗塞」等の既往歴がある場合はお引受けできないことがあります。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください） 【注意2】 「大腸粘膜内癌」「乳房上皮内癌」「子宮頸部上皮内癌」「子宮頸部高度異形成」「子宮頸部異形成」については、「がん」の欄が「○」の場合もお引受けできません。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）

主契約 付帯する保障・特約・特則	参照する引受の目安	適用される引受の目安																留意点
		第一					就業不能				医療			がん				
		割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	部位不	特障	×	× (罹患歴有)	
家計保障定期保険ＮＥＯ	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
特定疾病保険料払込免除特則	**就業不能**						**適用**	**適用**	**ー**	**×**								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅱ型の評価を参照してください。
【障害・介護保障プラン（Ⅰ型）】 障害介護保険料払込免除特則 就業不能保障特約（Ⅰ型） 就業不能一時金特約（Ⅰ型）	**就業不能**						**適用**	**適用**	**×**	**×**								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅰ型の評価を参照してください。
【5疾病保障プラン（Ⅱ型）】 特定疾病・就業不能保険料払込免除特則（Ⅱ型） 就業不能保障特約（Ⅱ型） 就業不能一時金特約（Ⅱ型）	**就業不能**						**適用**	**適用**	**ー**	**×**								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅱ型の評価を参照してください。
【5疾病・障害・介護保障プラン（Ⅲ型）】 特定疾病・就業不能保険料払込免除特則（Ⅲ型） 就業不能保障特約（Ⅲ型） 就業不能一時金特約（Ⅲ型）	**就業不能**						**適用**	**適用**	**×**	**×**								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅲ型の評価を参照してください。
あんしんプレミアム定期	**第一、 就業不能**	**適用**	**×**	**適用**	**×**	**×**	**適用**	**×**	**×**	**×**								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅲ型の評価を参照してください。
低解約返戻金型逓増定期保険（A型）	**第一**	**適用**	**適用**	**適用**	**適用**	**×**												
低解約返戻金型逓増定期保険（D型）	**第一**	**適用**	**×**	**適用**	**適用**	**×**												
利配付こども保険	**第一**	**×**	**×**	**×**	**×**	**×**												契約者・被保険者両方の告知書の提出が必要です。
マーケットリンク	**第一**	**ー**	**×**	**ー**	**ー ※1 /×**	**×**												※1「緑内障」「視神経乳頭陥凹拡大」「高眼圧症」「加齢黄斑変性」「黄斑変性症」「ドルーゼン」のいずれかを原因とし、視力障害や視野障害がない場合に限り、お引受けができます。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
特定疾病保険料払込免除特約01	**第一、がん**	**×**	**×**	**ー**	**ー**	**×**								**×**	**ー**	**×**	**×**	【注意1】 「狭心症」「心筋梗塞」「脳梗塞」等の既往歴がある場合はお引受けできないことがあります。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください） 【注意2】 「大腸粘膜内癌」「乳房上皮内癌」「子宮頸部上皮内癌」「子宮頸部高度異形成」「子宮頸部異形成」については、「がん」の欄が「○」の場合もお引受けできません。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）

2.1 ハンディー目安の参照方法 （新契約）

商品別の引受に関する取扱規定（新契約・第三分野）

■ 表の見方

ー	該当商品の引受可否、特別条件の適用には影響しない
適用	該当商品にその特別条件が適用される
×	該当商品はお引受けできない

<注>

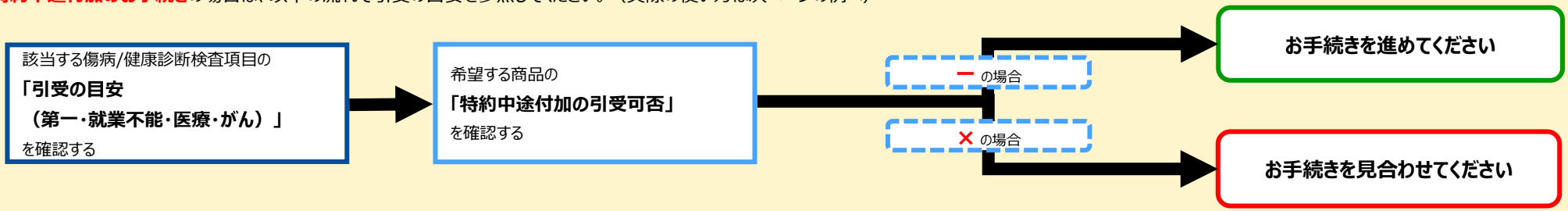
◆「割増」については、健康診断書扱でお申込いただくと、健診緩和査定により「○」まで緩和される場合があります。

◆下表は新契約の場合に限ります。異動（復活や特約中途付加など）の取扱規定とは異なりますのでご注意ください。
（異動についてはvii～ixページをご参照ください）

主契約 / 付帯する保障・特約・特則	参照する引受の目安	適用される引受の目安																留意点
		第一					就業不能				医療			がん				
		割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	部位不	特障	×	×（罹患歴有）	
あんしん就業不能保障保険（Ⅰ～Ⅲ型）	就業不能						適用	適用	※1	×								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、希望される型の評価を参照してください。 ※1 Ⅰ・Ⅲ型の場合は「×」、Ⅱ型の場合は「適用」となります。
特定疾病保険料払込免除特則	就業不能						適用	適用	ー	×								「就業不能」の評価がⅠ～Ⅲ型で異なる場合は、Ⅱ型の評価を参照してください。
メディカルKit ＮＥＯ メディカルKit Ｒ	医療										適用	適用	×					
無解約返戻金型終身死亡保障（死亡保険金の給付倍率）	第一、医療	×	×	×	適用	×					ー	適用	×					「×」の場合、選択可能な死亡保険金の給付倍率が0倍のみとなります。
特定悪性新生物保険金前払特約	第一、医療、がん	×	×	×	ー	×					ー	ー	×	ー	ー	ー	×	
重度5疾病・障害・重度介護保障特約	第一、医療、がん	×	×	×	×	×					ー	×	×	×	×	×	×	【注意】傷病・健康診断指摘によってはお引受できない場合があります。 （引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
先進医療特約	医療										適用	適用	×					
女性疾病保障特約	医療、がん										適用	適用	×	ー	適用	ー	×	
特定疾病保険料払込免除特則	医療、がん										ー	ー	×	ー	ー	ー	×	
特定治療支援特約	医療、がん										ー	適用	×	ー	適用	ー	×	
3大疾病入院支払日数無制限特約	医療										適用	適用	×					
がん診断特約	医療、がん										ー	適用	×	×	適用	×	×	
がん特定治療保障特約	医療、がん										ー	適用	×	×	適用	×	×	
抗がん剤治療特約	医療、がん										ー	適用	×	×	適用	×	×	
悪性新生物初回診断特約	医療、がん										ー	適用	×	×	適用	×	×	
入院一時給付金特約	医療										適用	適用	×					
通院特約	医療										適用	適用	×					
特定損傷一時金特約（超保険のみ）	医療										適用	適用	×					
手術給付金の追加払に関する特約	医療										適用	適用	×					
初期入院保障特則	医療										適用	適用	×					
あんしん治療サポート保険 あんしん治療サポート保険 Ｒ	※1																	※1 詳細は「あんしん治療サポート保険お申込み時の注意点（付録7ページ）」を参照してください。
あんしんがん治療保険 がん診断保険Ｒ がん治療支援保険ＮＥＯ（超保険のみ）	がん													適用	適用 ※1	×	×	特約・特則の引受の目安は主契約に準じます。 ※1「悪性新生物保険料払込免除特則」には適用されません。

2.2 ハンディー目安の参照方法（異動・特約中途付加）

特約中途付加のお手続きの場合は、以下の流れで引受の目安を参照してください。（実際の使い方は次ページの例へ）



特約中途付加の引受可否

■ 表の見方

ー	中途付加できる可能性が高い
×	中途付加できない

<注>

◆下表はあくまで特約中途付加の取扱条件を満たすことが前提となります。必ず『契約管理の手引き 契約内容変更（異動）編』もあわせてご確認ください。（「特別条件付契約は取扱不可」等の取扱条件があります）

引受の目安のポイント欄に以下の記載があるものを指します。
※ 異動の場合は注意が必要

主契約	中途付加する特約	参照する引受の目安	適用される引受の目安																留意点
			第一					就業不能				医療			がん				
			割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	○※	部位不	特障	×	×（罹患歴有）	
医療保険	特定悪性新生物保険金前払特約	がん													×	ー	ー	ー	×	
	重度5疾病・障害・重度介護保障特約	第一、医療、がん	×	×	×	×	×					ー	×	×	×	×	×	×	×	【注意】傷病・健康診断指摘によってはお引受けできない場合があります。（引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
	先進医療特約	医療、がん										×	×	×	ー	ー	×	ー	ー	
	女性疾病保障特約	医療、がん										×	×	×	×	ー	×	ー	×	【注意】「乳房非浸潤癌・乳房上皮内癌」については、「がん」の欄が「部位不」の場合もお引受けできません。（引受の目安の「ポイント」欄を参照してください）
	特定治療支援特約	医療、がん										ー	×	×	×	ー	×	ー	×	
	3大疾病入院支払日数無制限特約	医療、がん										×	×	×	ー	ー	×	ー	ー	
	がん診断特約	がん													×	×	×	×	×	
	がん特定治療保障特約	がん													×	×	×	×	×	
	抗がん剤治療特約	がん													×	×	×	×	×	
	入院一時給付金特約	医療										×	×	×						
	通院特約	医療										×	×	×						
	特定損傷一時金特約（超保険のみ）	医療										×	×	×						
	手術給付金の追加払に関する特約	医療										×	×	×						

主契約	中途付加する特約	参照する引受の目安	適用される引受の目安																留意点
			第一					就業不能				医療			がん				
			割増	高割増	削減	特障	×	割増	部位不	特障	×	部位不	特障	×	○※	部位不	特障	×	×(罹患歴有)	
がん保険	**がん特定治療保障特約** **がん先進医療特約** **がん入院特約** **がん手術特約** **がん診断特約** **がん通院特約** **抗がん剤治療特約** **悪性新生物初回診断特約**	**がん**													×	×	×	×	×	

例

メディカルKit ＮＥＯ　先進医療特約、がん診断特約の中途付加
・現在、妊娠中

① **妊娠中** の引受の目安を確認します

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
妊娠中	-	-	○	○	部位不 38番 1年	○	規	● 正常妊娠の場合に限る

② **商品別の引受に関する取扱規定** を確認します

主契約	中途付加する特約	参照する引受の目安	適用される引受の目安													留意点
			第一					医療			がん					
			割増	高割増	削減	特障	×	部位不	特障	×	○※	部位不	特障	×	×(罹患歴有)	
	先進医療特約	**医療、がん**						×	×	×	−	−	×	−	−	
	がん診断特約	**がん**									×	×	×	×	×	

引受の目安

メディカルKit ＮＥＯ（主契約）	
先進医療特約（特約中途付加）	**引受不可**
がん診断特約（特約中途付加）	引受可となる可能性が高い

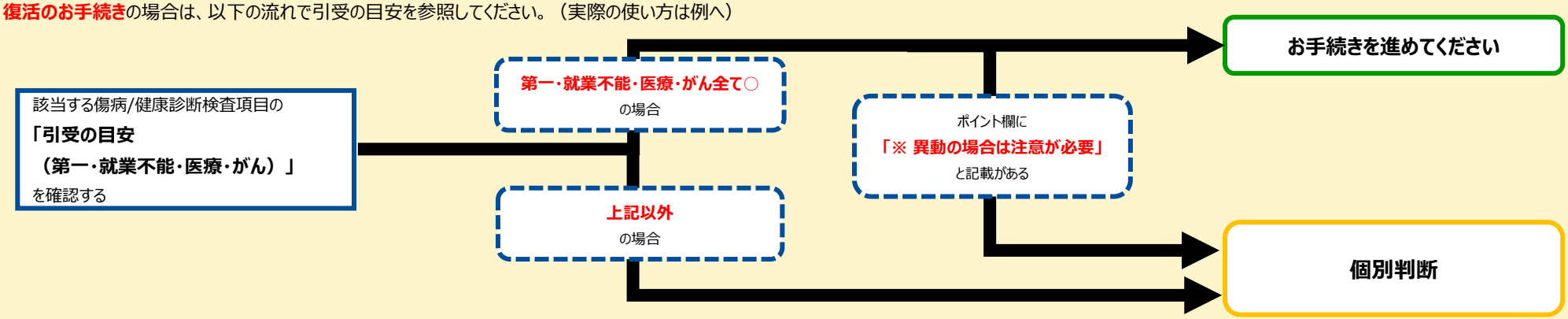
注意　引受の目安のポイント欄に**「※異動の場合は注意が必要」**の記載がある場合、適用される引受の目安は「○※」をご参照ください。

傷病名	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
大腸粘膜内癌 （上皮内癌含む） 直腸粘膜内癌 結腸粘膜内癌 Ｓ状結腸粘膜内癌	○ ※4※5	規	※3 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照） ※4 異動の場合は注意が必要 ※5 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受はできません

主契約	中途付加する特約	がん				
		○※	部位不	特障	×	×(罹患歴有)
	先進医療特約	−	−	×	−	−
	がん診断特約	×	×	×	×	×

2.2 ハンディー目安の参照方法（異動・復活）

復活のお手続きの場合は、以下の流れで引受の目安を参照してください。（実際の使い方は例へ）



例1

メディカルKit ＮＥＯ　4年前に標準体で加入。現在失効中であり、復活をご希望
・腰椎椎間板ヘルニア　3年前に半年間通院し、完治。入院・手術はしていない

① **腰椎椎間板ヘルニア** の引受の目安を確認します

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
椎間板ヘルニア（腰椎） 腰椎椎間板ヘルニア 椎間板症（腰椎）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（腰椎）、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる

引受の目安	メディカルKit ＮＥＯ	引受可となる可能性が高い

例2

メディカルKit Ｒ（がん診断特約の付帯あり）　3年前に標準体で加入。現在失効中であり、復活をご希望
・大腸粘膜内癌　8年前に内視鏡手術にて治療終了

② **大腸粘膜内癌（上皮内癌含む）** の引受の目安を確認します

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
大腸粘膜内癌 （上皮内癌含む） 直腸粘膜内癌 結腸粘膜内癌 Ｓ状結腸粘膜内癌	治療終了 （内視鏡手術のみ） ※1	治療終了後 4年～ ※2	○	×	○	○ ※4※5	規	※3 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照） ※4 異動の場合は注意が必要 ※5 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません

引受の目安	メディカルKit Ｒ	個別判断

復活・特約中途付加以外の異動種類の引受に関しては、ご提出いただく書類の内容により個々に検討いたします。

3.1 傷病の引受の目安

用語の説明

適用条件 ※1	現症	治療や経過観察など、医療行為や医師の管理下にある状態をいいます。
	既往症	治療や経過観察など、医療行為や医師の管理下から完全に離れた状態をいいます。（経過観察中や通院中の場合は該当しません）
	治療終了	入院や手術、服薬などのすべての治療が終了した状態をいいます。（経過観察中であっても、すべての治療が終了していれば該当します）
	治後	傷病や症状などが完全に治った日から起算します。（したがって、経過観察中は治後の起算対象外となります）
	治療終了後	入院や手術、服薬などのすべての治療が終了した日から起算します。（経過観察中であっても、すべての治療が終了した日が起算日となります）
	年齢	告知日時点での年齢をいいます。
	期間	「治後 ～3ヶ月」とある場合、「治後 3ヶ月未満」を表します。 「治後 3ヶ月～1年」とある場合、「治後 3ヶ月以上1年未満」を表します。 「治後 1年～」とある場合、「治後 1年以上」を表します。
診査方法の 目安		

規	年齢・保険種目・保険金額に応じ、規定通りの診査区分にて進めてください
健	健康診断書扱にて進めてください
嘱	嘱託医の一般診査にて進めてください
嘱心	嘱託医の一般診査+心電図検査にて進めてください
嘱血	嘱託医の一般診査+血液検査にて進めてください
嘱心血	嘱託医の一般診査+心電図検査+血液検査にて進めてください
×	アテンド（募集）を見合わせてください

- 引受規定（健康診断書扱の必要項目/期間・心電図/血液検査の実施基準など）に関しては、適宜ご確認の上進めてください。
- 診査方法が2つ記載がある場合、どちらかの診査方法にて進めてください。
  例）「健/嘱」と記載がある場合は健康診断書扱もしくは嘱託医の一般診査のどちらかにて進めてください。
- 上記の診査方法はあくまで「目安」であり、この診査方法に従って進めた場合でも、追加検査や追加資料が必要となる場合があります。
- 本項目は第一分野および就業不能保障の診査方法の目安になります。医療保険およびがん保険単品の場合は、規定の診査方法にて進めてください。

※1 傷病ごとの「ポイント」欄に説明が記載されている場合がありますので、必ずご確認ください。

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
高血圧	現症/既往症（～39歳）	A. 以下の範囲内の場合 最大 ～149mmHg かつ 最小 ～89mmHg	○	○	○	○	規	■ 以下①～③の全てを告知のこと <現症の場合> ①直近6ヶ月以内の「最大血圧値」と「最小血圧値」 ②測定年月 ③測定医療機関名 <既往症の場合> ①直近の「最大血圧値」と「最小血圧値」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● 入院がある場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる（医療保険は×） ● 健康診断結果の提出が必要となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 最大 ～159mmHg かつ 最小 ～94mmHg	○/割増	○/割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. 最大 160mmHg～ または 最小 95mmHg～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	現症/既往症（40～49歳）	A. 以下の範囲内の場合 最大 ～154mmHg かつ 最小 ～94mmHg	○	○	○	○	規	
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 最大 ～164mmHg かつ 最小 ～99mmHg	割増	割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. 最大 165mmHg～ または 最小 100mmHg～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	現症/既往症（50～59歳）	A. 以下の範囲内の場合 最大 ～159mmHg かつ 最小 ～99mmHg	○	○	○	○	規	
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 最大 ～169mmHg かつ 最小 ～99mmHg	割増	割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. 最大 170mmHg～ または 最小 100mmHg～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	現症/既往症（60歳～）	A. 以下の範囲内の場合 最大 ～159mmHg かつ 最小 ～99mmHg	○	○	○	○	規	
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 最大 ～174mmHg かつ 最小 ～104mmHg	○/割増	○/割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. 最大 175mmHg～ または 最小 105mmHg～	割増～×	割増/×	×	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
狭心症	～39歳	-	×	×	×	○	×	■ 診断時期 ● 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則は×となる可能性が高い ● 健康診断結果で心電図や糖代謝（「HbA1c」または「空腹時血糖値」）、脂質の検査項目が確認できる場合は、本目安の範囲内で評価が緩和される可能性がある ● 心電図異常や高血糖、腎機能（「尿蛋白」または「クレアチニン」）異常が認められる場合は厳しい評価となる ● 糖尿病の治療歴がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ●「不安定狭心症」の場合は厳しい評価となる ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合や厳しい評価となる場合がある
	40～49歳	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～5年	高割増/×	×	×	○	規	
		診断後 5年～	割増～×	Ⅰ型: 割増/× Ⅱ型: × Ⅲ型: ×	×	○	規	
	50～59歳	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～5年	割増～×	Ⅰ型: 割増/× Ⅱ型: × Ⅲ型: ×	×	○	規	
		診断後 5年～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	60歳～	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～2年	割増～×	Ⅰ型: 割増/× Ⅱ型: × Ⅲ型: ×	×	○	規	
		診断後 2～5年	割増～×	割増/×	×	○	規	
		診断後 5年～	○～×	○～×	×	○	規	
心筋梗塞	～39歳	-	×	×	×	○	×	■ 診断時期、再発の有無 ● 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則は× ● 健康診断結果で心電図や糖代謝（「HbA1c」または「空腹時血糖値」）、脂質の検査項目が確認できる場合は、本目安の範囲内で評価が緩和される可能性がある ● 心電図異常や高血糖、腎機能（「尿蛋白」または「クレアチニン」）異常が認められる場合は厳しい評価となる ● 再発がある場合は厳しい評価となる ● 糖尿病の治療歴がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合や厳しい評価となる場合がある
	40～49歳	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1年～	高割増/×	×	×	○	規	
	50～59歳	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1年～	割増～×	Ⅰ型: 割増/× Ⅱ型: × Ⅲ型: ×	×	○	規	
	60歳～	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1年～	割増～×	Ⅰ型: 割増/× Ⅱ型: × Ⅲ型: ×	×	○	規	
うっ血性心不全 心不全	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
心筋症 拡張型心筋症 肥大型心筋症 拘束型心筋症	現症/既往症	-	×	×	×	○	×	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
心臓弁膜症	血液の逆流を防ぐ心臓の弁の障害により、正常に機能しなくなった状態。正式診断名（大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症など）を確認のうえ、該当項目を参照							
大動脈弁狭窄症 大動脈弁閉鎖不全症 僧帽弁狭窄症 僧帽弁閉鎖不全症 肺動脈弁狭窄症 三尖弁狭窄症 三尖弁閉鎖不全症	現症/既往症	-	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	■ 原因（判明している場合）、治療内容、手術の有無と術式（弁形成術/弁修復術/バルーン切開術/弁置換術） ● 手術がある場合は厳しい評価となる。特に弁置換術をしている場合は全保種× ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
僧帽弁逸脱症 僧帽弁逸脱症候群	現症/既往症 ※1	-	○/割増	○/割増	×	○	健/嘱 ※2	※1 症状、治療がなく経過観察のみの場合に限る ※2 医療証明書が必要となる可能性が高い
心室中隔欠損症	現症	～14歳	×	×	×	○	×	■ 手術の有無と手術時期 ● 手術を20歳以上で行った場合は厳しい評価となる ※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある ※2 心電図検査を含む健康診断結果提出要
		15歳～	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	
	既往症 （手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1年～	○	○	○ ※2	○	健/嘱心 ※1	
心房中隔欠損症	現症	～14歳	×	×	×	○	×	■ 手術の有無と手術時期 ● 手術を20歳以上で行った場合は厳しい評価となる ※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある ※2 心電図検査を含む健康診断結果提出要
		15歳～	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	
	既往症 （手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1年～	○	○	○ ※2	○	健/嘱心 ※1	
ボタロー管開存症 動脈管開存症	現症	-	×	×	×	○	×	■ 手術の有無と手術時期 ● 手術を20歳以上で行った場合は厳しい評価となる ※1 心電図検査を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある
	既往症 （手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1年～	○	○	○ ※1	○	健/嘱心 ※2	
ファロー四徴症	現症/既往症	-	×	×	×	○	×	
不整脈	心臓の脈がゆっくり打つ、速く打つ、または不規則に打つ状態。正式診断名（徐脈、頻脈、期外収縮、心房細動、心房粗動、WPW症候群など）を確認のうえ、該当項目を参照							● 健康診断での心電図検査の指摘については健康診断検査項目の引受の目安「心電図検査」（P.73～P.75）を参照
期外収縮 上室性期外収縮 心室性期外収縮	現症/既往症	-	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
心房細動 心房粗動	現症	-	高割増/×	×	×	○	健/嘱心 ※1	■ 診断時期、治療内容、手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）の有無と術式、合併症の有無 ※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある ※2 手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）後、再発がない場合に限る ※3 心電図検査を含む健康診断結果提出要
	既往症 （手術あり） ※2	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～3年	割増	割増	×	○	健/嘱心 ※1	
		治後 3年～	○	○	○ ※3	○	健/嘱心 ※1	
発作性上室性頻拍	現症	-	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	■ 症状の有無、手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）の有無と術式 ※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある ※2 手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）後、再発がない場合に限る ※3 心電図検査を含む健康診断結果提出要
	既往症 （手術あり） ※2	治後 ～6ヶ月	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	
		治後 6ヶ月～	○	○	○ ※3	○	健/嘱心 ※1	
WPW症候群 LGL症候群	現症	-	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	■ 症状の有無、手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）の有無と術式 ※1 健康診断書扱の場合は、心電図検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる場合がある ※2 手術（心筋焼灼術・カテーテルアブレーション）後、再発がない場合に限る ※3 心電図検査を含む健康診断結果提出要
	既往症 （手術あり） ※2	治後 ～6ヶ月	割増～×	割増/×	×	○	健/嘱心 ※1	
		治後 6ヶ月～	○	○	○ ※3	○	健/嘱心 ※1	
大動脈瘤	現症/既往症	-	×	×	×	○	×	
大動脈解離	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
川崎病	現症 （治療中）	-	×	×	×	×	×	■ 入院・手術の有無、合併症の有無、後遺症の有無 ● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる ● 投薬治療中の場合や手術がある場合は全保種× ※1 経過観察頻度が1年ごと、もしくはそれ以上であるものに限る ※2 治療終了後とは、初期治療（投薬治療、入院など）が終了したことを指す ※3 医療証明書が必要となる可能性が高い
	治療終了 ※1	治療終了後 ～5年 ※2	×	×	×	○	×	
		治療終了後 5年～ ※2	○～×	○～×	○/×	○	規 ※3	
	既往症	治療終了後 ～5年 ※2	×	×	×	○	×	
		治療終了後 5年～ ※2	○～×	○～×	○/×	○	規 ※3	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
脳梗塞 ラクナ梗塞	～39歳	診断後 ～5年	×	×	×	○	×	■ 診断時期、再発の有無、後遺症の有無、入院日数 ● 健康診断結果で糖代謝（「HbA1c」または「空腹時血糖値」）や脂質の検査項目が確認できる場合は、本目安の範囲内で評価が緩和される可能性がある ● 高血糖や腎機能（「尿蛋白」または「クレアチニン」）異常が認められる場合は厳しい評価となる ● 再発がある場合や後遺症がある場合は厳しい評価となる ● 糖尿病の治療歴がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合や厳しい評価となる場合がある ※1 長生き支援終身、特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則は×
		診断後 5年～	高割増/×	×	×	○	規	
	40～49歳	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1～7年	高割増/×	×	×	○	規	
		診断後 7～10年	割増～× ※1	×	×	○	規	
		診断後 10年～	割増～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増/× Ⅲ型: ×	×	○	規	
	50歳～	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1～7年	割増～× ※1	×	×	○	規	
		診断後 7年～	割増～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増/× Ⅲ型: ×	×	○	規	
脳出血	～49歳	診断後 ～5年	×	×	×	○	×	■ 診断時期、再発の有無、後遺症の有無、入院日数 ● 再発がある場合や後遺症がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ※1 医療証明書が必要となる場合がある
		診断後 5年～	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	
	50歳～	診断後 ～1年	×	×	×	○	×	
		診断後 1年～	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	
クモ膜下出血（外傷性は除く） 脳動脈瘤 脳動静脈瘻	現症 （手術なし）	-	×	×	×	○	×	■ 診断時期、再発の有無、治療内容（手術の有無）、後遺症の有無 ● 再発がある場合や後遺症がある場合は厳しい評価となる ※1 医療証明書が必要となる場合がある
	既往症 （手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1～5年	割増	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	健/嘱 ※1	
		治後 5年～	○	○	×	○	健/嘱	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
てんかん	現症（～18歳）	-	×	×	×	×	×	■ 診断時期、最終発作時期、治療内容 ● 入院・手術がある場合や治療内容・経過・職種などによっては厳しい評価となる ● 診断後1年未満の場合は全保種× ※1 医療証明書が必要となる場合がある ※2 最終発作後とは、最後に発作（症状）が出た時期からの経過期間を指す
	既往症（～18歳）	治後 ～2年	×	×	×	×	×	
		治後 2年～	割増	割増	×	○	規 ※1	
	現症（19歳～）	最終発作後 ～2年 ※2	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	
		最終発作後 2年～ ※2	割増	割増	×	○	規 ※1	
	既往症（19歳～）	治後 ～1年	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	
		治後 1～5年	割増	割増	×	○	規 ※1	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
熱性けいれん	現症	-	×	×	×	×	×	■ 入院の有無 ● 入院がある場合、6歳以降に治療がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
ギランバレー症候群 多発性神経根炎 フィッシャー症候群	現症	-	×	×	×	×	×	■ 後遺症の有無 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 6ヶ月～2年	削減	○	○	○	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
顔面神経痛 顔面神経麻痺 三叉神経痛 ベル麻痺	現症（治療中）	-	×	×	×	×	×	■ 原因（判明している場合）、発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、入院の有無、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 入院がある場合は厳しい評価となる ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
	現症（経過観察中） ※1	-	削減	×	○	×	規	
	既往症	治後 ～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
ナルコレプシー	現症	-	割増	割増	×	○	規	● 入院・手術がある場合や治療内容・経過・職種などによっては厳しい評価となる
	既往症	治後 ～5年	割増	割増	×	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
不眠症	現症 （～49歳）	診断後 ～6ヶ月	割増+削減 ～× ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増/× Ⅲ型: ×	×	○	規	■ 投薬名、受診医療機関名、入院の有無、就業・就学不能の有無 ● 投薬名、投薬数など、治療内容によっては厳しい評価となる ● 入院がある場合や休職・休学がある場合は×（がん保険の場合を除く） ※1 長生き支援終身は× ※2 投薬1剤以内の場合は○となる可能性がある。ただし、投薬名から不眠症以外の疾患が疑われる場合は、厳しい評価となる ※3 長生き支援終身は×となる場合がある ※4 投薬2剤以内の場合は○となる可能性がある。ただし、投薬名から不眠症以外の疾患が疑われる場合は、厳しい評価となる
		診断後 6ヶ月～1年	割増+削減 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	規	
		診断後 1年～	○～ 割増+削減 ※2※3	Ⅰ型: ○～× Ⅱ型: ○/割増 Ⅲ型: ○～× ※2	○/× ※2	○	規	
	現症 （50歳～）	診断後 ～6ヶ月	割増+削減 ～× ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増/× Ⅲ型: ×	×	○	規	
		診断後 6ヶ月～	○ ※3	Ⅰ型: ○/× Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ○/× ※4	○/× ※4	○	規	
	既往症 （～49歳）	治後 ～3年	○～ 割増+削減 ※2	○/割増 ※2	○/× ※2	○	規	
		治後 3～5年	○/削減 ※2	○	○/× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （50歳～）	治後 ～5年	○	○	○/× ※4	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
自律神経失調症	現症（～49歳）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	■ 投薬名、受診医療機関名、入院の有無、就業・就学不能の有無 ● 投薬名、投薬数など、治療内容によっては厳しい評価となる ● 18歳以下の場合や入院がある場合、休職・休学がある場合は×（がん保険の場合を除く） ※1 長生き支援終身は× ※2 治療期間6ヶ月以内かつ投薬1剤以内で完治した場合は○となる可能性がある。ただし、投薬名によっては厳しい評価となる
		診断後 6ヶ月～	割増+削減 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	規	
	現症（50歳～）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～	○ ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	×	○	規	
	既往症（～49歳）	治後 ～1年	割増+削減	割増	×	○	規	
		治後 1～3年	割増+削減 ※2	割増 ※2	× ※2	○	規	
		治後 3～5年	削減 ※2	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1～5年	○	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
うつ病 適応障害	現症（～49歳）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	■ 投薬名、受診医療機関名、入院の有無、就業・就学不能の有無 ● 投薬名、投薬数など、治療内容によっては厳しい評価となる ● 18歳以下の場合や入院がある場合、休職・休学がある場合は×（がん保険の場合を除く） ※1 長生き支援終身は× ※2 治療期間6ヶ月以内かつ投薬1剤以内で完治した場合は○となる可能性がある。ただし、投薬名によっては厳しい評価となる
		診断後 6ヶ月～	割増+削減 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	規	
	現症（50歳～）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～	○ ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	×	○	規	
	既往症（～49歳）	治後 ～1年	割増+削減	割増	×	○	規	
		治後 1～3年	割増+削減 ※2	割増 ※2	× ※2	○	規	
		治後 3～5年	削減 ※2	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1～5年	○	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
神経症 ノイローゼ 神経症性障害 不安障害 パニック障害 強迫性障害	現症 （～49歳）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	■ 投薬名、受診医療機関名、入院の有無、就業・就学不能の有無 ● 投薬名、投薬数など、治療内容によっては厳しい評価となる ● 18歳以下の場合や入院がある場合、休職・休学がある場合は×（がん保険の場合を除く） ※1 長生き支援終身は× ※2 治療期間6ヶ月以内かつ投薬1剤以内で完治した場合は○となる可能性がある。ただし、投薬名によっては厳しい評価となる
		診断後 6ヶ月～	割増+削減 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	規	
	現症 （50歳～）	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		診断後 6ヶ月～	○ ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	×	○	規	
	既往症 （～49歳）	治後 ～1年	割増+削減	割増	×	○	規	
		治後 1～3年	割増+削減 ※2	割増 ※2	× ※2	○	規	
		治後 3～5年	削減 ※2	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （50歳～）	治後 ～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1～5年	○	○	× ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
摂食障害	現症/既往症	-	×	×	×	○	×	
躁うつ病 躁病 双極性障害	現症/既往症	-	×	×	×	○	×	
統合失調症	現症	-	×	×	×	○/×	×	
	既往症	-	×	×	×	○	×	
アルコール依存症 慢性アルコール中毒 多発性硬化症 筋萎縮性側索硬化症 パーキンソン病 アルツハイマー病 認知症 脳萎縮 筋ジストロフィー症 進行性筋ジストロフィー症 ハンチントン舞踏病 遺伝性進行性舞踏病 重症筋無力症	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
急性気管支炎 気管支炎（急性）	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間、完治の有無と完治時期 ● 入院がある場合は厳しい評価となる場合がある
	既往症	-	○	○	○	○	規	
扁桃炎（急性） 扁桃周囲膿瘍 扁桃周囲炎 慢性扁桃炎 扁桃炎（慢性） 扁桃肥大	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
咽頭炎 喉頭炎 急性咽頭炎 急性喉頭炎	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
肺炎 気管支肺炎 急性肺炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間 ● 治療期間が長期となる場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
細菌性肺炎 マイコプラズマ肺炎 マイコプラズマ感染症	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間 ● 治療期間が長期となる場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
間質性肺炎	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
肺結核	現症	-	×	×	×	○	×	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症 （手術なし）	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～2年	削減	○	○	○	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1～3年	削減	○	○	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肺MAC症 非結核性抗酸菌症 非定型抗酸菌症	現症/既往症	～69歳	割増	割増	×	○	規	■ 入院・手術の有無 ● 入院や手術がある場合、呼吸器疾患の合併症がある場合は厳しい評価となる
		70歳～	割増+削減	割増	×	○	規	
RSウイルス感染症	現症	-	×	×	×	×	×	● 治療期間が長期となる場合や入院がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
新型コロナウイルス感染症 コロナ陽性	現症	-	×	×	×	×	×	■ 入院期間、完治の有無と完治時期 ● 合併症、後遺症がある場合や、入院期間が3週間以上となる場合は厳しい評価となる ※1 医療機関への入院がある場合に限る（自宅療養、施設療養は含まない）
	既往症 （入院なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （入院あり） ※1	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	規	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
肺嚢胞 ブラ	現症 （手術なし・経過観察中）	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無、入院期間 ● 治療中の場合は厳しい評価となる ● 大きさや個数、手術内容、入院日数によっては厳しい評価となる ※1 医療証明書が必要となる場合がある
	現症 （手術あり）	-	×	×	×	×	×	
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり・～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり・50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3ヶ月～	○/削減	×	×	×	規 ※1	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
気管支喘息 喘息	現症/既往症	～6歳	○	○	×	○	規	■「追加告知書（ぜんそく専用）」が必要（がん保険単品の場合を除く） ● 経口ステロイドの処方、入院、就学・就業不能、救急搬送のいずれかがある場合は厳しい評価となる可能性が高い ● 発作の頻度によっては厳しい評価となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		7～54歳	○	○	○	○	規	
		55歳～	割増	割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
咳喘息	現症	～6歳	○	○	×	○	規	● 経口ステロイドの処方、入院、就学・就業不能、救急搬送のいずれかがある場合は「追加告知書（ぜんそく専用）」が必要となったり、厳しい評価となる可能性が高い ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		7～54歳	○	○	○	○	規	
		55歳～	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	規	
	既往症	～6歳	○	○	○ 【★】 ※1	○	規	
		7～54歳	○	○	○	○	規	
		55歳～	○	○	○ 【★】 ※1	○	規	
慢性閉塞性肺疾患 COPD 慢性気管支炎 気管支炎（慢性） 肺気腫	現症/既往症	-	高割増/×	×	×	×	健/嘱 ※1	■ 診断時期、治療内容、症状の程度 ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
気管支拡張症	現症/既往症 （手術なし）	-	割増～×	割増/×	×	○	規	■ 手術の有無と術式、治療内容 ● 喫煙している場合、手術がある場合、合併症・後遺症がある場合は厳しい評価となる場合がある

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
睡眠時無呼吸症候群	現症 （治療中） ※1	-	○	○	○ 【★】 ※2※3	○	規	■ 治療期間、手術の有無、直近12ヶ月以内の血圧値（「最大血圧値」と「最小血圧値」、測定年月、測定医療機関名の全てを告知のこと） ※1 「CPAP」や「マウスピース」による治療を含む ※2 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細は ii ページ参照） ※3 高血圧（最大血圧140mmHg以上または最小血圧90mmHg以上）、肥満（BMI30以上）が認められる場合は× ※4 口蓋垂口蓋咽頭形成術を受けた場合に限る
	現症 （無治療・経過観察中）	-	割増	割増	×	○	規	
	既往症 （手術なし）	治後 ～2年	割増	割増	×	○	規	
		治後 2～5年	割増	割増	○ 【★】 ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり） ※4	治後 ～1年	割増	割増	×	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
気胸 自然気胸 肺気胸	現症	-	×	×	×	×	×	● 肺気腫・慢性気管支炎などが原因である場合（続発性自然気胸）、両側の場合などは厳しい評価となる ● 外傷によるものである場合は「外傷性気胸」の目安を確認する
	既往症 （発症年齢 ～49歳）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （発症年齢 50歳～）	-	高割増/×	×	×	×	健/嘱	
外傷性気胸	現症	-	×	×	×	○	×	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
かぜ（感冒） 急性上気道炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間、完治の有無と完治時期 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
インフルエンザ	現症	-	×	×	×	○	×	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
おたふくかぜ 流行性耳下腺炎	現症	-	×	×	×	○	×	
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
髄膜炎 ウイルス性髄膜炎 無菌性髄膜炎 細菌性髄膜炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 合併症、後遺症の有無 ● 合併症、後遺症がある場合や、治療期間が長期となる場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
日本脳炎 ウイルス性脳炎 嗜眠性脳炎 エコノモ脳炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 合併症、後遺症の有無 ● 合併症、後遺症がある場合や、治療期間が長期となる場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	○	×	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
はしか 麻疹 風疹 伝染性紅斑 りんご病	現症	-	×	×	×	○	×	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
泉熱	現症	-	×	×	×	○	×	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
クラミジア	現症	-	×	×	×	○	×	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
ウイルス性胃腸炎 感染性胃腸炎 急性胃腸炎	現症	-	×	×	×	○/×	×	■ 治療期間、入院の有無 ● 治療期間が長期となる場合、入院がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
胃炎 急性胃炎 慢性胃炎 神経性胃炎 びらん性胃炎 胃カタル 胃酸過多 胃下垂 胃アトニー	現症	通院開始後 ～3ヶ月	削減	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる ● 萎縮性胃炎を認め、ピロリ菌陽性（未除菌）の場合は厳しい評価となる
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
ヘリコバクター・ピロリ菌 ピロリ菌	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
胃潰瘍 十二指腸潰瘍	現症	通院開始後 ～3ヶ月	○	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
逆流性食道炎 胃食道逆流症 GERD	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
食道静脈瘤	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
胃静脈瘤 腹部静脈瘤	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
食道裂孔ヘルニア	現症	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
憩室症（咽頭/食道） 憩室炎（咽頭/食道） 食道憩室症 食道憩室炎 咽頭食道憩室症 咽頭食道憩室炎	現症	-	削減	○	○	○	規	■ 部位、手術の有無
	既往症（手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
憩室症（胃/十二指腸） 憩室炎（胃/十二指腸） 胃憩室症 胃憩室炎 十二指腸憩室症 十二指腸憩室炎	現症	-	削減	○	○	○	規	■ 部位、手術の有無
	既往症（手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
憩室症（大腸/小腸） 憩室炎（大腸/小腸） 大腸憩室症 大腸憩室炎 小腸憩室症 小腸憩室炎 メッケル憩室症 メッケル憩室炎	現症	-	削減	○	○	○	規	■ 部位、手術の有無 ● 複数回の入院がある場合や、重症が想定される場合は厳しい評価となる
	既往症（手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
腹膜炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 手術の有無 ● 原因が判明している場合はその評価も考慮される ● 合併症がある場合、再発がある場合は厳しい評価となる
	既往症（手術なし）	治後 ～1年	削減	○	×	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
虫垂炎 盲腸	現症	-	×	×	×	○	×	■ 手術の有無
	既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
腸重積 腸捻転	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
腸閉塞 イレウス	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
過敏性大腸炎 過敏性腸症候群	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 治療内容、入院の有無 ● 入院がある場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
クローン病	現症/既往症 ※1	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	■ 治療内容、手術の有無、合併症の有無 ● 治療内容・経過などによっては厳しい評価となる ※1 入院・手術がない場合に限る ※2 医療証明書が必要となる場合がある
		診断後 6ヶ月～	高割増/×	×	×	×	健/嘱 ※2	
潰瘍性大腸炎	現症/既往症 ※1	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	■ 治療内容、入院の有無、手術の有無と術式（大腸全摘術/大腸部分摘出術） ● 治療内容・経過などによっては厳しい評価となる ※1 入院・手術がない場合に限る ※2 医療証明書が必要となる場合がある
		診断後 6ヶ月～5年	割増	×	×	×	規 ※2	
		診断後 5年～	割増	割増+ 部位不 9番 全期間	部位不 9番 全期間	部位不 9番 全期間	規 ※2	
鼠径ヘルニア 大腿ヘルニア 陰嚢ヘルニア 脱腸	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、手術の有無

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
痔 痔核 内痔核 いぼ痔 痔裂 裂肛 脱肛 肛門周囲膿瘍 肛門周囲炎 外痔核 痔ろう	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無
膵炎（急性） 急性膵炎 膵膿瘍	現症	-	×	×	×	×	×	■ 原因、再発の有無 ● 治療期間が6ヶ月以上の場合、アルコールが原因の場合、糖尿病を合併している場合、2回以上発症した場合は全保種× ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ※1 治後の肝機能検査を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は治後の肝機能検査を含むものに限る。医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1～2年	削減	部位不 13番 5年	○ ※1	部位不 13番 5年 ※1	健/嘱血 ※2	
		治後 2～4年	削減	部位不 13番 3年	○ ※1	部位不 13番 3年 ※1	健/嘱血 ※2	
		治後 4～5年	削減	○	○ ※1	○ ※1	健/嘱血 ※2	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
膵炎（慢性） 慢性膵炎	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
膵嚢胞	現症	-	×	×	×	×	×	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肝臓病	肝臓に生じる病気の総称。正式診断名を確認のうえ、該当項目を参照							
肝機能障害	現症	-	割増～× ※1	割増/× ※1	×	○/×	健/嘱血	■ 原因、精密検査結果、投薬名を含む治療内容 ● 肝機能検査を含む健康診断結果または血液検査結果の提出要 ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症	-	○～× ※1	○～× ※1	×	○/×	健/嘱血	
脂肪肝	現症 （経過観察中） ※1	-	○	○	○	○	健/嘱血	■ 治療内容、合併症の有無 ● 生検を行っている場合は医療証明書が必要となる場合がある ● 投薬治療中の場合、入院・手術がある場合、肝炎の診断を受けている場合は厳しい評価となる場合がある ● 肝機能数値・脂質数値を含む健康診断結果または血液検査結果の提出要 ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
	既往症	-	○	○	○	○	健/嘱血	
急性肝炎	主に肝炎ウイルスの感染が原因で、急性の肝機能障害を呈する病気の総称。正式診断名（急性A型肝炎、急性B型肝炎など）を確認のうえ、該当項目を参照							
急性A型肝炎 A型肝炎	現症	-	×	×	×	×	×	※1 治後の肝機能検査を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は、治後の肝機能検査を含むものに限る
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○	○	○ ※1	○	健/嘱血 ※2	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
伝染性単核球症 EBウイルス感染症 EBウイルス肝炎	現症	-	×	×	×	×	×	※1 治後の肝機能検査を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は、治後の肝機能検査を含むものに限る
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○	○	○ ※1	○	健/嘱血 ※2	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
B型肝炎ウイルスキャリア HBVキャリア	-	-	割増～× ※1	×	×	×	健/嘱血 ※2	※1 肝炎の治療歴がある場合や肝機能異常がある場合は× ※2 健康診断書扱の場合は、肝機能検査を含むものに限る。また、医療証明書やウイルスマーカーを含む血液検査結果の提出が必要となる場合がある
急性B型肝炎 B型肝炎（急性）	現症	-	×	×	×	×	×	※1 治療期間が6ヶ月未満で再発がない場合に限る ※2 治後の肝機能検査を含む健康診断結果提出要 ※3 健康診断書扱の場合は、治後の肝機能検査を含むものに限る。また、医療証明書やウイルスマーカーを含む血液検査結果の提出が必要となる場合がある
	既往症 ※1	治後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 6ヶ月～2年	○	○	○ ※2	○ ※2	健/嘱血 ※3	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
慢性B型肝炎 B型肝炎（慢性）	現症	-	×	×	×	×	×	※1 健康診断書扱の場合は、治後の肝機能検査を含むものに限る。また、医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症	-	高割増/×	×	×	×	健/嘱血 ※1	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
C型肝炎	現症	-	×	×	×	×	×	※1 健康診断書扱の場合は、治後の肝機能検査を含むものに限る。また、医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症	-	高割増/×	×	×	×	健/嘱血 ※1	
慢性肝炎 アルコール性慢性肝炎	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
肝硬変	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
胆石症 胆嚢結石 胆管結石 総胆管結石	現症	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無と術式（体外衝撃波結石破砕術/胆石除去術/胆嚢摘出術） ● 肝内結石の場合は厳しい評価となる
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （胆嚢摘出術）	治後 ～3ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症 （体外衝撃波結石破砕術/胆石除去術）	-	○	○	○	○	規	
胆管炎 胆道炎 胆嚢炎	現症	-	×	×	×	×	×	■ 手術の有無と術式（胆嚢ドレナージ/胆管ドレナージ/胆嚢摘出術）
	既往症 （手術なし）	治後 ～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （胆嚢ドレナージ/胆管ドレナージ）	治後 ～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （胆嚢摘出術）	治後 ～3ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
先天性胆道拡張症 膵胆管合流異常 総胆管拡張症	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
腎臓病	腎臓の糸球体や尿細管が冒されることで急性または慢性に生じる、腎臓の機能が低下する病気の総称。正式診断名（IgA腎症、慢性糸球体腎炎、嚢胞腎など）を確認のうえ、該当項目を参照							
腎結石 尿路結石 尿管結石 膀胱結石 尿道結石	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 開腹手術の場合、尿検査（尿蛋白、尿潜血）に異常がある場合は厳しい評価となる
尿路感染症	腎臓から尿道まで尿の通り道となる尿路に細菌やウイルス等が感染し、炎症をおこしたものの総称。正式診断名（膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎など）を確認のうえ、該当項目を参照							
膀胱炎 尿道炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 治療期間が長い場合、入院がある場合、慢性膀胱炎・間質性膀胱炎などの診断を受けている場合は厳しい評価となる
腎盂炎 腎盂腎炎	現症 （治療中）	-	×	×	×	×	×	● 血圧値や尿検査（尿蛋白、尿潜血）、腎機能に異常がある場合は厳しい評価となる ※1 急性期治療（投薬治療）終了後、症状がなく経過観察の場合に限る
	治療終了 ※1	-	×	×	×	○	×	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
腎膿瘍 腎周囲膿瘍	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1～3年	削減	○	○	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
腎炎（急性） 急性腎炎	現症	-	×	×	×	×	×	● 再発がある場合、血圧値や尿検査（尿蛋白、尿潜血）に異常がある場合は厳しい評価となる ※1 治後の血圧値、尿検査（尿蛋白、尿潜血）を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白、尿潜血）を含むものに限る
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3ヶ月～1年	削減	○	○ ※1	○	健/嘱 ※2	
		治後 1～2年	○	○	○ ※1	○	健/嘱 ※2	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
腎炎（慢性） 慢性腎炎 慢性糸球体腎炎 IgA腎症 ネフローゼ症候群	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間、治療内容 ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1年～	高割増/×	×	×	×	健/嘱 ※1	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
腎不全（慢性） 慢性腎不全	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
嚢胞腎 多発性腎嚢胞	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
腎ドナー 腎生体提供者	現症	-	×	×	×	×	×	※1 臓器提供後の血圧値、尿検査（尿蛋白、尿潜血）を含む健康診断結果提出要 ※2 健康診断書扱の場合は、臓器提供後の血圧値、尿検査（尿蛋白、尿潜血）を含むものに限る
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3ヶ月～2年	○	○	○ ※1	○	健/嘱 ※2	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
水腎症	既往症	治後 ～3ヶ月	割増	割増	×	○	規	● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 健康診断結果の提出が必要となる場合がある
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
停留睾丸 停留精巣	現症	-	割増	×	×	×	規	■ 手術の有無
	既往症 （～14歳）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （15歳～）	治後 ～5年	割増	×	×	×	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
尿膜管遺残	現症 （治療中）	-	×	×	×	○	×	■ 手術の有無 ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
	現症 （経過観察中） ※1	-	○	○	×	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
前立腺炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
前立腺肥大	現症	診断後 ～6ヶ月	削減	部位不 17番 5年	○	部位不 17番 5年	規	■ 指摘年月、手術の有無 ● 前立腺生検を行っている場合、PSA検査で高値であった場合、開腹手術をしている場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
		診断後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	術後 ～3ヶ月	○	部位不 17番 5年	○	部位不 17番 5年	規	
		術後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
睾丸炎 副睾丸炎	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
陰嚢水腫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
過活動膀胱	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 入院・手術がある場合は厳しい評価となる
精索静脈瘤	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
緑内障 高眼圧症	現症 （手術なし）	通院開始後 ～2年	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	■ 治療期間、通院頻度、手術の有無、治療内容、左右それぞれの矯正視力 ● 視力障害や視野障害がある場合は厳しい評価となる ※1 視力障害や視野障害がない場合に限り、マーケットリンクは○ ※2 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×
		通院開始後 2年～ （６ヶ月に１回以上の頻度で継続的に通院がある場合）	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 1番 全期間 ※2	○	規	
		通院開始後 2年～ （上記以外）	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	
	現症 （手術あり）	-	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	
	既往症 （手術あり）	治後 ～2年	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	
		治後 2～5年	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 1番 全期間 ※2	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
白内障	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 左右の別、手術の有無（ありの場合は左/右/両方）
網膜剥離 網膜裂孔	現症	手術後 点眼治療中/経過観察中 ※1	○	○	○	○	規	■ 原因（判明している場合）、左右の別、手術の有無（ありの場合は左/右/両方）、左右それぞれの矯正視力 ● 両眼の治療歴がある場合、再発がある場合、視力障害がある場合は厳しい評価となる ※1 レーザー光凝固術/強膜内陥術などの手術後に点眼治療もしくは経過観察をしている場合に限る
	既往症	-	○	○	○	○	規	
レーシック 視力回復手術	既往症 （手術あり）	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
弱視（片眼） 高度視力障害（片眼） 失明（片眼）	-	-	○ ※1	Ⅰ型: ○/× Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ○/×	○ ※1	○	規	■ 原因、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、左右それぞれの矯正視力、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその評価も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 長生き支援終身、重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×となる場合がある
弱視（両眼） 高度視力障害（両眼） 失明（両眼）	-	-	○/特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○/特障 Ⅲ型: ×	○/特障 ※1	○/特障	規	■ 原因、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、左右それぞれの矯正視力、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその評価も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 長生き支援終身、重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×
加齢黄斑変性 黄斑変性症	現症/既往症	-	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	※1 視力障害や視野障害がない場合に限り、マーケットリンクは○
網膜色素変性症	現症/既往症	-	特障	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	
中心性漿液性網脈絡膜症 中心性漿液性網脈絡膜炎 中心性網膜症 中心性網膜炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無 ● 手術後も治療を継続している場合は厳しい評価となる ● 両眼の治療歴がある場合、再発がある場合、視力障害がある場合は厳しい評価となる
結膜炎 アレルギー性結膜炎 カタル性結膜炎 細菌性結膜炎 流行性結膜炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
ぶどう膜炎 虹彩炎 虹彩毛様体炎 脈絡膜炎	現症	-	×	×	×	○/特障	×	■ 治療内容、原因（判明している場合）、左右の別、左右それぞれの矯正視力 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 再発がある場合、治療期間が1ヶ月を超える場合、視力障害がある場合、基礎疾患が疑われる場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
ドライアイ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院・手術の有無 ● 入院・手術がある場合や視力障害がある場合、基礎疾患が疑われる場合は厳しい評価となる
斜視	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 視力障害がある場合は厳しい評価となる
円錐角膜	現症	-	特障	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	規	■ 治療内容 ● 視力障害がある場合は厳しい評価となる
	既往症 （角膜移植あり）	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
眼瞼下垂	既往症 （手術あり）	-	○	○	○	○	規	■ 原因（判明している場合） ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 視力障害がある場合は厳しい評価となる
霰粒腫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
麦粒腫 ものもらい めばちこ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
翼状片	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
急性中耳炎 中耳炎（急性） 慢性中耳炎 中耳炎（慢性） 耳漏 乳様突起炎 乳嘴突起炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
真珠腫性中耳炎 中耳炎（真珠腫性） 滲出性中耳炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
外耳炎 外耳道炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
聴力障害（片耳） 難聴（片耳） 聴力障害（両耳） 難聴（両耳）	-	-	○	Ⅰ型: ○/× Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ○/×	○ ※1	○	規	■ 原因、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、聴力（デシベル）、補聴器使用の有無、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその評価も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×となる場合がある
突発性難聴	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 両耳の聴力障害がある等、重症が想定される場合は厳しい評価となる
メニエール病 メニエール症候群	現症	通院開始後 ～1年	削減	×	×	×	規	● 入院がある場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
		通院開始後 1年～	○	○	×	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
良性発作性頭位めまい症	現症	-	○	○	×	○	規	● 入院がある場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
鼻炎 アレルギー性鼻炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
花粉症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
鼻茸 鼻ポリープ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
鼻中隔弯曲症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
蓄膿症 慢性副鼻腔炎 副鼻腔炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
口唇裂 口蓋裂 口唇口蓋裂	現症 （手術なし）	-	×	×	×	○	×	■ 手術の有無 ● 合併症や後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症 （手術あり）	-	○	○	○	○	規	
顎骨嚢胞 歯根嚢胞 含歯性嚢胞	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
顎関節症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 顎変形症と診断されている場合は厳しい評価となる
虫歯	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
親知らず 埋伏智歯	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
唾石症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
ガマ腫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胃ポリープ	既往症 （内視鏡手術）	-	○	○	○	○	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術） ● 腹腔鏡手術、開腹手術をした場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 大きさ、入院日数によっては厳しい評価となる ● 胃ポリポージスの場合は全保種×
胃粘膜下腫瘍 胃SMT	現症 （手術なし・経過観察中） ※1	指摘後 ～1年	×	×	×	×	×	■ 指摘年月、手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術） ● 手術をした場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ※1 経過観察頻度が1年ごと、もしくはそれ以上であるものに限る
		指摘後 1～2年	削減	×	○	×	規	
		指摘後 2～3年	○	×	○	×	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
食道ポリープ	既往症 （内視鏡手術）	治後 ～1年	削減	部位不 7番 2年	○	部位不 7番 2年	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（内視鏡手術/胸腔鏡下手術/開胸術/開腹手術） ● 胸腔鏡下手術/開胸術/開腹手術をした場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
大腸ポリープ 結腸ポリープ S状結腸ポリープ 直腸ポリープ 大腸乳頭腫 直腸乳頭腫	既往症 （内視鏡手術）	治後 ～1年	○	部位不 9番 5年	○	部位不 9番 5年	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術） ● 腹腔鏡手術、開腹手術をした場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 大きさ、入院日数によっても厳しい評価となる ● 家族性ポリポージスの場合は全保種×
		治後 1年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胆嚢ポリープ	既往症 （腹腔鏡手術）	-	○	○	○	○	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（腹腔鏡手術/開腹手術） ● 開腹手術をした場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる
胆嚢腺筋腫症	既往症 （手術あり）	-	○	○	○	○	規	■ 指摘年月
子宮ポリープ 子宮内膜ポリープ	現症 （経過観察中） ※1	指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（子宮鏡手術/開腹手術/子宮全摘出術） ● 開腹手術・子宮全摘出術の場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
		指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （子宮鏡手術）	-	○	○	○	○	規	
子宮頸管ポリープ	現症 （経過観察中） ※1	指摘後 ～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式 ● 開腹手術・子宮全摘出術の場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	指摘後 ～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
声帯ポリープ 喉頭ポリープ	現症	指摘後 ～1年	削減	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	規	■ 指摘年月、手術の有無と術式（顕微鏡下手術/喉頭部分切除術/喉頭全摘出術） ● 喉頭部分切除術、喉頭全摘出術の場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる
		指摘後 1～3年	○	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	指摘後 ～1年	削減	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	規	
		指摘後 1～3年	○	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （顕微鏡下手術）	-	○	○	○	○	規	
大腸癌 直腸癌 結腸癌 S状結腸癌	治療終了 （内視鏡手術のみ）	治療終了後 ～6年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指す ※2 上記以外とは、内視鏡手術以外の術式や手術以外の治療歴がある場合を指す
		治療終了後 6～10年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （上記以外） ※2	治療終了後 ～4年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 4～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
大腸粘膜内癌（上皮内癌含む） 直腸粘膜内癌 結腸粘膜内癌 S状結腸粘膜内癌	治療終了 （内視鏡手術のみ） ※1	治療終了後 ～1年 ※2	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 複数回切除をしている場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 内視鏡手術以外の術式や手術以外の治療歴がある場合は「大腸癌」の目安を確認する ※2 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指す ※3 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照） ※4 異動の場合は注意が必要 ※5 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません
		治療終了後 1～2年 ※2	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 2～4年 ※2	○	×	○ 【★】 ※3	○ ※4※5	規	
		治療終了後 4年～ ※2	○	×	○	○ ※4※5	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胃癌 胃上皮内癌 胃粘膜内癌	治療終了 （内視鏡手術のみ）	治療終了後 ～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指す ※2 上記以外とは、内視鏡手術以外の術式や手術以外の治療歴がある場合を指す
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （上記以外） ※2	治療終了後 ～5年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 5～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
乳癌	治療終了 （手術あり かつ 抗がん剤治療なし） ※1	治療終了後 ～10年 ※2	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、抗がん剤治療の有無、手術・抗がん剤治療以外の治療内容（放射線療法、ホルモン療法など）、治療終了年月、経過観察やホルモン療法が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ※1 放射線療法やホルモン療法がある場合も適用 ※2 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指し、ホルモン療法は含まない ※3 医療証明書が必要となる可能性が高い
		治療終了後 10年～ ※2	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （手術あり かつ 抗がん剤治療あり） ※1	治療終了後 ～2年 ※2	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 2～4年 ※2	高割増+ 削減/×	×	×	× (罹患歴有)	健/嘱 ※3	
		治療終了後 4～15年 ※2	割増+削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 15年～ ※2	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
乳房非浸潤癌 乳房上皮内癌	治療終了 （手術あり かつ 抗がん剤治療なし） ※1	治療終了後 ～2年 ※2	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、抗がん剤治療の有無、手術・抗がん剤治療以外の治療内容（放射線療法、ホルモン療法など）、治療終了年月、経過観察やホルモン療法が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 複数回切除をしている場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ※1 放射線療法やホルモン療法がある場合も適用 ※2 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法などの治療が終了したことを指し、ホルモン療法は含まない ※3 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照） ※4 異動の場合、女性疾病保障特約、特定治療支援特約については、「がん」の欄が「部位不」であってもお引受けできません ※5 異動の場合は注意が必要 ※6 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません
		治療終了後 2～4年 ※2	削減	×	○ 【★】 ※3	部位不 19番 2年 ※4	規	
		治療終了後 4～5年 ※2	○	×	○	部位不 19番 2年 ※4	規	
		治療終了後 5年～ ※2	○	×	○	○ ※5※6	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮頸癌	治療終了 （円錐切除術のみ）	治療終了後 ～1年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式（円錐切除術/子宮全摘出術）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指す ※2 上記以外とは、円錐切除術以外の術式や手術以外の治療歴がある場合を指す
		治療終了後 1～7年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （上記以外） ※2	治療終了後 ～6年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 6～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
子宮頸部上皮内癌	治療終了 （円錐切除術のみ） ※1	治療終了後 ～1年 ※2	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式（円錐切除術/子宮全摘出術）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 複数回切除をしている場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ※1 円錐切除術以外の術式や手術以外の治療歴がある場合は「子宮頸癌」の目安を確認する ※2 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指す ※3 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照） ※4 異動の場合は注意が必要 ※5 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません
		治療終了後 1～2年 ※2	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 2～3年 ※2	○	×	○ 【★】 ※3	○ ※4※5	規	
		治療終了後 3年～ ※2	○	×	○	○ ※4※5	規	
甲状腺癌	治療終了 （手術のみ）	治療終了後 ～5年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 手術以外の治療歴がある場合、再発や転移がある場合、手術なしの場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指し、甲状腺摘出手術に伴うホルモン補充療法は含まない
		治療終了後 5～7年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮体癌	治療終了 （手術のみ）	治療終了後 ～5年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療、ホルモン療法など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合、子宮を摘出していない場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療、ホルモン療法などの治療が終了したことを指す ※2 上記以外とは、子宮を摘出していることに加え、手術以外の治療歴（放射線療法、抗がん剤治療、ホルモン療法など）がある場合を指す
		治療終了後 5～7年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （上記以外） ※2	治療終了後 ～4年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 4～8年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 8年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
前立腺癌	治療終了 （手術のみ または 放射線療法のみ）	治療終了後 ～1年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、抗がん剤治療の有無、手術・抗がん剤治療以外の治療内容（放射線療法、ホルモン療法など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 抗がん剤治療がある場合、再発・転移がある場合、治療をしていない場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、ホルモン療法などの治療が終了したことを指す ※2 上記以外には、抗がん剤治療ありの場合は含まない
		治療終了後 1～7年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （上記以外） ※2	治療終了後 ～6年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 6～7年 ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
肺癌	治療終了 （手術のみ）	治療終了後 ～2年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、喫煙している場合、手術なしの場合、手術と抗がん剤治療以外の治療歴がある場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 2～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （手術+抗がん剤治療のみ）	治療終了後 ～6年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 6～13年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 13年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
膀胱癌	治療終了 （内視鏡手術のみ）	治療終了後 ～2年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術）、手術以外の治療内容（放射線療法、全身抗がん剤治療〔経口・点滴〕、抗がん剤膀胱内注入療法、BCG膀胱内注入療法など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合、手術・抗がん剤膀胱内注入療法・BCG膀胱内注入療法以外の治療歴がある場合、尿潜血の所見がある場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術、抗がん剤膀胱内注入療法、BCG膀胱内注入療法などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 2～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （内視鏡手術+抗がん剤膀胱内注入療法のみまたは 内視鏡手術+BCG膀胱内注入療法のみ）	治療終了後 ～2年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 2～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
	治療終了 （腹腔鏡/開腹手術のみ）	治療終了後 ～5年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 5～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
膀胱上皮内癌	治療終了	治療終了後 ～5年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 手術の有無と術式（内視鏡手術/腹腔鏡手術/開腹手術）、手術以外の治療内容（放射線療法、全身抗がん剤治療〔経口・点滴〕、抗がん剤膀胱内注入療法、BCG膀胱内注入療法など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、尿潜血の所見がある場合は厳しい評価となる ● 治療内容によっては厳しい評価となる場合がある ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療〔経口・点滴〕、抗がん剤膀胱内注入療法、BCG膀胱内注入療法などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 5～10年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 10年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
腎癌（腎臓癌）	治療終了（腹腔鏡/開腹による腎部分切除術のみ）	治療終了後 ～6年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無・術式と切除範囲（例：腹腔鏡・部分切除/開腹・部分切除/腹腔鏡・片腎全摘/開腹・片腎全摘など）、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合、腎部分切除術・片腎全摘術以外の治療歴がある場合、高血圧や腎機能異常の所見がある場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 6年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
	治療終了（腹腔鏡による片腎全摘術のみ）	治療終了後 ～2年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 2～8年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 8年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
	治療終了（開腹による片腎全摘術のみ）	治療終了後 ～5年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
		治療終了後 5～11年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 11年～ ※1	○	×	×	× (罹患歴有)	規	
皮膚腫瘍	皮膚にできる腫瘍の総称。正式診断名（粉瘤、脂肪腫、皮膚癌など）を確認のうえ、該当項目を参照							
皮膚癌（基底細胞癌） 皮膚癌（有棘細胞癌）	治療終了（手術のみ）	治療終了後 ～7年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 種類（基底細胞癌/有棘細胞癌/悪性黒色腫など）、手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 再発や転移がある場合、手術なしの場合、手術以外の治療歴がある場合は厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 7年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
皮膚癌（悪性黒色腫/メラノーマ） 皮膚癌（種類不明）	治療終了	治療終了後 ～10年 ※1	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 種類（基底細胞癌/有棘細胞癌/悪性黒色腫など）、手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ※1 治療終了後とは、入院、手術、放射線療法、抗がん剤治療などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 10年～ ※1	高割増/×	×	×	× (罹患歴有)	健/嘱	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
皮膚上皮内癌 表皮内癌 ボーエン病 日光角化症 乳房外パジェット病	治療終了 （手術のみ）	治療終了後 ～1年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	■ 手術の有無と術式、手術以外の治療内容（放射線療法、抗がん剤治療など）、治療終了年月、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある ● 複数回切除している場合、手術以外の治療歴がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院、手術などの治療が終了したことを指す
		治療終了後 1～2年 ※1	削減	×	○	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 2年～ ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
舌癌 喉頭癌 咽頭癌 肛門癌 膣癌 陰茎癌 悪性睾丸腫瘍（セミノーマ）	既往症	治後 ～5年	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 治療内容（手術方法、放射線療法、抗がん剤治療、ホルモン療法など）、治療終了年月（手術・放射線療法・抗がん剤治療・ホルモン療法などの治療が終了した年月）、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● 治療内容・経過により医療証明書が必要となる場合がある
		治後 5～10年	削減/×	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治後 10年～	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
食道癌 膵癌（膵臓癌） 胆嚢癌 胆管癌 卵巣癌 悪性リンパ腫 ホジキン病 非ホジキンリンパ腫 白血病 肉腫	既往症	治後 ～10年	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 治療内容（手術方法、放射線療法、抗がん剤治療、ホルモン療法など）、治療終了年月（手術・放射線療法・抗がん剤治療・ホルモン療法などの治療が終了した年月）、経過観察が終了した年月、入院期間、現在までの経過状況（再発の有無、検査内容・検査結果・検査頻度） ● これらの疾患については非常に引受が厳しいので注意を要する ● 診断から現在までの詳細な状況が把握できる医療証明書が必要
		治後 10年～	高割増/×	×	×	× (罹患歴有)	健/嘱	
肝癌（肝臓癌）	現症/既往症	-	×	×	×	× (罹患歴有)	×	
下垂体腺腫	現症	-	×	×	×	×	×	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
高脂血症 高コレステロール血症 高中性脂肪血症 脂質異常症	現症/既往症 （～34歳）	LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～189mg/dl （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～299mg/dl）かつ 中性脂肪 ～399mg/dl	○	○	○	○	規	■ 以下①～③の全てを告知のこと ＜現症の場合＞ ①直近12ヶ月以内の「LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値（LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値）」と「中性脂肪値」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ＜既往症の場合＞ ①直近の「LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値（LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値）」と「中性脂肪値」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● 入院がある場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる（医療保険は×） ● 健康診断結果の提出が必要となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細は ii ページ参照）
		LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 190mg/dl～ （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 300mg/dl～）または 中性脂肪 400mg/dl～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	現症/既往症 （35～54歳）	A. 以下の範囲内の場合 LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～189mg/dl （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～299mg/dl）かつ 中性脂肪 ～399mg/dl	○	○	○	○	規	
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～209mg/dl （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～349mg/dl）かつ 中性脂肪 ～399mg/dl	割増	割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 210mg/dl～ （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 350mg/dl～） または 中性脂肪 400mg/dl～	割増～×	割増/×	×	○	規	
	現症/既往症 （55歳～）	A. 以下の範囲内の場合 LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～189mg/dl （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～299mg/dl）かつ 中性脂肪 ～399mg/dl	○	○	○	○	規	
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～229mg/dl （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ ～399mg/dl）かつ 中性脂肪 ～599mg/dl	割増	割増	○/× 【★】 ※1	○	規	
		C. LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 230mg/dl～ （LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙがない場合は 総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ 400mg/dl～）または 中性脂肪 600mg/dl～	割増～×	割増/×	×	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
痛風 高尿酸血症	現症/既往症	尿酸値（UA） ～9.9mg/dl	○	○	○	○	規	■ 以下①～③の全てを告知のこと ＜現症の場合＞ ①直近12ヶ月以内の「尿酸値（UA）」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ＜既往症の場合＞ ①直近の「尿酸値（UA）」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● 入院がある場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる ● 健康診断結果の提出が必要となる場合がある
		尿酸値（UA） 10.0～10.9mg/dl	割増	割増	×	○	規	
		尿酸値（UA） 11.0mg/dl～	割増～×	割増/×	×	○	規	
糖尿病 耐糖能異常 境界型糖尿病	現症/既往症 （～49歳）	-	割増～× ※1	割増/× ※1	×	○/特障 ※2	健/嘱血	■ 治療期間、治療内容（内服治療/食事・運動療法/インスリン注射） ● 治療期間が長い場合、インスリン注射による治療がある場合、入院がある場合、合併症が疑われる場合は厳しい評価となる ● HbA1cまたは空腹時血糖値を含む健康診断結果または血液検査結果の提出要（がん保険単品の場合を除く） ※1 あわせて特定障害不担保法の特別条件が適用される場合もある ※2 30歳未満で治療を開始している場合は、特定障害不担保法の特別条件が適用される可能性が高い ※3 空腹時血糖値が141mg/dl以上の場合は割増 ※4 空腹時血糖値が141mg/dl以上の場合は× ※5 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
	現症/既往症 （50～59歳）	通院開始後 ～5年 かつ HbA1c ～7.0	○ ※3	○ ※3	×	○	健/嘱血	
		通院開始後 ～5年 かつ HbA1c 7.1～	割増～× ※1	割増/× ※1	×	○/特障	健/嘱血	
		通院開始後 5年～	割増～× ※1	割増/× ※1	×	○/特障 ※2	健/嘱血	
	現症/既往症 （60歳～）	通院開始後 ～5年 かつ HbA1c ～7.0	○ ※3	○ ※3	○ 【★】 ※4※5	○	健/嘱血	
		通院開始後 ～5年 かつ HbA1c 7.1～	割増～× ※1	割増/× ※1	○/× 【★】 ※4※5	○/特障	健/嘱血	
		通院開始後 5年～	割増～× ※1	割増/× ※1	×	○/特障 ※2	健/嘱血	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
貧血（鉄欠乏性貧血以外）	現症/既往症	-	○～× ※1	○～× ※1	○/×	○/×	健/嘱血	■ 原因（判明している場合）、投薬名を含む治療内容（治療ありの場合） ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）の急激な減少が見られる場合や、減少傾向がある場合は厳しい評価となる ● 男性の場合は厳しい評価となり、現症は全保種× ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）を含む健康診断結果または血液検査結果の提出要 ※1 医療証明書が必要となる場合がある
鉄欠乏性貧血	現症/既往症 （～49歳・女性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3g/dl～	○	○	○	○	規	■ 以下①～③の全てを告知のこと ＜現症の場合＞ ①直近12ヶ月以内の「ヘモグロビン（Hb/血色素量）」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ＜既往症の場合＞ ①直近の「ヘモグロビン（Hb/血色素量）」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）の急激な減少が見られる場合や、減少傾向がある場合は厳しい評価となる ● 男性の場合は厳しい評価となり、現症は全保種× ● 50歳以上の場合は、ヘモグロビン（Hb/血色素量）を含む健康診断結果または血液検査結果の提出要 ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細は ii ページ参照） ※2 医療証明書が必要となる場合がある
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 9.5～10.2g/dl	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	規	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 8.0～9.4g/dl	割増	×	×	×	規	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～7.9g/dl	×	×	×	×	×	
	現症/既往症 （50歳～・女性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 12.1g/dl～	○ ※2	○ ※2	○	○	健/嘱血	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3～12.0g/dl	割増 ※2	×	×	×	健/嘱血	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～10.2g/dl	×	×	×	×	×	
再生不良性貧血 不応性貧血 骨髄異形成症候群 悪性貧血	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
エイズ 後天性免疫不全症候群	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
アレルギー性紫斑病 血管性紫斑病 シェーンライン・ヘノッホ紫斑病 IgA血管炎	現症	-	×	×	×	×	×	※1 健康診断書扱の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白、尿潜血）を含むものに限る
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 6ヶ月～1年	削減	○	×	○	健/嘱 ※1	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
特発性血小板減少性紫斑病 血小板減少性紫斑病	現症	-	×	×	×	×	×	■ 治療内容、手術の有無（脾臓摘出の有無）、治療終了年月（投薬を含めた全ての治療が終了した年月）、現在までの経過（検査内容・検査結果・検査頻度） ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
	既往症 （脾臓摘出なし）	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1～5年	高割増/×	×	×	○	健/嘱血 ※1	
		治後 5年～	○/割増	○/割増	×	○	健/嘱血 ※1	
	既往症 （脾臓摘出あり）	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1～3年	割増	割増	×	○	健/嘱血 ※1	
		治後 3年～	○	○	○	○	健/嘱血 ※1	
真性多血症 真性赤血球増加症	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
血友病	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
原発性アルドステロン症 アルドステロン症	現症	-	×	×	×	×	×	
甲状腺機能亢進症 バセドウ病 グレーブス病	現症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	■ 治療期間、治療内容、手術の有無 ● 症状（頻脈・体重減少など）がある場合は、厳しい評価となる
	現症 （手術あり）	術後 ～1年	削減	×	○	×	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	術後 ～1年	削減	×	○	×	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	
先天性甲状腺機能低下症 クレチン症	現症/既往症 （～5歳）	-	×	×	×	×	×	■ 治療期間、治療内容、手術の有無 ● 合併症、後遺症、成長障害がある場合は厳しい評価となる
	現症/既往症 （6歳～）	-	○	○	○	○	規	
甲状腺機能低下症 橋本病 慢性甲状腺炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 治療期間、治療内容、手術の有無 ● 手術がある場合、症状（徐脈・血圧異常など）がある場合は厳しい評価となる ● 5歳以下より通院や治療を開始している場合は、「先天性甲状腺機能低下症・クレチン症」の目安を確認する

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
甲状腺腫 結節性甲状腺腫 腺腫様甲状腺腫 甲状腺過形成	現症 （手術なし・経過観察中） ※1	診断後 ～1年	削減	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	規	■ 指摘時期・指摘内容、指摘時の検査方法、精密検査の有無、精密検査方法・結果、症状の有無、経過観察の頻度 ● 細胞診検査または生検を受診している場合は、検査結果が必要となる可能性が高い。また厳しい評価となる場合がある ● 症状がある場合は厳しい評価となる場合がある ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ※1 経過観察頻度が6ヶ月ごと、もしくはそれ以上であるものに限る ※2 リンパ節郭清がある場合は厳しい評価となる
		診断後 1～3年	○	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	規	
		診断後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	治後 ～1年	削減	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	規	
		治後 1～3年	○	部位不 6番 2年	○	部位不 6番 2年	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり） ※2	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～1年	削減	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	規	
		治後 1～2年	○	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	規	
		治後 2～5年	○	部位不 6番 2年	○	部位不 6番 2年	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
高プロラクチン血症 乳汁漏出性無月経症候群 乳汁漏出症	現症	通院開始後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	■ 治療内容、検査内容・検査結果、原因（判明している場合） ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 男性の場合、入院がある場合は厳しい評価となる
		通院開始後 6ヶ月～1年	割増	×	×	×	規	
		通院開始後 1～2年	割増	割増	×	○	規	
		通院開始後 2年～	○	○	×	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
むちうち症 むちうち損傷 外傷性頚部症候群 頚椎捻挫 捻挫（頚椎）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
腰痛 ぎっくり腰	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
捻挫（腰部/腰椎） 腰部捻挫 腰椎捻挫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
捻挫（上肢/下肢） 上肢の捻挫 腕の捻挫 手の捻挫 下肢の捻挫 膝の捻挫 足の捻挫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別
打撲（胸部） 胸部打撲	現症	-	○	○	×	○	規	■ 入院の有無 ● 臓器の損傷がある場合、入院・手術がある場合、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
打撲（腰部） 腰部打撲	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 臓器の損傷がある場合、入院・手術がある場合、後遺症がある場合は厳しい評価となる
打撲（上肢/下肢） 上肢の打撲 腕の打撲 手の打撲 下肢の打撲 膝の打撲 足の打撲	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、入院の有無 ● 入院・手術がある場合、後遺症がある場合は厳しい評価となる
打撲（頭部） 頭部打撲 脳震盪	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、受傷原因 ● 入院・手術がある場合、受傷時に意識障害があった場合、後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
骨折（頭蓋骨） 頭蓋骨骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、受傷原因、入院の有無、手術の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症（手術なし）	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1～4年	削減	○	○	○	規	
		治後 4年～	○	○	○	○	規	
外傷性クモ膜下出血 クモ膜下出血（外傷性に限る）	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症（手術なし）	治後 ～1年	×	×	×	○	×	
		治後 1～4年	削減	○	○	○	規	
		治後 4年～	○	○	○	○	規	
急性硬膜外血腫 慢性硬膜外血腫	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
急性硬膜下血腫	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～2年	削減	○	○	○	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
慢性硬膜下血腫	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 後遺症がある場合は厳しい評価となったり、医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～2年	削減	○	○	○	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
顎骨骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、入院の有無、金属などの内固定具の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 眼窩損傷、眼球損傷、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
頬骨骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 眼窩損傷、眼球損傷、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
眼窩骨折 眼窩底骨折 ブローアウト骨折 （眼窩）吹き抜け骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
鼻骨骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 眼窩損傷、眼球損傷、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
骨折（鎖骨） 鎖骨骨折	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、金属などの内固定具の有無 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
骨折（上肢） 骨折（肩） 上肢骨折 肩の骨折 腕の骨折 手の骨折	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、金属などの内固定具の有無 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる
骨折（脊椎） 脊椎骨折 頸椎骨折 胸椎骨折 腰椎骨折 椎体骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、入院の有無、手術の有無、脊髄損傷の有無、金属などの内固定具の有無、後遺症の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 脊髄損傷もしくは後遺症がある場合はより厳しい評価となる
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
骨折（肋骨） 肋骨骨折	現症	-	○	○	×	○	規	■ 入院の有無 ● 合併症（気胸、血胸など）がある場合、入院がある場合、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
骨折（骨盤） 骨盤骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 金属などの内固定具の有無、後遺症の有無、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
骨折（下肢） 下肢骨折 膝の骨折 足の骨折	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、金属などの内固定具の有無 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる ● 股関節・大腿骨の骨折の場合は、「股関節骨折/大腿骨骨折」の目安を確認する
骨折（大腿骨） 骨折（股関節） 大腿骨骨折 股関節骨折	現症	-	×	×	×	○	×	■ 部位、左右の別、手術内容（固定術、人工骨頭置換術など）、金属などの内固定具の有無、後遺症の有無 ● 後遺症がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は× ※2 左の場合は「左股関節部（29番）」+「左下肢（33番）」、右の場合は「右股関節部（30番）」+「右下肢（34番）」、両側の場合は「両股関節（50番）」+「両下肢（52番）」の部位不担保となる
	既往症 （人工骨頭置換術なし）	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症 （人工骨頭置換術あり）	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※1※2	○	規	
半月板損傷	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 左右の別
アキレス腱断裂	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 左右の別
靭帯損傷 靭帯断裂	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（肘関節、手指関節、肩関節、膝関節、足関節など）、左右の別、金属などの内固定具の有無

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
脱臼	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（肘関節、手指関節、肩関節、膝関節、足関節など）、左右の別、金属などの内固定具の有無
変形性関節症（膝関節） 変形性関節症（股関節） 変形性膝関節症 変形性股関節症	現症 （手術なし・～49歳） ※1	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	○ ※2	○	規	■ 部位、左右の別、入院・手術の有無、手術をしている場合は術式（人工関節置換術など） ● 合併症がある場合、関節の著しい変形がある場合、可動域の制限がある場合、補助具（杖など）の使用がある場合は厳しい評価となる ※1 入院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※2 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は× ※3 該当部位の部位不担保となる（左下肢=33番、右下肢=34番、両下肢=52番、左股関節部=29番、右股関節部=30番、両股関節部=50番など） ※4 該当部位が股関節の場合、左の場合は「左股関節部（29番）」+「左下肢（33番）」、右の場合は「右股関節部（30番）」+「右下肢（34番）」、両側の場合は「両股関節（50番）」+「両下肢（52番）」の部位不担保となる
	現症 （手術なし・50歳～） ※1	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※3	○	規	
	現症 （人工関節置換術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※3※4	○	規	
	現症 （上記以外の手術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※3	○	規	
	既往症 （手術なし） ※1	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （人工関節置換術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※3※4	○	規	
	既往症 （上記以外の手術）	-	○	○	部位不 全期間 ※3	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
脊柱側弯症 脊柱弯曲症	現症/既往症 （手術なし） ※1	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無、合併症の有無 ● 合併症がある場合は厳しい評価となる ※1 現症については、治療がなく経過観察のみの場合に限る ※2 現症については、手術後に経過観察のみしている場合に限る
	現症/既往症 （手術あり） ※2	術後 ～1年	割増	割増	×	○	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	
ヘルニア	身体の中の一部が、本来あるべき場所から突出している状態。正式診断名（腰椎椎間板ヘルニア、鼠径ヘルニア、食道裂孔ヘルニアなど）を確認のうえ、該当項目を参照							
椎間板ヘルニア（頚椎） 頚椎椎間板ヘルニア 椎間板症（頚椎）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（頚椎）、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
椎間板ヘルニア（胸椎） 胸椎椎間板ヘルニア 椎間板症（胸椎）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（胸椎）、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
椎間板ヘルニア（腰椎） 腰椎椎間板ヘルニア 椎間板症（腰椎）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（腰椎）、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
脊柱管狭窄症（腰部） 腰部脊柱管狭窄症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（腰椎）、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる
変形性脊椎症（頚椎） 変形性頚椎症 頚椎症 頚椎症性神経根症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（頚椎） ● 入院日数によっては厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
変形性脊椎症（胸椎） 変形性胸椎症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（胸椎） ● 入院日数によっては厳しい評価となる
変形性脊椎症（腰椎） 変形性腰椎症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（腰椎） ● 入院日数によっては厳しい評価となる
脊椎分離症（腰椎） 腰椎分離症 腰椎すべり症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位（腰椎） ● 入院日数によっては厳しい評価となる
胸郭構造不良 鳩胸 漏斗胸	現症/既往症 （手術なし） ※1	-	○	○	○	○	規	■ 手術の有無、合併症の有無 ● 心肺の圧迫がある場合、合併症がある場合は厳しい評価となる ※1 現症については、治療がなく経過観察のみの場合に限る ※2 手術後に経過観察のみしている場合に限る。治療中の場合は、現症（手術あり・治療中）を参照
	現症 （手術あり・治療中）	-	×	×	×	○	×	
	現症 （手術あり・経過観察中） ※2	術後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		術後 6ヶ月～1年	割増	割増	×	○	規	
		術後 1年～	○/割増	○/割増	○/×	○	規	
	既往症 （手術あり）	術後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		術後 6ヶ月～1年	割増	割増	×	○	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	
坐骨神経痛	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 原因（判明している場合）、合併症の有無 ● 原因が判明している場合はその評価も考慮される。腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、糖尿病などが原因であることがある

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
先天性股関節脱臼 臼蓋形成不全 発育性股関節形成不全	現症 （手術なし） ※1	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※3	○	規	■ 左右の別、手術有無、手術内容（人工関節置換術/骨切り術）、入院の有無、金属などの内固定具の有無 ● 関節の著しい変形がある場合、可動域の制限がある場合、補助具（杖など）の使用がある場合は厳しい評価となる ※1 入院がない場合に限る ※2 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は× ※3 該当部位の部位不担保となる（左股関節部＝29番、右股関節部＝30番、両股関節＝50番） ※4 左の場合は「左股関節部（29番）」+「左下肢（33番）」、右の場合は「右股関節部（30番）」+「右下肢（34番）」、両側の場合は「両股関節（50番）」+「両下肢（52番）」の部位不担保となる
	現症 （人工関節置換術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※4	○	規	
	現症 （骨切り術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※4	○	規	
	既往症 （手術なし） ※1	-	○	○	部位不 全期間 ※3	○	規	
	既往症 （人工関節置換術）	-	○	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ×	部位不 全期間 ※2※4	○	規	
	既往症 （骨切り術）	-	○	○	○	○	規	
腱鞘炎 ばね指 弾発指	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別
肩関節周囲炎 四十肩 五十肩 肩こり	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
頚肩腕症候群 頚肩腕障害	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
手根管症候群 肘部管症候群	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 部位、左右の別、手術の有無

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
下肢静脈瘤	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 左右の別
骨粗鬆症	現症/既往症 （40歳～・女性）	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 男性の場合、40歳未満の女性の場合、骨折歴や入院がある場合は厳しい評価となる
胃穿孔（外傷性） 胃腸穿孔（外傷性） 腸穿孔（外傷性） 肝損傷 胆嚢損傷 脾損傷 膵損傷 腎損傷	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因、部位、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 膵摘出（部分摘出、全摘出）、腎摘出（片腎）、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 6ヶ月～1年	削減	○	○	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
睾丸損傷 睾丸摘出（外傷性）	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因
	既往症	治後 ～1ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
尿道損傷 膀胱損傷	現症	-	×	×	×	○	×	■ 受傷原因、部位、入院の有無 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 膀胱全摘術を受けている場合、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
上肢の機能障害（一上肢） 上肢の機能障害（両上肢） 上肢の切断（一上肢） 上肢の切断（両上肢）	-	-	○～× ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○～× Ⅲ型: ×	○/× ※2	○/×	規	■ 原因、部位、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、機能障害や切断の程度・範囲、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその内容も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 機能障害や切断の程度・範囲によっては長生き支援終身が×となる場合がある ※2 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×
手指の欠損	-	-	○	Ⅰ型: ○/× Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ○/×	○ ※1	○	規	■ 原因、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、欠損の部位（例：人差し指の第一関節まで 等）、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその内容も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×となる場合がある
下肢の機能障害（一下肢） 下肢の機能障害（両下肢） 下肢の切断（一下肢） 下肢の切断（両下肢）	-	-	○～× ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: ○～× Ⅲ型: ×	○/× ※2	○/×	規	■ 原因、部位、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、障がいの内容・程度、補助具（杖や車椅子など）の使用有無、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその評価も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 機能障害や切断の程度・範囲によっては長生き支援終身が×となる場合がある ※2 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×
足指の欠損	-	-	○	Ⅰ型: ○/× Ⅱ型: ○ Ⅲ型: ○/×	○ ※1	○	規	■ 原因、治療内容（治療がある場合）、経過、症状固定の有無（症状固定時期）、欠損の部位（例：人差し指の第一関節 等）、身体障がい認定の有無・等級、国民年金法にもとづく障がい認定の有無・等級 ● 原因疾患がある場合はその評価も考慮される ● 症状固定していない場合、直近に通院がある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 重度5疾病・障害・重度介護保障特約は×となる場合がある

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
湿疹 接触性皮膚炎 アトピー性皮膚炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる ● 合併症がある場合は厳しい評価となる
掌蹠膿疱症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
手足口病	現症	-	×	×	×	○/×	×	● 入院がある場合、合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
突発性発疹症	現症	-	×	×	×	○	×	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる
	既往症	-	○	○	○	○	規	
食物アレルギー	現症 （入院なし）	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院が2回以上ある場合は厳しい評価となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細は ii ページ参照）
	現症 （入院あり）	退院後 ～2年	○	○	×	○	規	
		退院後 2年～	○	○	○ 【★】 ※1	○	規	
	既往症 （入院なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （入院あり）	退院後 ～2年	○	○	×	○	規	
		退院後 2年～	○	○	○	○	規	
汗疱性白癬 水虫 頑癬・股部白癬（いんきん） 顔面白癬（はたけ） 体部白癬（ぜにたむし） 爪白癬 爪水虫 頭部白癬（しらくも） 白癬疹 斑状小水疱性白癬（たむし）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
にきび 尋常性ざ瘡	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 入院がある場合は厳しい評価となる
帯状疱疹	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合、合併症、後遺症がある場合、基礎疾患が疑われる場合は、健康診断結果や医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
乾癬 尋常性乾癬 滴状乾癬	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 治療内容 ● 皮膚症状が広範に及んでいる場合、関節症状がある場合、入院がある場合などは医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
伝染性膿痂疹（とびひ）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
蜂窩織炎 フレグモーネ 蜂巣炎	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無（有の場合は入院中の治療内容） ● 入院がある場合、基礎疾患（糖尿病など）がある場合は厳しい評価となる
膠原病	皮膚や内臓の結合組織や血管に炎症を起こし、さまざまな臓器に障害を起こす病気の総称で自己免疫性疾患とも呼ばれる。正式診断名（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群など）を確認のうえ、該当項目を参照							
関節リウマチ 慢性関節リウマチ リウマチ様関節炎	現症	診断後 ～2年	高割増/×	×	×	○	健/嘱 ※1	■ 診断時期、治療内容、手術の有無、入院の有無、合併症の有無 ● 心血管系や他の膠原病の全身疾患がある場合は全保種× ● 入院・手術がある場合や関節症状の程度・治療内容・経過などによっては厳しい評価となる ※1 医療証明書が必要となる場合がある
		診断後 2年～	割増	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増 Ⅲ型: ×	×	○	規 ※1	
	既往症	治後 ～5年	割増	割増	×	○	規 ※1	
		治後 5年～	○	○	○	○	規 ※1	
全身性エリテマトーデス 全身性紅斑性狼瘡 SLE	現症/既往症	発症後 ～2年	×	×	×	×	×	■ 病変の部位、治療内容 ※1 神経障害（けいれん発作や精神症状）、心膜炎、腎障害がある場合は× ※2 医療証明書が必要となる可能性が高い
		発症後 2年～	高割増/× ※1	×	×	×	健/嘱 ※2	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
シェーグレン症候群	現症/既往症	-	割増+特障 ～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増+特障/× Ⅲ型: ×	×	特障	規 ※1	■ 病変の部位、治療内容、合併症の有無 ● 眼や口腔の局所乾燥症状のみの場合に限る。関節炎や肺・腎臓などの臓器障害を伴う場合は全保種× ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
ベーチェット病	現症/既往症	発症後 ～1年	×	×	×	×	×	■ 病変の部位、治療内容 ● 神経、大動脈、腎臓、肺に病変が及ぶ場合は全保種× ※1 医療証明書が必要となる可能性が高い
		発症後 1年～	割増+特障 ～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 割増+特障/× Ⅲ型: ×	×	特障/×	健/嘱 ※1	
皮膚筋炎 多発性筋炎	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
全身性強皮症 全身性硬化症	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
結節性動脈周囲炎 多発性動脈炎	現症/既往症	-	×	×	×	×	×	
サルコイドーシス	現症	-	×	×	×	×	×	
粉瘤 アテローム 脂肪腫 リポーマ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
ガングリオン	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無、部位、左右の別 ● 入院がある場合は厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
蕁麻疹	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
やけど 火傷 熱傷	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
ケロイド 蟹足腫	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 入院がある場合は厳しい評価となる
白斑 尋常性白斑	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
あせも	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
凍瘡 しもやけ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
たこ いぼ 尋常性疣贅 うおのめ	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
そばかす	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
円形脱毛症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
まき爪 陥入爪	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
みずぼうそう	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
蒙古斑	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
生理痛 月経痛 月経異常 生理不順 月経困難症	現症	通院開始後 ～3ヶ月	○	×	○	×	規	■ 治療内容、検査内容・検査結果 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 入院がある場合は厳しい評価となる
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
月経前症候群 PMS	現症	通院開始後 ～3ヶ月	○	○	×	○	規	■ 治療内容、入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
更年期障害	現症	通院開始後 ～3ヶ月	○	○	×	○	規	■ 治療内容、具体的な症状、入院の有無 ● 入院がある場合や精神神経症状がある場合などは厳しい評価となる
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
不正性器出血 子宮出血 異常出血 卵巣出血	現症	-	×	×	×	×	×	■ 精密検査受診有無、精密検査方法・検査結果、治療内容、治療期間、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 手術がある場合は厳しい評価となる ● 細胞診検査または組織診検査を受診している場合は、検査結果の提出が必要となったり、厳しい評価となる場合がある ● 医療証明書が必要となる場合がある ※1 精密検査とは経腟超音波検査・コルポスコープ・ヒステロスコープを指し、いずれかを実施して異常なしの場合に限る
	既往症 （精密検査の受診あり） ※1	治後 ～1年	削減	×	×	×	規	
		治後 1～3年	○	部位不 18番 3年	○	部位不 18番 3年	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （精密検査の受診なし）	治後 ～1年	×	×	×	×	×	
		治後 1～3年	削減	×	×	×	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
子宮筋腫	現症 （経過観察中） ※1	診断後 ～6ヶ月	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	規	■ 手術をしている場合は術式（筋腫核出術/子宮動脈塞栓術/子宮全摘出術） ● 広範子宮全摘術や子宮全摘＋付属器切除術を受けている場合は、医療証明書が必要となったり厳しい評価となる ※1 経過観察頻度が1年ごと、もしくはそれ以上であるものに限る。通院による経過観察頻度が1年未満の場合は厳しい評価となる場合がある
		診断後 6ヶ月～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		診断後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （子宮全摘術）	治後 ～3ヶ月	○	×	×	×	規	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症 （筋腫核出術/子宮動脈塞栓術）	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮頸部異形成 子宮頸部異型上皮	現症 （手術なし）	-	○/削減/×	部位不 18番 5年 /×	○/×	部位不 18番 5年 /×	規	■ 検査内容、細胞診/組織診の分類（例：NILM/ASC-US/CIN1など）、検査頻度、手術の有無と術式（円錐切除術/レーザー蒸散術など） ● 検査結果によっては厳しい評価となる場合がある ● 子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、子宮全摘+付属器切除術を受けている場合は、医療証明書が必要となったり厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある ※1 治療終了後とは、入院・手術などの治療が終了したことを指す ※2 異動の場合は注意が必要 ※3 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません
	治療終了 （円錐切除術/ レーザー蒸散術）	治療終了後 ～1年 ※1	削減	×	×	×	規	
		治療終了後 1～2年 ※1	○	×	○	×	規	
		治療終了後 2年～ ※1	○	×	○	○ ※2※3	規	
子宮頸部高度異形成	現症 （手術なし）	-	×	×	×	× (罹患歴有)	×	■ 検査内容、細胞診/組織診の分類（例：NILM/ASC-US/CIN1など）、検査頻度、手術の有無と術式（円錐切除術/レーザー蒸散術など） ● 子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、子宮全摘+付属器切除術を受けている場合は、医療証明書が必要となったり厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 治療終了後とは、入院・手術などの治療が終了したことを指す ※2 異動の場合は注意が必要 ※3 特定疾病保険料払込免除特約01、特定疾病保険料払込免除特則（医療保険に付加する場合を除く）、重度5疾病・障害・重度介護保障特約については、「がん」の欄が「○」であってもお引受けできません
	治療終了 （円錐切除術/ レーザー蒸散術）	治療終了後 ～1年 ※1	削減	×	×	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 1～2年 ※1	○	×	○	× (罹患歴有)	規	
		治療終了後 2年～ ※1	○	×	○	○ ※2※3	規	
子宮内膜症 内性子宮内膜症 子宮腺筋症 チョコレート嚢胞	現症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	現症 （手術あり）	術後 ～1年	削減	×	○	×	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術なし）	-	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	術後 ～1年	○	×	○	×	規	
		術後 1年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮内膜増殖症	現症（経過観察中）※1	指摘後 ～1年	割増	×	×	×	規	■ 経過観察頻度、手術をしている場合は術式 ● 子宮全摘術を受けている場合は、医療証明書が必要となったり厳しい評価となる ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る。経過観察頻度が6ヶ月ごと、もしくはそれ以上であるものに限る
		指摘後 1年～	○	×	○	×	規	
	既往症（手術なし）	治後 ～1年（完治直前の経過観察頻度が5ヶ月以下）	割増	×	×	×	規	
		治後 ～1年（完治直前の経過観察頻度が6ヶ月以上）	○	×	○	×	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症（子宮内膜全面掻爬術）	治後 ～1年	削減	×	○	×	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
多嚢胞性卵巣症候群	現症	診断後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	■ 治療内容、検査内容・検査結果、症状の程度、合併症の有無
		診断後 6ヶ月～	割増	×	×	×	規	
	既往症	-	○/割増	○/×	○/×	○/×	規	
卵巣腫瘍	卵巣にできる腫瘍の総称。正式診断名（卵巣嚢腫、チョコレート嚢胞、卵巣癌など）を確認のうえ、該当項目を参照							
卵巣嚢腫 卵巣嚢胞	現症（経過観察中）※1	診断後 ～1年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	● 開腹手術を受けている場合は、医療証明書が必要となったり厳しい評価となる ※1 経過観察頻度が1年ごと、もしくはそれ以上であるものに限る。通院による経過観察頻度が1年未満の場合は厳しい評価となる場合がある
		診断後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		診断後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症（手術あり）	治後 ～1年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
子宮下垂 子宮脱	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
子宮付属器炎 卵管炎 卵巣炎 子宮内膜炎	現症	通院開始後 ～3ヶ月	削減	○	○	○	規	
		通院開始後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮外妊娠	現症	-	×	×	×	○	×	● 入院日数によっては厳しい評価となる
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
正常分娩	分娩・退院後	-	○	○	○	○	規	
吸引分娩 鉗子分娩	既往症	-	○	○	○	○	規	● 入院日数によっては厳しい評価となる場合がある
前置胎盤	現症	妊娠中	×	×	×	○	×	
	既往症（～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～5年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
胎盤早期剥離	現症	妊娠中	×	×	×	○	×	
	既往症（～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	
		治後 1～3年	○	○	部位不 38番 3年	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
妊娠中	-	-	○	○	部位不 38番 1年	○	規	● 正常妊娠の場合に限る
帝王切開	既往症（～49歳）	治後 ～5年	○	○	部位不 35番 5年	○	規	■ 入院期間 ● 入院期間が長期の場合（15日以上）は、医療保険が「異常妊娠・異常分娩（帝王切開を含む）＝38番」の部位不担保となるなど、厳しい評価となる
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	-	○	○	○	○	規	
切迫流産 切迫早産	現症	妊娠中	×	×	×	○	×	■ 入院期間
	既往症（～49歳）	治後 ～5年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	-	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
流産 死産 早産	既往症 （～49歳）	治後 ～5年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	■ 入院期間 ● 現在妊娠中の場合は厳しい評価となる ● 流産を繰り返している場合（習慣性流産の場合）は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （50歳～）	-	○	○	○	○	規	
人工流産 人工妊娠中絶	既往症	-	○	○	○	○	規	■ 入院期間 ● 入院日数によっては厳しい評価となる ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される
悪阻（つわり） 妊娠悪阻	現症	妊娠中	×	×	×	○	×	■ 入院期間 ● 現在妊娠中の場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる
	既往症 （～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	
		治後 1～3年	○	○	部位不 38番 3年	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
妊娠中毒症 妊娠高血圧症候群	現症	妊娠中	×	×	×	○	×	■ 入院期間 ● 現在妊娠中の場合、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）に異常がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては健康診断結果もしくは母子手帳の写し（いずれも治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）の記載があるもの）の提出が必要となったり、厳しい評価となる ※1 治後の血圧値もしくは尿検査（尿蛋白）に異常がある場合はその検査結果を提出要 ※2 健康診断結果もしくは母子手帳の写し（いずれも治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）の記載があるもの）の提出要 ※3 健康診断書扱の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）を含むものに限る。保険金額が告知書扱範囲の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）の記載がある母子手帳の写しでも可
	既往症 （～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○ ※1	○ ※1	部位不 38番 5年 ※1	○	規	
		治後 1～3年	○	○	部位不 38番 3年	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～1年	○	○	○ ※2	○	健/嘱 ※3	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
産褥熱	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子癇	現症	-	×	×	×	○	×	■ 入院期間 ● 現在妊娠中の場合や後遺症がある場合は厳しい評価となる ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 健康診断書扱の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）を含むものに限る。保険金額が告知書扱範囲の場合は、治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）の記載がある母子手帳の写しでも可 ※2 健康診断結果もしくは母子手帳の写し（いずれも治後の血圧値、尿検査（尿蛋白）の記載があるもの）の提出要
	既往症（～49歳）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	○	×	○	健/嘱 ※1	
		治後 6ヶ月～1年	○	○	部位不 38番 5年 ※2	○	健/嘱 ※1	
		治後 1～5年	○	○	部位不 38番 5年	○	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～3ヶ月	×	×	×	○	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	○	×	○	健/嘱 ※1	
		治後 6ヶ月～1年	○	○	○ ※2	○	健/嘱 ※1	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
妊娠糖尿病	現症	妊娠中 ※1	×	×	×	○	×	■ 治療内容、入院の有無 ● 現在妊娠中の場合、入院がある場合は厳しい評価となる ※1 出産後も治療中の場合は、「糖尿病」の目安を確認する ※2 出産後のHbA1cまたは空腹時血糖値の記載がある健康診断結果の提出要 ※3 健康診断書扱の場合は、出産後のHbA1cまたは空腹時血糖値を含むものに限る
	既往症（～49歳）	治後 ～1年	○	○	部位不 38番 5年 ※2	○	健/嘱血 ※3	
		治後 1～3年	○	○	部位不 38番 3年	○	規	
		治後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症（50歳～）	治後 ～1年	○	○	○ ※2	○	健/嘱血 ※3	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
不妊症（女性）	現症	-	○	○	部位不 38番 5年	○	規	■ 治療内容、入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される
	既往症	治療終了後 ～2年	○	○	部位不 38番 2年	○	規	
		治療終了後 2年～	○	○	○	○	規	
不妊症（男性）	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	■ 治療内容、入院の有無 ● 入院がある場合は厳しい評価となる ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胞状奇胎	現症	-	×	×	×	×	×	
	既往症	治後 ～2年	削減	×	×	×	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	
乳腺症 乳腺嚢胞 乳腺線維腺腫 乳房の良性腫瘍 乳腺の良性腫瘍 乳房石灰化 乳腺石灰化 乳房腫瘤 乳腺腫瘤	現症 （経過観察中） ※1	指摘後 ～6ヶ月	削減/×	×	○/×	×	規	■ 指摘時期・指摘内容、指摘時の検査方法、精密検査の有無、精密検査方法・結果、経過観察の頻度 ● 検査結果、医療証明書などの提出が必要となる場合がある ● 細胞診検査または組織診検査を受診している場合は、検査結果が必要となったり、厳しい評価となる場合がある ● 通院による経過観察頻度が1年未満の場合は、厳しい評価となる場合がある ● 入院日数によっては厳しい評価となる ※1 経過観察頻度が1年ごと、もしくはそれ以上であるものに限る
		指摘後 6ヶ月～1年	削減	部位不 19番 5年	○	部位不 19番 5年	規	
		指摘後 1～3年	○	部位不 19番 5年	○	部位不 19番 5年	規	
		指摘後 3年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	治後 ～5年	○	部位不 19番 2年	○	部位不 19番 2年	規	
		治後 5年～	○	○	○	○	規	
乳腺炎（急性） 急性乳腺炎 乳腺膿瘍	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	
骨盤膿瘍 骨盤腹膜炎	現症 （治療中）	-	×	×	×	×	×	■ 手術の有無 ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
	現症 （経過観察中） ※1	通院開始後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		通院開始後 3ヶ月～	削減	×	×	×	規	
	既往症 （手術なし）	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症 （手術あり）	治後 ～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
カンジダ症（膣炎） 膣カンジダ症	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	● 合併症、後遺症がある場合は厳しい評価となる

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
頭痛 片頭痛	現症	通院開始後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	■ 発症年月、精密検査受診有無、精密検査方法・検査結果、治療内容、治療期間、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 群発頭痛の場合、入院がある場合などは厳しい評価となる
		通院開始後 3～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		通院開始後 6ヶ月～1年	削減	○	○	○	規	
		通院開始後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症	治後 ～3ヶ月 （通院開始後 ～6ヶ月）	削減	×	×	×	規	
		治後 ～3ヶ月 （通院開始後 6ヶ月～1年）	削減	○	○	○	規	
		治後 ～3ヶ月 （通院開始後 1年～）	○	○	○	○	規	
		治後 3～6ヶ月 （通院開始後 ～1年）	削減	○	○	○	規	
		治後 3～6ヶ月 （通院開始後 1年～）	○	○	○	○	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
耳鳴	現症 ※1	通院開始後 ～1年	割増～×	×	×	×	規	■ 発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、入院の有無、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 入院がある場合はより厳しい評価となる ● 医療証明書が必要となる場合がある ※1 治療がなく経過観察のみの場合に限る
		通院開始後 1年～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
めまい	現症	治療開始後 ～1年	×	×	×	×	×	■ 発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、入院の有無、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 過去に同じ症状を繰り返し起こしている場合、入院がある場合などは厳しい評価となる ● 中枢神経系、自律神経系の疾患が疑われる場合は厳しい評価となる場合がある ● 医療証明書が必要となる場合がある ● 良性発作性頭位めまい症と診断されている場合は「良性発作性頭位めまい症」の目安を確認する
		治療開始後 1年～	○	○	×	○	規	
	既往症	治後 ～6ヶ月	削減	○	×	○	規	
		治後 6ヶ月～1年	○	○	×	○	規	
		治後 1年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
腹痛 胃痛	現症	-	×	×	×	×	×	■ 発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 症状や治療期間が長い場合、過去に同じ症状を繰り返し起こしている場合、入院がある場合などは厳しい評価となる ● 医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～3ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 3～6ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 6ヶ月～	○	○	○	○	規	
下痢	現症	-	×	×	×	×	×	■ 発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、症状消失年月 ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される ● 症状や治療期間が長い場合、過去に同じ症状を繰り返し起こしている場合、入院がある場合などは厳しい評価となる ● 医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～3ヶ月	削減	×	×	×	規	
		治後 3ヶ月～	○	○	○	○	規	
便秘	現症	通院開始後 ～1ヶ月	削減	×	×	×	規	■ 発症年月、検査内容・検査結果、治療内容、治療期間、症状消失年月 ● 原因が判明している場合はその評価も考慮される ● 医療証明書が必要となる場合がある
		通院開始後 1ヶ月～	○	○	○	○	規	
	既往症	-	○	○	○	○	規	
過労 疲労	現症	-	×	×	×	×	×	■ 通院時期、検査内容・検査結果、治療内容 ● 原因が判明している場合はその評価も考慮される ● 通院・治療期間が長い場合、過去に同じ症状を繰り返し起こしている場合、入院がある場合などは厳しい評価となる ● 医療証明書が必要となる場合がある
	既往症	治後 ～6ヶ月	×	×	×	×	×	
		治後 6ヶ月～2年	削減	○	×	○	規	
		治後 2年～	○	○	○	○	規	

傷病名	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	診査方法の目安	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肥満 やせ BMI 体格	BMI15未満	15歳～	×	×	×	×	×	● 急激な体重の増減がある場合は厳しい評価となる ● 14歳以下の場合は年齢に応じて体格を評価する（本目安を適用しない） ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
	BMI15～16未満（男性）	15～39歳	割増	割増	○【★】※1	○	規	
		40歳～	割増＋削減	×	○【★】※1	×	規	
	BMI15～16未満（女性）	15～29歳	○	○	○	○	規	
		30～59歳	割増	割増	○【★】※1	○	規	
		60歳～	割増＋削減	×	○【★】※1	×	規	
	BMI16～17未満	15～59歳	○	○	○	○	規	
		60歳～	割増＋削減	×	○【★】※1	×	規	
	BMI17～18未満	15～74歳	○	○	○	○	規	
		75歳～	割増＋削減	×	○【★】※1	×	規	
	BMI18～34未満	15歳～	○	○	○	○	規	
	BMI34～36未満	15～59歳	割増	割増	×	○	規	
		60歳～	割増	割増	○【★】※1	○	規	
	BMI36～40未満	15歳～	割増	割増	×	○	規	
	BMI40～	-	×	×	×	○	×	
禁煙外来	現症/既往症	-	○	○	○	○	規	

3.2 健康診断検査項目の引受の目安

用語の説明

適用条件	経過観察指摘	健康診断・人間ドックなどで「1年後経過観察」（1年後の定期健康診断まで経過を見る）の指摘を受けた状態をいいます。 健康診断・人間ドックなどで指摘を受けた後、通院による経過観察に移行した場合は、「傷病の引受の目安」の各項目の「現症」の欄をご参照ください。 健康診断結果の項目内で「再検査を受診してください」との記載があったり、1年後未満の経過観察を指示されたりしている場合は、「要再検査指摘」の欄をご参照ください。
	要再検査・ 要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	健康診断・人間ドックなどで「要再検査・要精密検査・要治療」の指摘を受け、その後再検査などを受けていない状態をいいます。 健康診断・人間ドックなどで「1年後再検査（12か月後再検査）」の指摘を受けた場合は、「経過観察指摘」の欄をご参照ください。 ※再検査受診時期を指示されている場合は、受診時期を含めて告知いただいてください。（らくらく手続きにて告知をいただく場合、任意記載欄の出力がない項目については、出力される質問に沿ってご回答ください）
	年齢	告知日時点での年齢をいいます。

※「○」や「割増」などの引受の目安の表記については「傷病の引受の目安」と同様となります。詳細は ii ページをご参照ください。

注意点

期間の考え方

■ 経過観察指摘：
最初に経過観察と指摘された時期（初回指摘時期）から起算してください。
なお、経過観察指摘以降に「要再検査・要精密検査・要治療」という指摘がある場合、指摘所見に変化がある場合は、初回指摘時期から起算することができません。

■ 要再検査・要精密検査・要治療指摘：
最後に要再検査・要精密検査・要治療と指摘された時期（最終指摘時期）から起算してください。

	2年前の健診	1年前の健診	今回の健診	起点
例 1	経過観察	経過観察	経過観察	2年前を起点とする（経過観察・指摘後 2年～）
例 2	経過観察	経過観察	要再検査 再検査未受診	今回を起点とする（要再検査・再検査未受診 最終指摘後 ～1年）
例 3	要再検査	要再検査 再検査受診済	要再検査 再検査未受診	今回を起点とする（要再検査・再検査未受診 最終指摘後 ～1年）

健康診断で指摘を受け、再検査/精密検査を受診している場合の考え方

■ 再検査/精密検査の結果「異常なし」であった場合

以下の「告知のポイント」を漏れなく告知いただくことで、年齢や診査区分にかかわず、原則健康診断結果および再検査/精密検査結果をご提出いただくことなく査定します。

「異常なし」とは

「全く異常所見がなく、数値や臓器などが正常で、健康な方と同じ状態」を指します。
※「所見はあるが問題はない」や「所見はあるが治療の必要はない」という結果は、「異常なし」に該当しませんのでご注意ください。

告知のポイント

① 健康診断で指摘を受けた検査項目および指摘内容・指摘所見 ※1
② 再検査・精密検査の受診時期、検査方法 ※2
③ 再検査・精密検査結果（「異常なし」の場合に限ります） ※1
④ 健康診断受診先および再検査・精密検査受診先、医療機関名

検査方法	再検査方法
胃部X線検査	胃内視鏡検査
乳房検査	マンモグラフィー・乳房超音波（エコー）検査のいずれか
触診（甲状腺腫大）	頸部超音波（エコー）検査・MRI検査・CT検査のいずれか

※1 指摘所見によっては、具体的な測定値などの告知が必要となる場合があります。
目安掲載の指摘所見については「ポイント」欄に記載がありますので、必ずご確認ください。
※2 右表の検査項目については、指定の精密検査を受診されている場合に限ります。

⚠ 注意

- 指摘所見によっては、健康診断結果および再検査/精密検査結果のご提出を依頼する場合があります。目安掲載の指摘所見については「ポイント」欄に記載がありますので、必ずご確認ください。
- 再検査/精密検査を受診した結果「異常なし」と告知いただいたとしても、当初の指摘内容および再検査/精密検査方法によっては特別条件付や引受延期となる場合があります（標準体をお約束するものではありません）。
- 告知内容に不足がある際は、健康診断結果および再検査/精密検査結果のご提出を依頼する場合があります。

■ 再検査/精密検査の結果、所見はあるが「経過観察判定」であった場合

以下の「告知のポイント」を漏れなく告知いただくことで、原則「経過観察指摘」の評価で査定します。

「経過観察判定」とは

「次回の定期健康診断で経過を見るよう指示されている場合」を指します。
※通院による経過観察に移行した場合は、「傷病の引受の目安」の各項目の「現症」の欄をご参照ください。

告知のポイント

① 健康診断で指摘を受けた検査項目および指摘内容・指摘所見 ※1
② 再検査・精密検査の受診時期、検査方法
③ 具体的な所見を含む再検査・精密検査結果 ※1
④ 医師からの指示（「経過観察判定」の場合に限ります）
⑤ 健康診断受診先および再検査・精密検査受診先、医療機関名

※1 指摘所見によっては、具体的な測定値などの告知が必要となる場合があります。

⚠ 注意

- 健康診断での指摘所見や再検査での所見によっては、健康診断結果および再検査/精密検査結果のご提出を依頼する場合があります。
- 再検査/精密検査を受診した結果「経過観察判定」と告知いただいたとしても、健康診断での指摘所見や再検査での所見によっては厳しい評価となる場合があります。
- 告知内容に不足がある際は、健康診断結果および再検査/精密検査結果のご提出を依頼する場合があります。

身体測定

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肥満 やせ BMI 体格	-	-	傷病の引受の目安「肥満/やせ/BMI/体格」（P.68）を参照				

眼科・聴力検査　関連： 視力検査、眼底検査、眼圧検査、聴力検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
視力低下	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	○	○	○	○	● 左右いずれかの矯正視力が0.3以下の場合は厳しい評価となる場合がある ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される
聴力低下	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	○	○	○	○	● 聴力の障がいがある場合は厳しい評価となる場合がある ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される
緑内障 視神経乳頭陥凹拡大	経過観察指摘	-	○	○	部位不 1番 全期間	○	■ 指摘のあった検査について指摘以降に再検査や精密検査、眼底検査を含む健康診断などを受診されている場合は、以下①～⑤の全てを告知のこと ① 検査の受診時期 ② 検査方法 ③ 検査結果 ④ 医師からの指示 ⑤ 受診先の医療機関名 ● 視力障害や視野障害がある場合は厳しい評価となる ※1 視力障害や視野障害がない場合に限り、マーケットリンクは○
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	特障 ※1	Ⅰ型：× Ⅱ型：特障 Ⅲ型：×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	
高眼圧	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	眼圧値 ～21.0mmHg	○	○	○	○	■ 直近の眼圧値、測定年月 ● 眼底検査で要再検査・要精密検査・要治療指摘を受けている場合や、眼圧値25.1mmHg以上の場合、視力障害や視野障害がある場合は厳しい評価となる
		眼圧値 21.1～25.0mmHg	○	○	部位不 1番 全期間	○	
加齢黄斑変性 黄斑変性症	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	特障 ※1	Ⅰ型：× Ⅱ型：特障 Ⅲ型：×	特障 ＋ 部位不 1番 全期間	特障	※1 視力障害や視野障害がない場合に限り、マーケットリンクは○
黄斑円孔 黄斑上膜 黄斑前膜	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
網膜色素変性症	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	特障	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 + 部位不 1番 全期間	特障	
軟性白斑 硬性白斑	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 指摘を受けた健康診断結果提出要。再検査・精密検査を受診されている場合はあわせて検査結果の提出が必要となる場合がある ● 高血圧（最大血圧150mmHg以上または最小血圧90mmHg以上）、脂質異常（LDLコレステロール160mg/dl以上）、高血糖（HbA1c6.5%以上）、肥満（BMI30以上）が認められる場合は厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	特障+ ○～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障+○～× Ⅲ型: ×	特障 + 部位不 1番 全期間 /×	特障/×	
眼底出血 網膜出血 硝子体出血	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 指摘を受けた健康診断結果提出要。再検査・精密検査を受診されている場合はあわせて検査結果の提出が必要となる場合がある ● 高血圧（最大血圧150mmHg以上または最小血圧90mmHg以上）、脂質異常（LDLコレステロール160mg/dl以上）、高血糖（HbA1c6.5%以上）、肥満（BMI30以上）が認められる場合は厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	特障+ ○～×	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障+○～× Ⅲ型: ×	特障 + 部位不 1番 全期間 /×	特障/×	
ドルーゼン	経過観察指摘	-	○	○	○	○	※1 視力障害や視野障害がない場合に限り、マーケットリンクは○
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	特障 ※1	Ⅰ型: × Ⅱ型: 特障 Ⅲ型: ×	特障 + 部位不 1番 全期間	特障	

血圧測定

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
高血圧	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	傷病の引受の目安「高血圧」（P.2）を参照				

心電図検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
徐脈 洞性徐脈 頻脈 洞性頻脈	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 心拍数・脈拍数が判明している場合は、その内容を含めた評価となる
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	割増～×	割増/×	×	○	
期外収縮 上室性期外収縮 心室性期外収縮	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 回数が判明している場合は、その内容を含めた評価となる
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	割増	割増	×	○	
不完全右脚ブロック RSR RSRパターン RSR'パターン	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
完全右脚ブロック	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	～59歳	○	○	○	○	
		60歳～	割増	割増	×	○	
完全左脚ブロック	経過観察指摘	-	割増～×	割増/×	×	○	● 再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる場合がある
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
心房細動 心房粗動	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	高割増/×	×	×	○	● 再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる場合がある

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
1度房室ブロック PQ延長	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	割増	割増	×	○	
2度房室ブロック	経過観察指摘	-	割増～×	割増/×	×	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
PR短縮	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
WPW症候群	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	割増	割増	×	○	
異常Q波	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
R波増高不良	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
左室肥大 心肥大	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
左室高電位 高電位差 R波増高	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
平低T 二相性T	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
陰性T ST低下 ST-T低下	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
ST上昇	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
ブルガダ型波形	経過観察指摘	-	割増～×	割増/×	×	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
正常洞調律 左軸偏位 右軸偏位 時計回転 反時計回転	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
低電位差 高いT波 T波増高	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
早期再分極	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	高割増/×	×	×	○	

血液検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
高脂血症 高コレステロール血症 高中性脂肪血症 脂質異常症	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	傷病の引受の目安「高脂血症/高コレステロール血症/高中性脂肪血症/脂質異常症」（P.39）を参照				
痛風 高尿酸血症	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	傷病の引受の目安「痛風/高尿酸血症」（P.40）を参照				
肝機能障害	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 ※1	A. 以下の範囲内の場合 GOT（AST）～65U/l かつ GPT（ALT）～65U/l かつ γ-GTP ～160U/l	○	○	○	○	■ 以下①～③の全てを告知のこと ①直近の「GOT（AST）・GPT（ALT）・γ-GTP」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ※1 健康診断による指摘のみで肝疾患（肝炎・肝硬変・肝臓がんを含む）の治療歴がないこと、かつ肝炎ウイルスキャリアでない場合に限る ※2 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		B. 上記Aの範囲を超えるが以下の範囲内の場合 GOT（AST）～75U/l かつ GPT（ALT）～75U/l かつ γ-GTP ～250U/l	○/割増	○/割増	○/× 【★】 ※2	○	
		C. GOT（AST）76U/l～ または GPT（ALT）76U/l～ または γ-GTP 251U/l～	割増～×	割増/×	×	○/×	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
貧血	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～49歳・男性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 12.6g/dl～	○	○	○	○	■ 以下①～③の全てを告知のこと ①直近の「ヘモグロビン（Hb/血色素量）」 ②測定年月 ③測定医療機関名 ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）の急激な減少が見られる場合や、減少傾向がある場合は厳しい評価となる ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）、白血球数（WBC）、血小板数（PLT）のすべてに異常がある場合は厳しい評価となる ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3～12.5g/dl	割増	×	×	×	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～10.2g/dl	×	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （50歳～・男性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 12.6g/dl～	○	○	○	○	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 12.1～12.5g/dl	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3～12.0g/dl	割増	×	×	×	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～10.2g/dl	×	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～49歳・女性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3g/dl～	○	○	○	○	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 9.5～10.2g/dl	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 8.0～9.4g/dl	割増	×	×	×	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～7.9g/dl	×	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （50歳～・女性）	ヘモグロビン（Hb/血色素量） 12.1g/dl～	○	○	○	○	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） 10.3～12.0g/dl	割増	×	×	×	
		ヘモグロビン（Hb/血色素量） ～10.2g/dl	×	×	×	×	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
白血球増多 白血球減少	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	白血球数（WBC） ～2,200/μl	×	×	×	×	■ 直近の白血球数（WBC）・測定年月・測定医療機関名 ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）、白血球数（WBC）、血小板数（PLT）のすべてに異常がある場合は厳しい評価となる
		白血球数（WBC） 2,201～2,500/μl	割増	割増	×	○	
		白血球数（WBC） 2,501～13,000/μl	○	○	○	○	
		白血球数（WBC） 13,001/μl～	×	×	×	×	
血小板の異常	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	血小板数（PLT） ～50,000/μl	×	×	×	×	■ 直近の血小板数（PLT）・測定年月・測定医療機関名 ● ヘモグロビン（Hb/血色素量）、白血球数（WBC）、血小板数（PLT）のすべてに異常がある場合は厳しい評価となる
		血小板数（PLT） 50,001～100,000/μl	割増	×	×	×	
		血小板数（PLT） 100,001～500,000/μl	○	○	○	○	
		血小板数（PLT） 500,001～800,000/μl	割増～×	×	×	×	
		血小板数（PLT） 800,001/μl～	×	×	×	×	
総ビリルビン	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	総ビリルビン値（T-Bil） ～2.40mg/dl	○	○	○	○	■ 直近の総ビリルビン値（T-Bil）、直近の「GOT（AST）・GPT（ALT）・γ-GTP」・測定年月・測定医療機関名 ●「総ビリルビン値（T-Bil）が2.41mg/dl以上」の場合や、「GOT（AST）66U/l以上またはGPT（ALT）66U/l以上またはγ-GTP161U/l以上」の場合は厳しい評価となる
ALP	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	ALP値 （JSCC法） 100～600U/l （IFCC法） 35～210U/l	○	○	○	○	■ 直近のALP値、直近の「GOT（AST）・GPT（ALT）・γ-GTP」・測定年月・測定医療機関名 ●「ALP値（JSCC法）100U/l未満または601U/l以上」もしくは「ALP値（IFCC法）35U/l未満または211U/l以上」の場合、「GOT（AST）41U/l以上またはGPT（ALT）41U/l以上またはγ-GTP101U/l以上」の場合は厳しい評価となる

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
クレアチニン	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （男性）	クレアチニン値 ～1.20mg/dl	○	○	○	○	■ 直近のクレアチニン値、直近の尿蛋白の具体的な検査結果・測定年月・測定医療機関名 ● 尿蛋白（+）以上の指摘がある場合は厳しい評価となる ● 腎臓病などクレアチニンと関連のある既往歴や現病歴がある場合は厳しい評価となる ● 健康診断結果や血液検査結果にeGFRの記載がある場合はその数値も考慮される。eGFR45未満の場合は、引受延期となったり、厳しい評価となる可能性が高い
		クレアチニン値 1.21～1.30mg/dl	割増	割増	×	○	
		クレアチニン値 1.31mg/dl～	高割増/×	×	×	○/×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （女性）	クレアチニン値 ～1.00mg/dl	○	○	○	○	
		クレアチニン値 1.01mg/dl～	割増～×	割増/×	×	○/×	
糖代謝異常 高血糖	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～49歳）	空腹時血糖値 ～110mg/dl かつ HbA1c ～6.4%【NGSP値】	○	○	○	○	■ 以下の①～③の全てを告知のこと ①直近の「HbA1c」「空腹時血糖値」（どちらか一方の数値しかない場合は、一方のみで可） ②測定年月 ③測定医療機関名 ● 健診指摘のみの場合に限る。尿蛋白・肥満など他の検査項目の指摘もある場合は厳しい評価となる ● 通院による治療または経過観察を行っている場合は「糖尿病」の目安を確認する ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ※1 あわせて特定障害不担保法の特別条件が適用される場合もある
		空腹時血糖値 111mg/dl～ または HbA1c 6.5%～【NGSP値】	割増～× ※1	割増/× ※1	○/×	○/特障/×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （50歳～）	空腹時血糖値 ～125mg/dl かつ HbA1c ～7.0%【NGSP値】	○	○	○	○	
		空腹時血糖値 126mg/dl～ または HbA1c 7.1%～【NGSP値】	割増～× ※1	割増/× ※1	○/×	○/特障/×	

胸部X線検査　　関連： 胸部レントゲン、胸部CT

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
嚢胞影（肺）	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
索状影	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	○	
気管支拡張像	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	○	
瘢痕像 石灰化影（肺） 線状影 胸膜肥厚 胸膜癒着 横隔膜挙上 大動脈弓突出 大動脈蛇行	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
結節影（肺） 腫瘤影（肺）	経過観察指摘	初回指摘後 ～2年	削減	×	○	×	● 結節影・腫瘤影の大きさが拡大している場合は厳しい評価となる
		初回指摘後 2年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
空洞影	経過観察指摘	初回指摘後 ～2年	削減	○	○	○	
		初回指摘後 2年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
浸潤影	経過観察指摘	初回指摘後 ～2年	削減	○	○	○	
		初回指摘後 2年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
斑状影 粒状影 網状影	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
大動脈拡張	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	○	
肺嚢胞 ブラ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 14番 2年	○	部位不 14番 2年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
脊柱側弯症 脊柱弯曲症	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
漏斗胸 胸郭変形	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
陳旧性肺結核 陳旧性肺病変 陳旧性胸膜炎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	

胃部検査　関連： 胃部X線検査　胃内視鏡検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胃炎 表層性胃炎 びらん性胃炎 急性胃粘膜病変 胃びらん	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	○	○	○	○	
萎縮性胃炎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 萎縮性胃炎を認めピロリ菌陽性の場合（両方の指摘が同時にある場合）、厳しい評価となる場合がある
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	○	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
ピロリ菌陽性	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	○	○	○	○	● 萎縮性胃炎を認めピロリ菌陽性の場合（両方の指摘が同時にある場合）、厳しい評価となる場合がある
胃アトニー 胃下垂	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
逆流性食道炎 胃食道逆流症 GERD バレット食道	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	○	部位不 7番 2年	○	部位不 7番 2年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
胃潰瘍 十二指腸潰瘍	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
胃潰瘍瘢痕 十二指腸潰瘍瘢痕	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
憩室症（胃/十二指腸） 憩室炎（胃/十二指腸） 胃憩室症 胃憩室炎 十二指腸憩室症 十二指腸憩室炎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	○	○	○	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
憩室症（食道） 憩室炎（食道） 食道憩室症 食道憩室炎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	○	○	○	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
食道裂孔ヘルニア	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	○	○	○	○	
胃ポリープ 十二指腸ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 8番 2年	○	部位不 8番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
食道ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 7番 2年	○	部位不 7番 2年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 7番 2年	○	部位不 7番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
胃粘膜下腫瘍 十二指腸粘膜下腫瘍	経過観察指摘	初回指摘後 ～1年	削減	×	○	×	
		初回指摘後 1～3年	○	×	○	×	
		初回指摘後 3年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
食道粘膜下腫瘍	経過観察指摘	初回指摘後 ～1年	削減	×	○	×	
		初回指摘後 1～3年	○	×	○	×	
		初回指摘後 3年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
迷入膵 瀑状胃	経過観察指摘	-	○	○	○	○	

腹部超音波検査　　関連： 上腹部エコー、腹部CT

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肝血管腫	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 12番 2年	○	部位不 12番 2年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
肝嚢胞	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 嚢胞が大きい場合、多発性の場合は厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 12番 5年	○	部位不 12番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 12番 2年	○	部位不 12番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
脂肪肝	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 要再検査・要精密検査・要治療指摘の場合は、健康診断結果および再検査結果の提出が必要となったり、厳しい評価となる場合がある
胆嚢ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～3年	削減	部位不 12番 2年	○	部位不 12番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
胆石 胆嚢結石 胆管結石	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	○	○	○	○	
肝内結石	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 肝機能異常（GOT41U/l以上またはGPT41U/l以上またはγ-GTP101U/l以上）が認められる場合は厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	割増 ※1	×	×	×	※1 指摘を受けた健康診断結果の提出要
胆嚢腺筋腫症	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～3年	削減	部位不 12番 2年	○	部位不 12番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
膵嚢胞	経過観察指摘	初回指摘後 ～1年	割増+削減	×	×	×	● 再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる場合がある ● 嚢胞の大きさや種類によっては、厳しい評価となる場合がある ● 通院による治療または経過観察を行っている場合は、傷病の引受の目安「膵嚢胞」現症を参照
		初回指摘後 1～3年	○～ 割増+削減	×	×	×	
		初回指摘後 3年～	○～ 割増+削減	○～×	○/×	○/×	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	×	×	×	×	
膵胆管合流異常	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘	-	×	×	×	×	
腎結石 腎臓結石 尿管結石 尿道結石 膀胱結石 尿路結石	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	-	○	○	○	○	
腎嚢胞	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 多発性の場合は健康診断結果や医療証明書の提出が必要となったり、厳しい評価となる場合がある
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 15番 5年	○	部位不 15番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 15番 2年	○	部位不 15番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
腎血管筋脂肪腫	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 腫瘍径が大きい場合、多発性または両側性の場合は厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	×	×	×	×	
		最終指摘後 1～3年	削減	部位不 15番 5年	○	部位不 15番 5年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
腎臓奇形 馬蹄腎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	○	○	○	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
肝内石灰化	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
胆嚢壁肥厚	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
胆管拡張 総胆管拡張	経過観察指摘	初回指摘後　～2年	削減	×	○	×	● 再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる場合がある
		初回指摘後　2年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
膵管拡張	経過観察指摘	初回指摘後 ～1年	割増+削減	×	×	×	● 再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる場合がある ● 拡張の程度が大きい場合は厳しい評価となる ● 原疾患が判明している場合はその評価も考慮される
		初回指摘後 1～3年	○～ 割増+削減	×	×	×	
		初回指摘後 3年～	○～ 割増+削減	○～×	○/×	○/×	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	×	
腎石灰化	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
腎盂拡張	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 腎機能異常・尿検査異常が認められる場合は厳しい評価となる場合がある ● 原疾患が判明している場合はその評価も考慮される
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後　～2年	割増	×	×	×	
		最終指摘後　2年～	○	○	○	○	

尿検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
尿糖	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～49歳）	(±)	○	○	○	○	■ 以下①～⑤の全てを告知のこと ①（-）（+）（++）などの、尿糖の具体的な検査結果 ②「HbA1c」または「空腹時血糖値」（検査を実施している場合） ③測定年月 ④測定医療機関名 ⑤指摘のあった検査について指摘以降に再検査や精密検査、健康診断などを受診されている場合は、その検査方法、検査結果（医療機関における測定値）、測定年月、測定医療機関名 ● 尿蛋白・肥満など他の検査項目の指摘もある場合は厳しい評価となる ● 通院による治療または経過観察を行っている場合は「糖尿病」の目安を確認する ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ● 健康診断結果においてHbA1cまたは空腹時血糖値が良好な場合、評価が緩和される可能性がある ※1 特定障害不担保法の特別条件が適用される場合もある ※2 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		(+)	割増	割増	×	○	
		(++)	割増	割増	×	○	
		(+++)	高割増/× ※1	×	×	○/特障	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （50歳～）	(±)	○	○	○	○	
		(+)	割増	割増	○ 【★】 ※2	○	
		(++)	割増	割増	×	○	
		(+++)	高割増/× ※1	×	×	○/特障	
尿蛋白	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～39歳）	(±)	○	○	○	○	■ 以下①～④の全てを告知のこと ①（-）（+）（++）などの、尿蛋白の具体的な検査結果 ②測定年月 ③測定医療機関名 ④指摘のあった検査について指摘以降に再検査や精密検査、健康診断などを受診されている場合は、その検査方法、検査結果（医療機関における測定値）、測定年月、測定医療機関名 ●（+）以上の所見が連続して複数回認められる場合や、尿潜血・高血圧など他の検査項目の指摘もある場合は厳しい評価となる ● 腎臓病など尿蛋白と関連がある既往歴や現病歴がある場合は厳しい評価となる ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		(+)	○	○	○	○	
		(++)	割増	割増	×	○	
		(+++)	×	×	×	○	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （40歳～）	(±)	○	○	○	○	
		(+)	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	
		(++)	割増	割増	×	○	
		(+++)	×	×	×	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
尿潜血	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～54歳・男性）	(±)	○	○	○	○	■ 以下①～④の全てを告知のこと ①（-）（+）（++）などの、尿潜血の具体的な検査結果 ②測定年月 ③測定医療機関名 ④指摘のあった検査について指摘以降に再検査や精密検査、健康診断などを受診されている場合は、その検査方法、検査結果（医療機関における測定値）、測定年月、測定医療機関名 ● （+）以上の所見が連続して複数回認められる場合や、尿蛋白・高血圧など他の検査項目の指摘もある場合は厳しい評価となる ● 腎臓病など尿潜血と関連がある既往歴や現病歴がある場合は厳しい評価となる ● 指摘を受けた健康診断結果および再検査・精密検査結果の提出が必要となる場合がある ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細はⅱページ参照）
		(+)	○	○	○	○	
		(++)	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	
		(+++)	割増	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （55歳～・男性）	(±)	○	○	○	○	
		(+)	○	○	○	○	
		(++)	割増+削減	×	×	×	
		(+++)	×	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （～54歳・女性）	(±)	○	○	○	○	
		(+)	○	○	○	○	
		(++)	○	○	○	○	
		(+++)	割増	×	×	×	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘 （55歳～・女性）	(±)	○	○	○	○	
		(+)	○	○	○	○	
		(++)	割増+削減	×	×	×	
		(+++)	×	×	×	×	

大腸検査　関連： 便潜血検査、大腸内視鏡検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
便潜血	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 精密検査受診済 ※1	大腸内視鏡検査、注腸X線検査、 大腸3D-CT検査のいずれかによる 精密検査の結果が異常なしの場合	○	○	○	○	■ 指摘のあった検査以降に、再検査や精密検査、便潜血検査を含む健康診断などを受診されている場合は、以下①～④の全てを告知のこと ① 検査の受診時期 ② 検査方法 ③ 検査結果 ④ 受診先の医療機関名 ● 健診指摘のみの場合に限る。指摘後、大腸ポリープなどの治療歴がある場合は適用できない ※1 精密検査受診済とは、大腸内視鏡検査、注腸X線検査、大腸3D-CT検査のいずれかを受診している場合を指す。再検査として便潜血検査のみを受診している場合は精密検査受診済には該当しないので、指摘後未受診の項を適用する ※2 大腸内視鏡検査などの精密検査を受診されていない場合も、指摘後に受診した便潜血検査が異常なしの場合は○となる
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診 （～39歳）	最終指摘後 ～1年	削減 ※2	×	○	×	
		最終指摘後 1～2年	○	×	○	×	
		最終指摘後 2年～	○	○	○	○	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診 （40～59歳）	最終指摘後 ～1年	削減 ※2	×	×	×	
		最終指摘後 1～2年	削減 ※2	×	○	×	
		最終指摘後 2～3年	○	× ※2	○	× ※2	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
	経過観察指摘/ 要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診 （60歳～）	最終指摘後 ～2年	×	×	×	×	
		最終指摘後 2～3年	削減 ※2	× ※2	× ※2	× ※2	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
大腸ポリープ 結腸ポリープ S状結腸ポリープ 直腸ポリープ 大腸乳頭腫 直腸乳頭腫	経過観察指摘	初回指摘後 ～1年	削減	部位不 9番 5年	○	部位不 9番 5年	
		初回指摘後 1～3年	○	部位不 9番 5年	○	部位不 9番 5年	
		初回指摘後 3年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 9番 5年	○	部位不 9番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 9番 5年	○	部位不 9番 5年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
憩室症（大腸/小腸） 憩室炎（大腸/小腸） 大腸憩室症 大腸憩室炎 小腸憩室症 小腸憩室炎 メッケル憩室症 メッケル憩室炎	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	○	○	○	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	

婦人科検査

関連： 子宮頸部細胞診（ASC-US/LSILなど）、下腹部超音波、内診、触診、マンモグラフィー、乳房超音波

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
子宮頸部異形成 子宮頸部異型上皮	ベセスダ分類・細胞診（経過観察・要再検査・要精密検査指摘は問わない）						■ 検査内容、具体的なベセスダ分類（細胞診の分類） 分類例：ASC-US/LSIL/ASC-H/HSIL ● 複数回の検査指摘を受けている場合や再検査・精密検査を受診されている場合、通院による経過観察を行っている場合は、傷病の引受の目安「子宮頸部異形成」現症（手術なし）を参照
	ASC-US/LSIL	指摘後 ～2年	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
		指摘後 2年～	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
	ASC-H	指摘後 ～3年	×	×	×	×	
		指摘後 3～5年	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
		指摘後 5年～	○	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
	HSIL	指摘後 ～3年	×	×	×	× (罹患歴有)	
		指摘後 3～5年	削減	×	○	× (罹患歴有)	
		指摘後 5年～	○	×	○	× (罹患歴有)	
子宮筋腫	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
卵巣嚢腫 卵巣嚢胞	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～2年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 2～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
乳腺症 乳腺嚢胞 乳腺線維腺腫 乳房の良性腫瘍 乳腺の良性腫瘍 乳房石灰化 乳腺石灰化 乳房腫瘤 乳腺腫瘤	経過観察指摘	初回指摘後 ～3年	○	部位不 19番 5年	○	部位不 19番 5年	● 細胞診検査または組織診検査を受診している場合は、検査結果が必要となる可能性が高い。また厳しい評価となる場合がある
		初回指摘後 3年～	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	×	×	×	×	
		最終指摘後 1～2年	削減	部位不 19番 5年	○	部位不 19番 5年	
		最終指摘後 2～3年	○	部位不 19番 5年	○	部位不 19番 5年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
子宮ポリープ 子宮内膜ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 5年	○	部位不 18番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
子宮頸管ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・ 要治療指摘かつ 指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 18番 2年	○	部位不 18番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	

その他検査

健康診断結果の項目	適用条件		第一	就業不能	医療	がん	ポイント（■告知のポイント、●引受のポイント）
甲状腺腫 結節性甲状腺腫 腺腫様甲状腺腫 甲状腺過形成	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 細胞診検査または生検を受診している場合は、検査結果が必要となる可能性が高い。また厳しい評価となる場合がある ● 原因疾患が判明している場合はその評価も考慮される
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 6番 5年	○	部位不 6番 5年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 6番 2年	○	部位不 6番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
前立腺肥大	経過観察指摘	-	○	○	○	○	● 前立腺生検を行っている場合、PSA検査で高値であった場合は医療証明書が必要となったり、厳しい評価となる
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 17番 5年	○	部位不 17番 5年	
		最終指摘後 1年～	○	○	○	○	
声帯ポリープ 喉頭ポリープ	経過観察指摘	-	○	○	○	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	最終指摘後 ～1年	削減	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	
		最終指摘後 1～3年	○	部位不 4番 2年	○	部位不 4番 2年	
		最終指摘後 3年～	○	○	○	○	
無症候性脳梗塞 慢性脳虚血性変化 大脳白質病変 無症候性脳出血	経過観察指摘	～49歳	×	×	×	○	● 指摘を受けた健康診断結果の提出要。また、再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる可能性が高い ● 高血圧（最大血圧150mmHg以上または最小血圧90mmHg以上）、脂質異常（LDLコレステロール160mg/dl以上）、高血糖（HbA1c6.5%以上）、肥満（BMI30以上）が認められる場合は厳しい評価となる
		50歳～	割増	割増	×	○	
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	○/×	
頸動脈プラーク	経過観察指摘	-	割増	割増	○ 【★】 ※1	○	● 指摘を受けた健康診断結果の提出要。また、再検査・精密検査を受診されている場合は、検査結果の提出が必要となる可能性が高い ● 高血圧（最大血圧150mmHg以上または最小血圧90mmHg以上）、脂質異常（LDLコレステロール160mg/dl以上）、高血糖（HbA1c6.5%以上）、肥満（BMI30以上）が認められる場合は厳しい評価となる ※1 複数の疾患があり【★】印が2つ以上となる場合は×（詳細は ii ページ参照）
	要再検査・要精密検査・要治療指摘かつ指摘後未受診	-	×	×	×	○/×	

健康診断書扱ご利用のメリット

健康診断書扱には、医師扱と比べて多くのメリットがあります。

① お申込までのプロセスが簡単！

医師扱

診査の日程調整が必要です

診査の前日に、お客様が節制してくれるか心配です

診査当日はお客様と同行が必要です

引受査定

診査直前にお客様が飲食してしまい尿糖陽性で、保険料割増となってしまった・・・

診査では思わぬ結果になることもあります

健康診断書扱

診査の日程調整、お客様との同行が不要です

健康診断は絶食して行うため、お申込前後の状態に左右されにくいです

引受査定

引受の目安で査定結果の予測ができます

② 健診緩和査定がある！

第一分野（医療保険の死亡保障部分を含む）および就業不能保障保険は、「健診緩和査定」により、割増（特別保険料領収法）の特別条件が大幅に緩和される可能性があります。

選択方法	健康診断書扱		告知書扱	医師扱
契約年齢	15～49歳	50～85歳	－	－
査定結果	標準体まで緩和 もしくは 割増を軽減	標準体まで緩和	割増	割増
健診緩和査定	高割増	高割増	高割増～引受延期	高割増
	引受延期	引受延期	引受延期	引受延期

◆ 「健診緩和査定」により、割増（特別保険料領収法）の特別条件が標準体まで緩和された場合、家計保障定期保険NEO、あんしん就業不能保障保険のご契約については、優良体保険料率の適用対象となります！

◆ 割増（特別保険料領収法）が緩和の対象となります。保険金削減支払法、特定障害不担保法、特定疾病・部位不担保法は緩和の対象外です。

※ 精神疾患等、お客様の体況によっては上表のとおりとならない場合があります。

③ 優良体保険料率がある！（一定の要件で喫煙検査も省略できます！）

基準を満たすケースについては「優良体保険料率」が適用され、保険料が下がります。

カケホ　あんしゅう

優良体保険料率の基準

最大血圧：**139** 以下（mmHg）
最小血圧：**89** 以下（mmHg）
ＢＭＩ　：**18～27** 以内

◆ 左記基準については、健康診断結果に記載の身長・体重・血圧値で判定されます。

◆ 割増（特別保険料領収法）の特別条件が適用された場合は、全て標準保険料率となります。（優良体保険料率が適用できません）

健康診断結果に喫煙歴の欄があり、『喫煙歴なし』であることが確認できれば、喫煙検査を省略できます。

カケホ　あんしゅう

＜健康診断結果の「喫煙歴なし」のイメージ＞

アルコール タバコ	飲酒：飲酒（時々） 酒量：飲酒量（1合未満／日） 喫煙：吸わない 年数： 本数：

◆ 通常、喫煙告知が「いいえ」の場合に喫煙検査を実施します。

◆ 健康診断結果に「喫煙歴なし」である旨の明確な記載がない場合は、喫煙検査の実施が必要となります。

その他の記載例：「喫煙：なし」「タバコ：吸わない」「喫煙：0本/日」など

健康診断書扱でご提出いただく健康診断結果　取扱上の注意点

お取扱可能な健康診断結果

毎年定期的に受診されている健康診断結果の画像もしくはコピー（全ページ）をご提出ください。ただし、下記のいずれかに該当する健康診断結果は取扱いできません。

- 「診断書」や「血液検査報告書（検査機関から病院への血液分析結果の連絡票）」
- 被保険者本人または親族によって診断または証明された健康診断結果
- 別々の日に受診した検査項目を集めて必要検査項目を満たしている健康診断結果　※1
- 保険加入目的で受診した健康診断結果　※2

（※１）　健康診断を受診した医療機関の事情で「１回の健康診断」が複数日にまたがってしまった場合（例：血液検査のみ別の日など）は取扱可能です。
（※２）　保険加入に必要な項目のみが記載された申込日直前に受診した健康診断結果など、保険加入を目的として新たに受診された可能性が高い健康診断結果は、照会させていただくことがありますのでご了承ください。

必要検査項目一覧　（2021年1月5日以降）

				基本項目			必要検査項目														
									尿検査		血液検査										
診査区分	契約年齢	取扱限度額（除く 逓増定期保険）※1	健康診断結果の有効期限	受診者名※4	医療機関名または医師名※5	健康診断受診日※6	身長・体重	血圧	（「＋」「－」等の表示が必要）尿蛋白	（「＋」「－」等の表示が必要）尿糖	GOT（AST）	GPT（ALT）	γ-GTP	総コレステロール（T-cho）または LDLコレステロール	中性脂肪（TG・トリグリセライド）	HbA1c（ヘモグロビンA1c）または 空腹時血糖	ヘモグロビン（Hb・血色素量）	心電図（ECG・EKG）	胸部エックス線	胃部エックス線または胃内視鏡検査	腹部超音波検査（腹部エコー検査）
健康診断書扱 Ⅰ型	15～39歳	基準死亡保険金額：10,000万円 就業不能保険金額：10,000万円	14ヶ月以内																		
	40～85歳 ※2										※7										
健康診断書扱 Ⅱ型	15～39歳	基準死亡保険金額：20,000万円 就業不能保険金額：20,000万円																			
	40～85歳																				
健康診断書扱 Ⅲ型	15～39歳	基準死亡保険金額：30,000万円 就業不能保険金額：30,000万円																			
	40～85歳 ※2	基準死亡保険金額：30,000万円 就業不能保険金額：20,000万円																			
健康診断書扱 Ⅳ型	15～85歳 ※3	基準死亡保険金額：100,000万円 就業不能保険金額：70,000万円																		※8	

（※1）基準死亡保険金額、就業不能保険金額は、それぞれにおいて診査区分を判定いたします（基準死亡保険金額と就業不能保険金額の合算は不要です）。逓増定期保険を含む場合の診査区分ごとの取扱限度額については、「新契約の手引き」をご参照ください。

（※2）就業不能保険金の契約年齢は40～70歳までとなります。

（※3）就業不能保険金の契約年齢は15～70歳までとなります。

（※4）健康診断結果に記載された被保険者情報（氏名・生年月日・性別）は報状と一致している必要があります。
ただし、以下の場合は有効に取り扱います。
①氏名相違（旧姓・通称名、医療機関での誤印字等）の場合、健康診断結果原本余白に「経緯」および「確認者（被保険者ご本人または社員、取扱者）自署」がある
※上記内容を記載した別紙を撮影して健康診断結果画像と合わせてアップロードいただいた場合も取扱可能です
※書面にてご提出の場合は、健康診断結果コピー余白に上記内容がある場合に取扱可能です
②生年月日の記載欄がない体裁の健康診断結果である
③性別の記載欄がない体裁の健康診断結果である

（※5）勤務先で実施された健康診断でわかる記載（勤務先・部署名等）がある場合には、医療機関名・医師名の記載がなくとも取り扱います。

（※6）下記①～③をすべて満たしていることが利用の条件となります。
①受診日の明確な記載がある　②受診日が申込日・告知日より後ではない
③告知日が「健康診断結果有効期限内（受診日から告知日までが14ヶ月以内）」である

（※7）血液検査の実施があれば、血液検査項目の内容を問わず取り扱います。

（※8）PET健診（陽電子放射断層撮影によるがん検診）の場合には、胃部エックス線が不足していても取り扱います。

健康診断書扱でご提出いただく健康診断結果　取扱上の注意点

健康診断書扱で不備が発生した場合は、査定結果のご連絡が遅れることがあります。
お客様の健康診断結果をお取り扱いいただく際のポイントをご紹介しますので、健康診断結果画像のアップロード前（報状送付前）にご注意いただきますようお願いいたします。

⚠ 告知書氏名と一致していますか？

⚠ 医療機関名または医師名の記載はありますか？

⚠ 有効期限は**14か月**以内（*）

（*）健診受診日から告知日でカウントします。

⚠健康保険被保険者証の記号・番号・保険者番号の印字がある場合はふせん等で隠して撮影（コピーを提出する場合は黒塗り等マスキング）していますか？

※ 記号・番号・保険者番号の『見出し』は隠さないようご注意ください。

⚠ 必要検査項目は揃っていますか？

※ 必要検査項目については、前ページをご参照ください。

⚠健康診断結果の撮影時は**折り目**を伸ばして！

⚠ 健康診断結果の撮影・コピーは**鮮明**に！

⚠ 告知に該当しないか確認！

⚠全ページ揃っていますか？

※ 裏面や別紙がないかご注意ください。

⚠健康診断結果の撮影時は**見切れ**が無いように！

※ 文字や数値が読めない場合は再提出をお願いする場合があります。

健康診断結果報告書　　**あんしん健康病院**

安心　太郎　男性
生年月日 平成8年10月1日
東京海上日動健康保険組合
記号：[redacted]
番号：[redacted]
保険者番号：[redacted]

今回	202X/3/18
前回	201X/3/10
前々回	201X/3/13

BMI	23.8
最大血圧	139
最小血圧	87

記号	判定
A	異常なし
B	日常生活問題なし
C	要経過観察
D	要再検査
E	要精密検査
F	要治療
G	治療中

既往歴	尿管結石
現病歴	高血圧 脂質異常症
総合判定	

2 / 3 ページ

健康診断結果の画像もしくはコピーをご提出いただく際の注意点

- ◆ 健康診断結果の撮影をする方（被保険者）もしくはコピーをとる方（被保険者・代理店／取扱者・社員のいずれか）は、健康診断結果原本の全ページを漏れなく撮影（コピー）し、原本と撮影した画像（コピー）の内容に相違がないことを確認してください。
- ◆ 他受診者の検査結果が混在している場合は、本人の検査項目や数値を誤って削除したり、検査項目の見極めが困難になる可能性があるため、本人以外の受診者名のみをふせん等で隠してください。（コピーを提出する場合は黒塗り等マスキングしてください）
- ◆ 必要検査項目以外の項目も含めて、抹消・削除したり、手を加えたりしている画像もしくはコピーはお取扱できません。（健康保険被保険者証の記号・番号・保険者番号のマスキングを除く）

健康診断書扱　必要検査項目　読替え表

◆ 健康診断結果に記載されている検査名は、医療機関によって検査名称が異なることがあります。『告知書（健康診断書扱用）』に記載されている「必要検査項目」と異なる名称であっても、下表の「読替え可能な検査項目名」に記載のものであれば、健康診断書扱をご利用いただけます。
◆ 項目名だけではなく、「数値」「＋/－の表示」「陽性/陰性」「異常なし（正常）」などの結果の記載が必要ですのでご注意ください。

告知書（健康診断書扱用）記載の必要検査項目名	読替え可能な検査項目名
血圧	収縮期/拡張期、最大/最小、最高/最低、ＢＰ
尿蛋白	尿蛋白定量、尿蛋白半定量、尿蛋白定性、蛋白定性、蛋白質（※1）、蛋白（※1）、UP（※1）、ズルホ
尿糖	空腹時尿糖、尿糖半定量、糖定性、糖（※1）、US（※1）、空腹時血糖、血糖、ヘモグロビンA1c、ＨbA1c、ＨbA1、A1c
ＧＯＴ（ＡＳＴ）	SGOT
ＧＰＴ（ＡＬＴ）	SGPT
γ-ＧＴＰ	γ-GT、GGT、G-GTP
ＬＤＬコレステロール または 総コレステロール（Ｔ-ｃｈｏ）	LDL-cho、LDL、LDL-C直接法、LDL-ch、悪玉コレステロール 血清総コレステロール、総-cho、TC、TCHO、CHOL、TCH
中性脂肪（ＴＧ、トリグリセライド）	血清トリグリセライド、TG随時、TGC、TRG

告知書（健康診断書扱用）記載の必要検査項目名	読替え可能な検査項目名
ＨｂＡ１ｃ（ヘモグロビンＡ１ｃ）または 空腹時血糖（※2）	A1c、グリコA1c、糖（※3）、糖代謝、A1c NGSP、HbA1、グルコース・空腹時、血糖、BS、FBS、GLU、グルコース、血清グルコース
ヘモグロビン（Ｈｂ、血色素量）	血色素、ヘモグロビン量、HG、Hgb
胸部エックス線	胸部レントゲン、胸部レ線、呼吸器X線検査、肺X線、胸X線、胸部XP、胸部写真、胸部検査、胸部、胸部CT、ヘリカルCT、PET、PET-CT
胃部エックス線 または 胃内視鏡検査	胃部レントゲン、バリウム検査(胃)、胃透視、胃部XP、上部消化管、上部消化管造影、上部消化管X線、上部消化管透視、胃部、胃所見、上部消化管内視鏡、内視鏡GF検査、胃カメラ、GIF、MDL、全身PET-CT、PET
腹部超音波検査（腹部エコー検査）	上腹部エコー（※4）、上腹部超音波（※4）、腹部CT

＊心電図（ＥＣＧ,ＥＫＧ）の読替え・代替項目はありません。

※1 当該項目が、「尿検査」または「腎機能検査」の項目内に記載があった時のみ読替え可
※2「尿糖」は代替不可（尿糖は精度が落ちるため）
※3 当該項目が、「血液検査」の項目内に記載があった時のみ読替え可
※4「下腹部エコー」「下腹部超音波」は代替不可

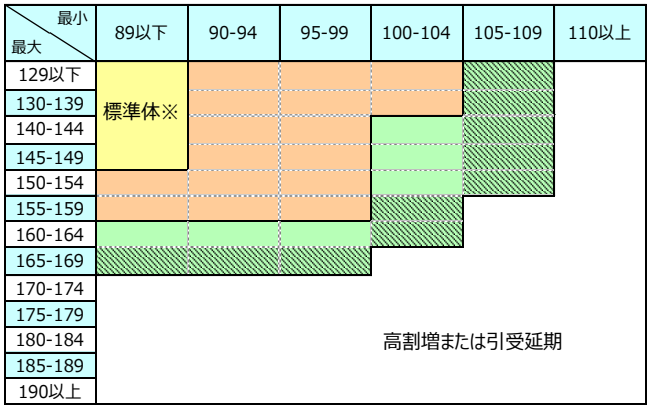
健康診断書扱・健診緩和査定の適用範囲（主な傷病・健康診断検査項目）

健診緩和査定の適用範囲①（血圧）

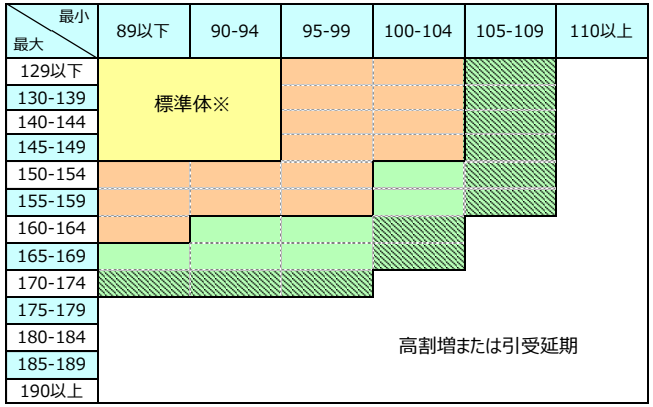
◆下表に記載している基準は、**あくまでも当該傷病・健康診断指摘のみの場合の目安**です。
◆複数年の健康診断で指摘を受けている場合、複数の傷病・健康診断指摘がある場合は本目安と異なる引受査定結果になる場合があります。

■血圧（傷病の引受の目安P.2/健康診断検査項目の引受の目安P.73「高血圧」）

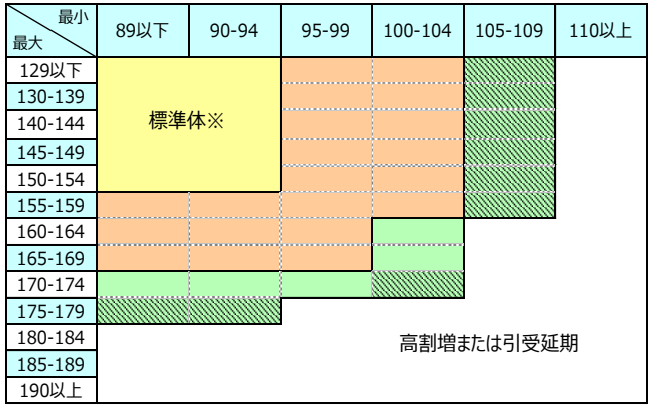
15歳以上 29歳以下



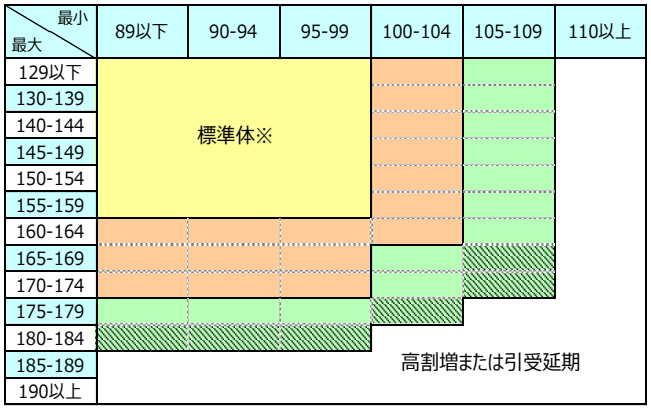
30歳以上 39歳以下



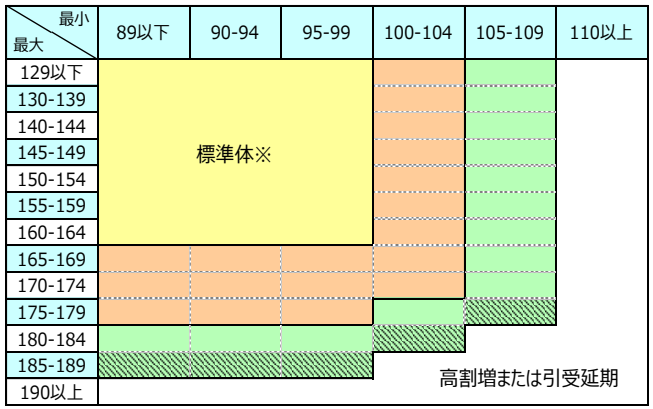
40歳以上 49歳以下



50歳以上 59歳以下



60歳以上



：健診緩和査定が適用され、**標準体**

：健診緩和査定が適用され、以下のように割増条件が緩和
49歳以下の場合…**標準体もしくは割増条件が軽減**
50歳以上の場合…**標準体**

<注>
・治療中で斜線部分（　　）に該当する場合は、健診緩和査定の対象外（高割増または引受延期）となります。
・血圧の単位は「mmHg」です。

※「標準体」と記載されている範囲は、診査区分にかかわらず第一分野または就業不能保障であれば標準体でお引受けできる可能性のある範囲です。
詳細は「引受の目安」の該当ページをご参照ください。

健康診断書扱・健診緩和査定の適用範囲（主な傷病・健康診断検査項目）

健診緩和査定の適用範囲②（脂質・肝機能・糖代謝）

◆下表に記載している基準は、**あくまでも当該傷病・健康診断指摘のみの場合の目安**です。
◆複数年の健康診断で指摘を受けている場合、複数の傷病・健康診断指摘がある場合は本目安と異なる引受査定結果になる場合があります。

■脂質（傷病の引受の目安P.39/健康診断検査項目の目安P.76「脂質異常症」）

<34歳以下>		LDLコレステロール（mg/dl）				
		～189	190～209	210～229	230～249	250～
		総コレステロール（mg/dl）				
		～299	300～349	350～399	400～449	450～
中性脂肪（mg/dl）	～299	標準体※				
	300～399					
	400～599					
	600～799				高割増または引受延期	
	800～					

<35歳以上 54歳以下>		LDLコレステロール（mg/dl）				
		～189	190～209	210～229	230～249	250～
		総コレステロール（mg/dl）				
		～299	300～349	350～399	400～449	450～
中性脂肪（mg/dl）	～299	標準体※				
	300～399					
	400～599					
	600～799				高割増または引受延期	
	800～					

<55歳以上>		LDLコレステロール（mg/dl）				
		～189	190～209	210～229	230～249	250～
		総コレステロール（mg/dl）				
		～299	300～349	350～399	400～449	450～
中性脂肪（mg/dl）	～299	標準体※				
	300～399					
	400～599					
	600～799				高割増または引受延期	
	800～					

：健診緩和査定が適用され、**標準体**
：健診緩和査定が適用され、以下のように割増条件が緩和
49歳以下の場合…**標準体もしくは割増条件が軽減**
50歳以上の場合…**標準体**

<注>
・LDLコレステロールと総コレステロールが判明している場合は、原則LDLコレステロールを優先して適用します。

■肝機能（健康診断検査項目の引受の目安P.76「肝機能障害」）

		GOT(AST) および GPT(ALT)（U/l）						
		～40	41～55	56～65	66～75	76～90	91～110	111～
γ-GTP（U/l）	～100	標準体※						
	101～160							
	161～250							
	251～300						高割増または引受延期	
	301～							

：健診緩和査定が適用され、**標準体**
：健診緩和査定が適用され、以下のように割増条件が緩和
49歳以下の場合…**標準体もしくは割増条件が軽減**
50歳以上の場合…**標準体**

<注>
・GOT（AST）およびGPT（ALT）については、より高い数値を優先して適用します。なお、**49歳以下かつ GOT、GPT、γ-GTPの3項目すべての数値が斜線部分（　）に該当する場合は、割増条件が軽減され、標準体とはならない場合があります。**
・治療中の場合、上記表は適用できません。

■糖代謝（健康診断検査項目の引受の目安P.79「糖代謝異常」）

		HbA1c（%）【NGSP値】					
		6.2～6.4	6.5～7.0	7.1～7.8	7.9～8.4	8.5～9.4	9.5～
		空腹時血糖（mg/dl）					
		～110	111～125	126～130	131～140	141～200	201～
年齢	29歳以下	標準体※			高割増または引受延期		
	30歳以上 39歳以下						
	40歳以上 49歳以下						
	50歳以上 59歳以下						
	60歳以上						

：健診緩和査定が適用され、**標準体**
：健診緩和査定が適用され、以下のように割増条件が緩和
49歳以下の場合…**標準体もしくは割増条件が軽減**
50歳以上の場合…**標準体**

<注>
・HbA1cと空腹時血糖が判明している場合は、原則HbA1cを優先して適用します。
・治療中の場合、上記表は適用できません。

※「標準体」と記載されている範囲は、診査区分にかかわらず第一分野または就業不能保障であれば標準体でお引受けできる可能性のある範囲です。
詳細は「引受の目安」の該当ページをご参照ください。

数値告知可能な検査項目

＜使用上のご注意＞
◆ 告知内容や数値などによっては、健康診断結果等をご提出いただく場合があります。
◆ 複数年指摘を受けている場合、複数項目の指摘を受けている場合、治療をしている場合、関連疾患の治療歴がある場合などは本目安と異なる結果になる場合があります。
◆ 数値告知可能な疾患または検査項目で、複数回の測定値が判明している場合、過去の測定値も加味する場合があります。

数値告知とは

医療機関での測定値を告知いただくことで、健康診断結果などをご提出いただくことなく、引受査定を行う制度です。
なお、この制度は「告知書扱」「診査扱」のいずれの選択方法にも適用可能です。

対象検査項目

疾患名　または　健診指摘項目	年齢	数値告知に必要な数値	告知該当が 健診指摘のみの場合	告知該当が 現症 または 治療歴ありの場合
高血圧	全年齢	最大血圧、最小血圧	数値告知可	数値告知可
脂質異常症、高脂血症		中性脂肪（TG/トリグリセライド）、 LDLコレステロール　または　総コレステロール（T-cho）		
高尿酸血症、痛風		尿酸（UA）		
肝機能異常		GOT（AST）、GPT（ALT）、γ-GTP		数値告知不可 （客観的資料要）
尿検査（尿蛋白、尿潜血、尿糖）※1		尿蛋白		
		尿潜血		
		尿糖		
糖代謝		HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）または 空腹時血糖		
貧血	49歳以下	ヘモグロビン（Hb/血色素量）		数値告知不可 （客観的資料要） ※「鉄欠乏性貧血」の場合は数値告知可

※1 「尿検査」の測定値は、「陰性」「陽性」ではなく、「－（マイナス）」、「＋（プラス）」、「２＋」など、具体的な検査結果の告知をお願いします。

告知方法

告知される場合には、傷病名（健診指摘項目名）や治療開始時期/健診指摘時期など通常の告知とあわせて、
詳細告知欄に下記①～③すべての告知をお願いします。

①医療機関における測定値　②測定時期（年月）　③測定医療機関名

診査区分表

使用上の注意

- 「契約年齢（契約日時点での満年齢）」をもとに、「『契約日時点で有効な既契約』と『新契約』」を合算した基準死亡保険金額または就業不能保険金額を通算して判定します。
- 基準死亡保険金額・就業不能保険金額の通算対象となる保険種類については、「新契約の手引き」をご確認ください。
- 特定疾病保障等を担保する保険種類をお申込みの場合には、「個別の引受限度額規定」が設けられておりますのでご注意ください。
- 必ず「新契約の手引き」や「オンライン試算」での確認をお願いいたします。
- 下記【告知書扱】【健康診断書扱】【医師扱】の表は、あくまでも診査区分を判断する表です。これらの表とは別に、フィナンシャル査定により、お引受が制限されることがある点、ご注意ください。

告知書扱

契約年齢	死亡保険金通算限度額 ※1（通算期間：5年間）	就業不能保険金通算限度額 ※1（通算期間：5年間）
0～14歳	1,000 万円	
15～39歳	4,000 万円	4,000 万円
40～49歳	2,000 万円 ※2	2,000 万円
50～60歳	1,000 万円 ※3	1,000 万円
61～65歳	1,000 万円 ※3	500 万円
66～70歳	500 万円 ※4	500 万円
71～75歳	500 万円	
76～85歳	300 万円	
86歳～	取扱不可	

- 特定疾病保障等を担保する保険種類をお申込みの場合には、個別の告知書扱通算限度額規定が設けられています（詳細は「新契約の手引き」を参照）。特に、あんしん就業不能保障保険（Ⅱ型・Ⅲ型）を申し込む場合はご注意ください。

※1 告知書扱で加入した既契約と今回加入の契約が通算対象となります。
※2 家計保障定期保険を含む場合は、4,000万円まで取扱可能です。
※3 家計保障定期保険を含む場合は、2,000万円まで取扱可能です。
※4 家計保障定期保険を含む場合は、1,000万円まで取扱可能です。

基準死亡保険金額・就業不能保険金額通算限度

契約年齢	基準死亡保険金通算限度額 ※1（通算期間：全期間）	就業不能保険金通算限度額（通算期間：全期間）
0～14歳 ※2 ※3	1,000 万円	
15～19歳 ※4	5,000 万円	5,000 万円

- 職業によってもお引受が制限される場合があります。詳細は「新契約の手引き」をご確認ください。

※1 メディカルKit ＮＥＯ・メディカルKit Ｒの無解約返戻金型終身死亡保障は通算対象となります。
※2 全期間かつ全社通算となります。
※3 災害割増特約・傷害特約の保険金額も通算します。また、こども保険の被保険者については、基準祝金額ではなく、災害死亡保険金額（基準祝金額の２倍）を通算します。
※4 低解約返戻金型逓増定期保険・逓増定期保険Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ型の場合は、初年度の保険金額を適用します。

「告知書扱限度」を超過した場合、取扱いが簡便な「健康診断書扱」のご利用をご検討ください。

健康診断書扱

基準死亡保険金額と就業不能保険金額のそれぞれにおいて、診査区分を判定します（基準死亡保険金額と就業不能保険金額の合算は不要です）。

契約年齢		～10,000万円	～20,000万円	～30,000万円	～50,000万円	～70,000万円	～100,000万円
０～１４歳※1	-	取扱不可					
１５～３９歳	死亡（逓増定期以外）※2	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型		
	就業不能	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型		
４０～８５歳	死亡（逓増定期以外）※2	Ⅰ型	Ⅲ型		Ⅳ型		
	就業不能 ※3	Ⅰ型	Ⅲ型	Ⅳ型			
８６歳～	-	取扱不可					

- 必要検査項目については、最新の「新契約の手引き」や「告知書（健康診断書扱用）」等をご参照ください。
- 保険種類によっては、取扱いに別途規定がありますので、必ず「新契約の手引き」や「オンライン試算」もご確認ください。

※1 入院給付金通算額が告知書扱の取扱限度額を超過する場合は、Ⅰ型にて取扱可能です。
※2 逓増定期保険を含む場合の診査区分ごとの取扱限度額については、「新契約の手引き」をご参照ください。
※3 契約年齢は40～70歳までとなります。

定期的に健康診断を受診されていない場合、有効期限・必要項目の関係等で健康診断書扱を利用できない場合は、医師扱をご利用ください。

医師扱（心電図・血液実施基準）

基準死亡保険金額と就業不能保険金額のそれぞれにおいて、診査区分を判定します（基準死亡保険金額と就業不能保険金額の合算は不要です）。

契約年齢	（通算期間：2年間）	～1,000万円	～7,000万円	～10,000万円	～20,000万円	～50,000万円	～70,000万円	～100,000万円
０～１４歳※1	-							
１５～３９歳	死亡（逓増定期以外 ※2）	指定嘱託医					特別嘱託医	
	就業不能	指定嘱託医					特別嘱託医	
	特殊検査					心電図・血液		
４０～４９歳	死亡（逓増定期以外 ※2）	指定嘱託医					特別嘱託医	
	就業不能	指定嘱託医					特別嘱託医	
	特殊検査				心電図	心電図・血液		
５０～６５歳	死亡（逓増定期以外 ※2）	指定嘱託医					特別嘱託医	
	就業不能	指定嘱託医					特別嘱託医	
	特殊検査			心電図		心電図・血液		
６６～８５歳	死亡（逓増定期以外 ※2）	指定嘱託医					特別嘱託医	
	就業不能 ※3	指定嘱託医					特別嘱託医	
	特殊検査			心電図	心電図・血液			
８６歳～	-	取扱不可						

- 契約年齢が15～85歳で、今回申込みの基準死亡保険金額または就業不能保険金額が10,000万円以上の場合は、特別嘱託医での診査が可能です。

※1 契約年齢0～14歳については、全期間かつ全社通算の基準死亡保険金額1,000万円までの取扱いになります。
※2 逓増定期保険を含む場合の診査区分ごとの取扱限度額については、「新契約の手引き」をご参照ください。
※3 契約年齢は66～70歳までとなります。

あんしん治療サポート保険　お申込み時の注意点

1. 引受に関する注意点

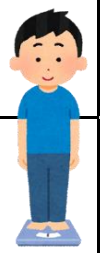
◆告知事項の**質問番号1項～5項がすべて「いいえ」（※1・※2）**
かつ**BMIが所定の範囲内**の場合、お申込みいただけます。

◆BMI数値が下表の範囲外となる場合は、お引受けすることができません。

※1:告知質問の内容については告知書をご確認ください。
※2:「入院一時給付金特約」および「早期治療支援特約」の付帯を希望する場合は、
質問番号6項～9項についてもご確認ください。

BMI数値

年齢	BMI
20～39歳	15～34未満
40～59歳	男性：16～34未満 女性：15～34未満
60～74歳	17～36未満
75歳～	18～36未満



2. 料率に関する注意点

「健康割引保険料率」の適用については、以下の基準を満たす必要があります。

◆血圧の基準

14カ月以内に受診した
直近の健康診断・人間ドックの結果が、以下を満たす。

最大血圧　139mmHg以下
かつ
最小血圧　89mmHg以下

●告知のポイント

①**受診日**は、**年月"日"**までご記載ください。
②**実施医療機関名**についても必ずご記載ください。

◆喫煙歴

過去1年以内に、
喫煙したことがない。

◆1回の受診で複数回測定されている場合は、
その中で1回でも**最大血圧・最小血圧が同時に上記基準を満たす**必要があります。

◆**ご自宅での測定値は記入しないでください。**

五十音順索引

頭文字	傷病名･健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
あ	RSR	あーるえすあーる		73
あ	RSR'パターン	あーるえすあーる'ぱたーん		73
あ	RSRパターン	あーるえすあーるぱたーん		73
あ	RSウイルス感染症	あーるえすういるすかんせんしょう	12	
あ	R波増高	あーるはぞうこう		74
あ	R波増高不良	あーるはぞうこうふりょう		74
あ	IgA血管炎	あいじーえーけっかんえん	41	
あ	IgA腎症	あいじーえーじんしょう	22	
あ	アキレス腱断裂	あきれすけんだんれつ	48	
あ	悪性睾丸腫瘍（セミノーマ）	あくせいこうがんしゅよう（せみのーま）	38	
あ	悪性貧血	あくせいひんけつ	41	
あ	悪性リンパ腫	あくせいりんぱしゅ	38	
あ	足の骨折	あしのこっせつ	48	
あ	足の打撲	あしのだぼく	44	
あ	足の捻挫	あしのねんざ	44	
あ	足指の欠損	あしゆびのけっそん	54	
あ	あせも	あせも	58	
あ	アテローム	あてろーむ	57	
あ	アトピー性皮膚炎	あとぴーせいひふえん	55	
あ	アルコール依存症	あるこーるいぞんしょう	10	
あ	アルコール性慢性肝炎	あるこーるせいまんせいかんえん	21	
あ	アルツハイマー病	あるつはいまーびょう	10	
あ	アルドステロン症	あるどすてろんしょう	42	
あ	アレルギー性結膜炎	あれるぎーせいけつまくえん	26	
あ	アレルギー性紫斑病	あれるぎーせいしはんびょう	41	
あ	アレルギー性鼻炎	あれるぎーせいびえん	28	
い	胃アトニー	いあとにー	16	
い	胃アトニー	いあとにー		82
い	EBウイルス肝炎	いーびーういるすかんえん	20	
い	EBウイルス感染症	いーびーういるすかんせんしょう	20	
い	胃SMT	いえすえむてぃー	30	
い	胃炎	いえん	16	
い	胃炎	いえん		82
い	胃潰瘍	いかいよう	16	
い	胃潰瘍	いかいよう		83
い	胃潰瘍瘢痕	いかいようはんこん		83
い	胃下垂	いかすい	16	
い	胃下垂	いかすい		82
い	胃カタル	いかたる	16	
い	胃癌	いがん	33	
い	胃憩室炎	いけいしつえん	17	
い	胃憩室炎	いけいしつえん		83
い	胃憩室症	いけいしつしょう	17	
い	胃憩室症	いけいしつしょう		83
い	胃酸過多	いさんかた	16	
い	萎縮性胃炎	いしゅくせいいえん		82
い	異常Q波	いじょうきゅーは		74
い	異常出血	いじょうしゅっけつ	59	
い	胃上皮内癌	いじょうひないがん	33	
い	胃静脈瘤	いじょうみゃくりゅう	16	
い	胃食道逆流症	いしょくどうぎゃくりゅうしょう	16	
い	胃食道逆流症	いしょくどうぎゃくりゅうしょう		82
い	泉熱	いずみねつ	15	
い	胃穿孔（外傷性）	いせんこう（がいしょうせい）	53	
い	1度房室ブロック	いちどぼうしつぶろっく		74
い	胃腸穿孔（外傷性）	いちょうせんこう（がいしょうせい）	53	
い	胃痛	いつう	67	
い	遺伝性進行性舞踏病	いでんせいしんこうせいぶとうびょう	10	
い	胃粘膜下腫瘍	いねんまくかしゅよう	30	
い	胃粘膜下腫瘍	いねんまくかしゅよう		84
い	胃粘膜内癌	いねんまくないがん	33	
い	胃びらん	いびらん		82
い	いぼ	いぼ	58	
い	いぼ痔	いぼじ	19	
い	胃ポリープ	いぽりーぷ	30	
い	胃ポリープ	いぽりーぷ		83
い	イレウス	いれうす	18	
い	陰茎癌	いんけいがん	38	
い	陰性T	いんせいてぃー		75
い	咽頭炎	いんとうえん	11	
い	咽頭癌	いんとうがん	38	
い	咽頭食道憩室炎	いんとうしょくどうけいしつえん	17	
い	咽頭食道憩室症	いんとうしょくどうけいしつしょう	17	
い	陰嚢水腫	いんのうすいしゅ	24	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
い	陰嚢ヘルニア	いんのうへるにあ	18	
い	インフルエンザ	いんふるえんざ	14	
う	ウイルス性胃腸炎	ういるすせいいちょうえん	16	
う	ウイルス性髄膜炎	ういるすせいずいまくえん	15	
う	ウイルス性脳炎	ういるすせいのうえん	15	
う	うおのめ	うおのめ	58	
う	右軸偏位	うじくへんい		75
う	うっ血性心不全	うっけつせいしんふぜん	3	
う	うつ病	うつびょう	9	
う	腕の骨折	うでのこっせつ	47	
う	腕の打撲	うでのだぼく	44	
う	腕の捻挫	うでのねんざ	44	
え	エイズ	えいず	41	
え	HBVキャリア	えいちびーぶいきゃりあ	20	
え	ALP	えーえるぴー		78
え	A型肝炎	えーがたかんえん	20	
え	エコノモ脳炎	えこのものうえん	15	
え	SLE	えすえるいー	56	
え	S状結腸癌	えすじょうけっちょうがん	32	
え	S状結腸粘膜内癌	えすじょうけっちょうねんまくないがん	32	
え	S状結腸ポリープ	えすじょうけっちょうぽりーぷ	30	
え	S状結腸ポリープ	えすじょうけっちょうぽりーぷ		90
え	ST上昇	えすてぃーじょうしょう		75
え	ST-T低下	えすてぃーてぃーていか		75
え	ST低下	えすてぃーていか		75
え	LGL症候群	えるじーえるしょうこうぐん	5	
え	円形脱毛症	えんけいだつもうしょう	58	
え	円錐角膜	えんすいかくまく	27	
お	横隔膜挙上	おうかくまくきょじょう		80
お	黄斑円孔	おうはんえんこう		71
お	黄斑上膜	おうはんじょうまく		71
お	黄斑前膜	おうはんぜんまく		71
お	黄斑変性症	おうはんへんせいしょう	26	
お	黄斑変性症	おうはんへんせいしょう		71
お	悪阻（つわり）	おそ（つわり）	63	
お	おたふくかぜ	おたふくかぜ	15	
お	親知らず	おやしらず	29	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
が	外耳炎	がいじえん	28	
が	外痔核	がいじかく	19	
が	外耳道炎	がいじどうえん	28	
が	外傷性気胸	がいしょうせいききょう	14	
が	外傷性クモ膜下出血	がいしょうせいくもまくかしゅっけつ	45	
が	外傷性頚部症候群	がいしょうせいけいぶしょうこうぐん	44	
か	蟹足腫	かいそくしゅ	58	
か	潰瘍性大腸炎	かいようせいだいちょうえん	18	
か	過活動膀胱	かかつどうぼうこう	24	
が	顎関節症	がくかんせつしょう	29	
が	顎骨骨折	がくこつこっせつ	46	
が	顎骨嚢胞	がくこつのうほう	29	
か	拡張型心筋症	かくちょうがたしんきんしょう	3	
か	下肢骨折	かしこっせつ	48	
か	下肢静脈瘤	かしじょうみゃくりゅう	53	
か	下肢の機能障害（一下肢）	かしのきのうしょうがい（いちかし）	54	
か	下肢の機能障害（両下肢）	かしのきのうしょうがい（りょうかし）	54	
か	下肢の切断（一下肢）	かしのせつだん（いちかし）	54	
か	下肢の切断（両下肢）	かしのせつだん（りょうかし）	54	
か	下肢の打撲	かしのだぼく	44	
か	下肢の捻挫	かしのねんざ	44	
か	火傷	かしょう	58	
か	下垂体腺腫	かすいたいせんしゅ	38	
か	かぜ（感冒）	かぜ（かんぼう）	14	
か	肩関節周囲炎	かたかんせつしゅういえん	52	
か	肩こり	かたこり	52	
か	肩の骨折	かたのこっせつ	47	
か	カタル性結膜炎	かたるせいけつまくえん	26	
か	過敏性大腸炎	かびんせいだいちょうえん	18	
か	過敏性腸症候群	かびんせいちょうしょうこうぐん	18	
か	花粉症	かふんしょう	28	
が	ガマ腫	がましゅ	29	
か	加齢黄斑変性	かれいおうはんへんせい	26	
か	加齢黄斑変性	かれいおうはんへんせい		71
か	過労	かろう	67	
か	川崎病	かわさきびょう	5	
が	眼窩骨折	がんかこっせつ	46	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
が	眼窩底骨折	がんかていこっせつ	46	
が	（眼窩）吹き抜け骨折	がんかふきぬけこっせつ	46	
か	肝癌（肝臓癌）	かんがん（かんぞうがん）	38	
か	肝機能障害	かんきのうしょうがい	20	
か	肝機能障害	かんきのうしょうがい		76
が	ガングリオン	がんぐりおん	57	
か	肝血管腫	かんけっかんしゅ		85
が	眼瞼下垂	がんけんかすい	27	
か	肝硬変	かんこうへん	21	
が	含歯性嚢胞	がんしせいのうほう	29	
か	カンジダ症（膣炎）	かんじだしょう（ちつえん）	65	
か	間質性肺炎	かんしつせいはいえん	11	
か	鉗子分娩	かんしぶんべん	62	
か	関節リウマチ	かんせつりうまち	56	
か	乾癬	かんせん	56	
が	頑癬・股部白癬（いんきん）	がんせん・こぶはくせん（いんきん）	55	
か	完全右脚ブロック	かんぜんうきゃくぶろっく		73
か	完全左脚ブロック	かんぜんさきゃくぶろっく		73
か	感染性胃腸炎	かんせんせいいちょうえん	16	
か	肝臓病	かんぞうびょう	20	
か	肝損傷	かんそんしょう	53	
が	眼底出血	がんていしゅっけつ		72
か	肝内結石	かんないけっせき		85
か	肝内石灰化	かんないせっかいか		87
か	陥入爪	かんにゅうそう	58	
か	肝嚢胞	かんのうほう		85
か	汗疱性白癬	かんぽうせいはくせん	55	
が	顔面神経痛	がんめんしんけいつう	7	
が	顔面神経麻痺	がんめんしんけいまひ	7	
が	顔面白癬（はたけ）	がんめんはくせん（はたけ）	55	
き	期外収縮	きがいしゅうしゅく	4	
き	期外収縮	きがいしゅうしゅく		73
き	気管支炎（急性）	きかんしえん（きゅうせい）	11	
き	気管支炎（慢性）	きかんしえん（まんせい）	13	
き	気管支拡張症	きかんしかくちょうしょう	13	
き	気管支拡張像	きかんしかくちょうぞう		80
き	気管支喘息	きかんしぜんそく	13	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
き	気管支肺炎	きかんしはいえん	11	
き	気胸	ききょう	14	
ぎ	ぎっくり腰	ぎっくりごし	44	
ぎ	逆流性食道炎	ぎゃくりゅうせいしょくどうえん	16	
ぎ	逆流性食道炎	ぎゃくりゅうせいしょくどうえん		82
き	吸引分娩	きゅういんぶんべん	62	
き	臼蓋形成不全	きゅうがいけいせいふぜん	52	
き	急性胃炎	きゅうせいいえん	16	
き	急性胃腸炎	きゅうせいいちょうえん	16	
き	急性胃粘膜病変	きゅうせいいねんまくびょうへん		82
き	急性咽頭炎	きゅうせいいんとうえん	11	
き	急性A型肝炎	きゅうせいえーがたかんえん	20	
き	急性肝炎	きゅうせいかんえん	20	
き	急性気管支炎	きゅうせいきかんしえん	11	
き	急性喉頭炎	きゅうせいこうとうえん	11	
き	急性硬膜外血腫	きゅうせいこうまくがいけっしゅ	45	
き	急性硬膜下血腫	きゅうせいこうまくかけっしゅ	45	
き	急性上気道炎	きゅうせいじょうきどうえん	14	
き	急性腎炎	きゅうせいじんえん	22	
き	急性膵炎	きゅうせいすいえん	19	
き	急性中耳炎	きゅうせいちゅうじえん	27	
き	急性乳腺炎	きゅうせいにゅうせんえん	65	
き	急性肺炎	きゅうせいはいえん	11	
き	急性B型肝炎	きゅうせいびーがたかんえん	20	
き	境界型糖尿病	きょうかいがたとうにょうびょう	40	
き	胸郭構造不良	きょうかくこうぞうふりょう	51	
き	胸郭変形	きょうかくへんけい		81
き	狭心症	きょうしんしょう	3	
き	胸椎骨折	きょうついこっせつ	47	
き	胸椎椎間板ヘルニア	きょうついついかんばんへるにあ	50	
き	強迫性障害	きょうはくせいしょうがい	10	
き	胸部打撲	きょうぶだぼく	44	
き	胸膜肥厚	きょうまくひこう		80
き	胸膜癒着	きょうまくゆちゃく		80
ぎ	ギランバレー症候群	ぎらんばれーしょうこうぐん	7	
き	筋萎縮性側索硬化症	きんいしゅくせいそくさくこうかしょう	10	
き	禁煙外来	きんえんがいらい	68	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
き	筋ジストロフィー症	きんじすとろふぃーしょう	10	
く	空洞影	くうどうえい		80
く	クモ膜下出血（外傷性に限る）	くもまくかしゅっけつ（がいしょうせいにかぎる）	45	
く	クモ膜下出血（外傷性は除く）	くもまくかしゅっけつ（がいしょうせいはのぞく）	6	
く	クラミジア	くらみじあ	15	
く	クレアチニン	くれあちにん		79
ぐ	グレーブス病	ぐれーぶすびょう	42	
く	クレチン症	くれちんしょう	42	
く	クローン病	くろーんびょう	18	
け	頚肩腕障害	けいけんわんしょうがい	52	
け	頚肩腕症候群	けいけんわんしょうこうぐん	52	
け	憩室炎（胃/十二指腸）	けいしつえん（い/じゅうにしちょう）	17	
け	憩室炎（胃/十二指腸）	けいしつえん（い/じゅうにしちょう）		83
け	憩室炎（咽頭/食道）	けいしつえん（いんとう/しょくどう）	17	
け	憩室炎（食道）	けいしつえん（しょくどう）		83
け	憩室炎（大腸/小腸）	けいしつえん（だいちょう/しょうちょう）	17	
け	憩室炎（大腸/小腸）	けいしつえん（だいちょう/しょうちょう）		90
け	憩室症（胃/十二指腸）	けいしつしょう（い/じゅうにしちょう）	17	
け	憩室症（胃/十二指腸）	けいしつしょう（い/じゅうにしちょう）		83
け	憩室症（咽頭/食道）	けいしつしょう（いんとう/しょくどう）	17	
け	憩室症（食道）	けいしつしょう（しょくどう）		83
け	憩室症（大腸/小腸）	けいしつしょう（だいちょう/しょうちょう）	17	
け	憩室症（大腸/小腸）	けいしつしょう（だいちょう/しょうちょう）		90
け	頸椎骨折	けいついこっせつ	47	
け	頚椎症	けいついしょう	50	
け	頚椎症性神経根症	けいついしょうせいしんけいこんしょう	50	
け	頚椎椎間板ヘルニア	けいついついかんばんへるにあ	50	
け	頚椎捻挫	けいついねんざ	44	
け	頸動脈プラーク	けいどうみゃくぷらーく		93
け	血管性紫斑病	けっかんせいしはんびょう	41	
げ	月経異常	げっけいいじょう	59	
げ	月経困難症	げっけいこんなんしょう	59	
げ	月経前症候群	げっけいぜんしょうこうぐん	59	
げ	月経痛	げっけいつう	59	
け	血小板減少性紫斑病	けっしょうばんげんしょうせいしはんびょう	41	
け	血小板の異常	けっしょうばんのいじょう		78
け	結節影（肺）	けっせつえい（はい）		80

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
け	結節性甲状腺腫	けっせつせいこうじょうせんしゅ	43	
け	結節性甲状腺腫	けっせつせいこうじょうせんしゅ		93
け	結節性動脈周囲炎	けっせつせいどうみゃくしゅういえん	57	
け	結腸癌	けっちょうがん	32	
け	結腸粘膜内癌	けっちょうねんまくないがん	32	
け	結腸ポリープ	けっちょうぽりーぷ	30	
け	結腸ポリープ	けっちょうぽりーぷ		90
け	結膜炎	けつまくえん	26	
け	血友病	けつゆうびょう	42	
げ	下痢	げり	67	
け	ケロイド	けろいど	58	
け	腱鞘炎	けんしょうえん	52	
げ	原発性アルドステロン症	げんぱつせいあるどすてろんしょう	42	
こ	口蓋裂	こうがいれつ	29	
こ	高眼圧	こうがんあつ		71
こ	高眼圧症	こうがんあつしょう	25	
こ	睾丸炎	こうがんえん	24	
こ	睾丸損傷	こうがんそんしょう	53	
こ	睾丸摘出（外傷性）	こうがんてきしゅつ（がいしょうせい）	53	
こ	高血圧	こうけつあつ	2	
こ	高血圧	こうけつあつ		73
こ	高血糖	こうけっとう		79
こ	膠原病	こうげんびょう	56	
こ	高コレステロール血症	こうこれすてろーるけっしょう	39	
こ	高コレステロール血症	こうこれすてろーるけっしょう		76
こ	虹彩炎	こうさいえん	27	
こ	虹彩毛様体炎	こうさいもうようたいえん	27	
こ	高脂血症	こうしけっしょう	39	
こ	高脂血症	こうしけっしょう		76
こ	甲状腺過形成	こうじょうせんかけいせい	43	
こ	甲状腺過形成	こうじょうせんかけいせい		93
こ	甲状腺癌	こうじょうせんがん	34	
こ	甲状腺機能亢進症	こうじょうせんきのうこうしんしょう	42	
こ	甲状腺機能低下症	こうじょうせんきのうていかしょう	42	
こ	甲状腺腫	こうじょうせんしゅ	43	
こ	甲状腺腫	こうじょうせんしゅ		93
こ	口唇口蓋裂	こうしんこうがいれつ	29	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
こ	口唇裂	こうしんれつ	29	
こ	硬性白斑	こうせいはくはん		72
こ	拘束型心筋症	こうそくがたしんきんしょう	3	
こ	高中性脂肪血症	こうちゅうせいしぼうけっしょう	39	
こ	高中性脂肪血症	こうちゅうせいしぼうけっしょう		76
こ	高電位差	こうでんいさ		74
こ	後天性免疫不全症候群	こうてんせいめんえきふぜんしょうこうぐん	41	
こ	喉頭炎	こうとうえん	11	
こ	喉頭癌	こうとうがん	38	
こ	喉頭ポリープ	こうとうぽりーぷ	32	
こ	喉頭ポリープ	こうとうぽりーぷ		93
こ	高度視力障害（片眼）	こうどしりょくしょうがい（かため）	26	
こ	高度視力障害（両眼）	こうどしりょくしょうがい（りょうめ）	26	
こ	高尿酸血症	こうにょうさんけっしょう	40	
こ	高尿酸血症	こうにょうさんけっしょう		76
こ	更年期障害	こうねんきしょうがい	59	
こ	高プロラクチン血症	こうぷろらくちんけっしょう	43	
こ	肛門癌	こうもんがん	38	
こ	肛門周囲炎	こうもんしゅういえん	19	
こ	肛門周囲膿瘍	こうもんしゅういのうよう	19	
こ	股関節骨折	こかんせつこっせつ	48	
ご	五十肩	ごじゅうかた	52	
こ	骨髄異形成症候群	こつずいいけいせいしょうこうぐん	41	
こ	骨折（下肢）	こっせつ（かし）	48	
こ	骨折（肩）	こっせつ（かた）	47	
こ	骨折（股関節）	こっせつ（こかんせつ）	48	
こ	骨折（骨盤）	こっせつ（こつばん）	47	
こ	骨折（鎖骨）	こっせつ（さこつ）	46	
こ	骨折（上肢）	こっせつ（じょうし）	47	
こ	骨折（頭蓋骨）	こっせつ（ずがいこつ）	45	
こ	骨折（脊椎）	こっせつ（せきつい）	47	
こ	骨折（大腿骨）	こっせつ（だいたいこつ）	48	
こ	骨折（肋骨）	こっせつ（ろっこつ）	47	
こ	骨粗鬆症	こつそしょうしょう	53	
こ	骨盤骨折	こつばんこっせつ	47	
こ	骨盤膿瘍	こつばんのうよう	65	
こ	骨盤腹膜炎	こつばんふくまくえん	65	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
こ	コロナ陽性	ころなようせい	12	
さ	細菌性結膜炎	さいきんせいけつまくえん	26	
さ	細菌性髄膜炎	さいきんせいずいまくえん	15	
さ	細菌性肺炎	さいきんせいはいえん	11	
さ	再生不良性貧血	さいせいふりょうせいひんけつ	41	
さ	索状影	さくじょうえい		80
さ	鎖骨骨折	さこつこっせつ	46	
ざ	坐骨神経痛	ざこつしんけいつう	51	
さ	左軸偏位	さじくへんい		75
さ	左室高電位	さしつこうでんい		74
さ	左室肥大	さしつひだい		74
さ	サルコイドーシス	さるこいどーしす	57	
さ	三叉神経痛	さんさしんけいつう	7	
さ	産褥熱	さんじょくねつ	63	
さ	三尖弁狭窄症	さんせんべんきょうさくしょう	4	
さ	三尖弁閉鎖不全症	さんせんべんへいさふぜんしょう	4	
さ	霰粒腫	さんりゅうしゅ	27	
じ	痔	じ	19	
じ	GERD	じーいーあーるでぃー	16	
じ	GERD	じーいーあーるでぃー		82
し	COPD	しーおーぴーでぃー	13	
し	C型肝炎	しーがたかんえん	21	
し	シェーグレン症候群	しぇーぐれんしょうこうぐん	57	
し	シェーンライン・ヘノッホ紫斑病	しぇーんらいん・へのっほしはんびょう	41	
じ	痔核	じかく	19	
し	子癇	しかん	64	
し	子宮外妊娠	しきゅうがいにんしん	61	
し	子宮下垂	しきゅうかすい	61	
し	子宮筋腫	しきゅうきんしゅ	59	
し	子宮筋腫	しきゅうきんしゅ		91
し	子宮頸癌	しきゅうけいがん	34	
し	子宮頸管ポリープ	しきゅうけいかんぽりーぷ	31	
し	子宮頸管ポリープ	しきゅうけいかんぽりーぷ		92
し	子宮頸部異型上皮	しきゅうけいぶいけいじょうひ	60	
し	子宮頸部異型上皮	しきゅうけいぶいけいじょうひ		91
し	子宮頸部異形成	しきゅうけいぶいけいせい	60	
し	子宮頸部異形成	しきゅうけいぶいけいせい		91

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
し	子宮頸部高度異形成	しきゅうけいぶこうどいけいせい	60	
し	子宮頸部上皮内癌	しきゅうけいぶじょうひないがん	34	
し	子宮出血	しきゅうしゅっけつ	59	
し	子宮腺筋症	しきゅうせんきんしょう	60	
し	子宮体癌	しきゅうたいがん	35	
し	子宮脱	しきゅうだつ	61	
し	子宮内膜炎	しきゅうないまくえん	61	
し	子宮内膜症	しきゅうないまくしょう	60	
し	子宮内膜増殖症	しきゅうないまくぞうしょくしょう	61	
し	子宮内膜ポリープ	しきゅうないまくぽりーぷ	31	
し	子宮内膜ポリープ	しきゅうないまくぽりーぷ		92
し	子宮付属器炎	しきゅうふぞくきえん	61	
し	子宮ポリープ	しきゅうぽりーぷ	31	
し	子宮ポリープ	しきゅうぽりーぷ		92
し	歯根嚢胞	しこんのうほう	29	
し	死産	しざん	62	
し	脂質異常症	ししついじょうしょう	39	
し	脂質異常症	ししついじょうしょう		76
し	四十肩	しじゅうかた	52	
し	視神経乳頭陥凹拡大	ししんけいにゅうとうかんおうかくだい		71
し	自然気胸	しぜんききょう	14	
し	湿疹	しっしん	55	
し	失明（片眼）	しつめい（かため）	26	
し	失明（両眼）	しつめい（りょうめ）	26	
し	脂肪肝	しぼうかん	20	
し	脂肪肝	しぼうかん		85
し	脂肪腫	しぼうしゅ	57	
し	嗜眠性脳炎	しみんせいのうえん	15	
し	しもやけ	しもやけ	58	
じ	弱視（片眼）	じゃくし（かため）	26	
じ	弱視（両眼）	じゃくし（りょうめ）	26	
し	斜視	しゃし	27	
じ	重症筋無力症	じゅうしょうきんむりょくしょう	10	
じ	十二指腸潰瘍	じゅうにしちょうかいよう	16	
じ	十二指腸潰瘍	じゅうにしちょうかいよう		83
じ	十二指腸潰瘍瘢痕	じゅうにしちょうかいようはんこん		83
じ	十二指腸憩室炎	じゅうにしちょうけいしつえん	17	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
じ	十二指腸憩室炎	じゅうにしちょうけいしつえん		83
じ	十二指腸憩室症	じゅうにしちょうけいしつしょう	17	
じ	十二指腸憩室症	じゅうにしちょうけいしつしょう		83
じ	十二指腸粘膜下腫瘍	じゅうにしちょうねんまくかしゅよう		84
じ	十二指腸ポリープ	じゅうにしちょうぽりーぷ		83
し	手根管症候群	しゅこんかんしょうこうぐん	52	
し	腫瘤影（肺）	しゅりゅうえい（はい）		80
じ	上肢骨折	じょうしこっせつ	47	
し	硝子体出血	しょうしたいしゅっけつ		72
じ	上室性期外収縮	じょうしつせいきがいしゅうしゅく	4	
じ	上室性期外収縮	じょうしつせいきがいしゅうしゅく		73
じ	上肢の機能障害（一上肢）	じょうしのきのうしょうがい（いちじょうし）	54	
じ	上肢の機能障害（両上肢）	じょうしのきのうしょうがい（りょうじょうし）	54	
じ	上肢の切断（一上肢）	じょうしのせつだん（いちじょうし）	54	
じ	上肢の切断（両上肢）	じょうしのせつだん（りょうじょうし）	54	
じ	上肢の打撲	じょうしのだぼく	44	
じ	上肢の捻挫	じょうしのねんざ	44	
し	掌蹠膿疱症	しょうせきのうほうしょう	55	
し	小腸憩室炎	しょうちょうけいしつえん	17	
し	小腸憩室炎	しょうちょうけいしつえん		90
し	小腸憩室症	しょうちょうけいしつしょう	17	
し	小腸憩室症	しょうちょうけいしつしょう		90
し	食道癌	しょくどうがん	38	
し	食道憩室炎	しょくどうけいしつえん	17	
し	食道憩室炎	しょくどうけいしつえん		83
し	食道憩室症	しょくどうけいしつしょう	17	
し	食道憩室症	しょくどうけいしつしょう		83
し	食道静脈瘤	しょくどうじょうみゃくりゅう	16	
し	食道粘膜下腫瘍	しょくどうねんまくかしゅよう		84
し	食道ポリープ	しょくどうぽりーぷ	30	
し	食道ポリープ	しょくどうぽりーぷ		84
し	食道裂孔ヘルニア	しょくどうれっこうへるにあ	16	
し	食道裂孔ヘルニア	しょくどうれっこうへるにあ		83
し	食物アレルギー	しょくもつあれるぎー	55	
じ	徐脈	じょみゃく		73
じ	自律神経失調症	じりつしんけいしっちょうしょう	9	
し	視力回復手術	しりょくかいふくしゅじゅつ	25	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
し	視力低下	しりょくていか		71
じ	痔裂	じれつ	19	
じ	痔ろう	じろう	19	
じ	耳漏	じろう（みみ）	27	
じ	腎盂炎	じんうえん	22	
じ	腎盂拡張	じんうかくちょう		87
じ	腎盂腎炎	じんうじんえん	22	
じ	腎炎（急性）	じんえん（きゅうせい）	22	
じ	腎炎（慢性）	じんえん（まんせい）	22	
し	新型コロナウイルス感染症	しんがたころなういるすかんせんしょう	12	
じ	腎癌（腎臓癌）	じんがん（じんぞうがん）	37	
し	心筋梗塞	しんきんこうそく	3	
し	心筋症	しんきんしょう	3	
し	神経症	しんけいしょう	10	
し	神経症性障害	しんけいしょうせいしょうがい	10	
し	神経性胃炎	しんけいせいいえん	16	
じ	腎血管筋脂肪腫	じんけっかんきんしぼうしゅ		86
じ	腎結石	じんけっせき	22	
じ	腎結石	じんけっせき		86
し	進行性筋ジストロフィー症	しんこうせいきんじすとろふぃーしょう	10	
じ	人工妊娠中絶	じんこうにんしんちゅうぜつ	63	
じ	人工流産	じんこうりゅうざん	63	
し	心室性期外収縮	しんしつせいきがいしゅうしゅく	4	
し	心室性期外収縮	しんしつせいきがいしゅうしゅく		73
し	心室中隔欠損症	しんしつちゅうかくけっそんしょう	4	
じ	腎周囲膿瘍	じんしゅういのうよう	22	
し	真珠腫性中耳炎	しんじゅしゅせいちゅうじえん	28	
し	滲出性中耳炎	しんしゅつせいちゅうじえん	28	
し	浸潤影	しんじゅんえい		81
じ	尋常性乾癬	じんじょうせいかんせん	56	
じ	尋常性ざ瘡	じんじょうせいざそう	56	
じ	尋常性白斑	じんじょうせいはくはん	58	
じ	尋常性疣贅	じんじょうせいゆうぜい	58	
し	真性赤血球増加症	しんせいせっけっきゅうぞうかしょう	42	
じ	腎生体提供者	じんせいたいていきょうしゃ	23	
し	真性多血症	しんせいたけつしょう	42	
じ	腎石灰化	じんせっかいか		87

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
じ	腎臓奇形	じんぞうきけい		86
じ	腎臓結石	じんぞうけっせき		86
じ	腎臓病	じんぞうびょう	22	
し	心臓弁膜症	しんぞうべんまくしょう	4	
じ	腎損傷	じんそんしょう	53	
じ	靭帯損傷	じんたいそんしょう	48	
じ	靭帯断裂	じんたいだんれつ	48	
じ	腎ドナー	じんどなー	23	
じ	腎嚢胞	じんのうほう		86
じ	腎膿瘍	じんのうよう	22	
し	心肥大	しんひだい		74
し	心不全	しんふぜん	3	
じ	腎不全（慢性）	じんふぜん（まんせい）	23	
し	心房細動	しんぼうさいどう	5	
し	心房細動	しんぼうさいどう		73
し	心房粗動	しんぼうそどう	5	
し	心房粗動	しんぼうそどう		73
し	心房中隔欠損症	しんぼうちゅうかくけっそんしょう	4	
じ	蕁麻疹	じんましん	58	
す	膵炎（急性）	すいえん（きゅうせい）	19	
す	膵炎（慢性）	すいえん（まんせい）	19	
す	膵癌（膵臓癌）	すいがん（すいぞうがん）	38	
す	膵管拡張	すいかんかくちょう		87
す	水腎症	すいじんしょう	23	
す	膵損傷	すいそんしょう	53	
す	膵胆管合流異常	すいたんかんごうりゅういじょう	21	
す	膵胆管合流異常	すいたんかんごうりゅういじょう		86
す	膵嚢胞	すいのうほう		86
す	膵嚢胞	すいのうほう	19	
す	膵膿瘍	すいのうよう	19	
ず	髄膜炎	ずいまくえん	15	
す	睡眠時無呼吸症候群	すいみんじむこきゅうしょうこうぐん	14	
ず	頭蓋骨骨折	ずがいこつこっせつ	45	
ず	頭痛	ずつう	66	
せ	精索静脈瘤	せいさくじょうみゃくりゅう	24	
せ	正常洞調律	せいじょうどうちょうりつ		75
せ	正常分娩	せいじょうぶんべん	62	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
せ	声帯ポリープ	せいたいぽりーぷ	32	
せ	声帯ポリープ	せいたいぽりーぷ		93
せ	生理痛	せいりつう	59	
せ	生理不順	せいりふじゅん	59	
せ	咳喘息	せきぜんそく	13	
せ	脊柱管狭窄症（腰部）	せきちゅうかんきょうさくしょう（ようぶ）	50	
せ	脊柱側弯症	せきちゅうそくわんしょう	50	
せ	脊柱側弯症	せきちゅうそくわんしょう		81
せ	脊柱弯曲症	せきちゅうわんきょくしょう	50	
せ	脊柱弯曲症	せきちゅうわんきょくしょう		81
せ	脊椎骨折	せきついこっせつ	47	
せ	脊椎分離症（腰椎）	せきついぶんりしょう（ようつい）	51	
せ	石灰化影（肺）	せっかいかえい（はい）		80
ぜ	舌癌	ぜつがん	38	
せ	摂食障害	せっしょくしょうがい	10	
せ	接触性皮膚炎	せっしょくせいひふえん	55	
せ	切迫早産	せっぱくそうざん	62	
せ	切迫流産	せっぱくりゅうざん	62	
せ	腺腫様甲状腺腫	せんしゅようこうじょうせんしゅ	43	
せ	腺腫様甲状腺腫	せんしゅようこうじょうせんしゅ		93
せ	線状影	せんじょうえい		80
ぜ	全身性エリテマトーデス	ぜんしんせいえりてまとーです	56	
ぜ	全身性強皮症	ぜんしんせいきょうひしょう	57	
ぜ	全身性硬化症	ぜんしんせいこうかしょう	57	
ぜ	全身性紅斑性狼瘡	ぜんしんせいこうはんせいろうそう	56	
ぜ	喘息	ぜんそく	13	
ぜ	前置胎盤	ぜんちたいばん	62	
せ	先天性甲状腺機能低下症	せんてんせいこうじょうせんきのうていかしょう	42	
せ	先天性股関節脱臼	せんてんせいこかんせつだっきゅう	52	
せ	先天性胆道拡張症	せんてんせいたんどうかくちょうしょう	21	
ぜ	前立腺炎	ぜんりつせんえん	24	
ぜ	前立腺癌	ぜんりつせんがん	35	
ぜ	前立腺肥大	ぜんりつせんひだい	24	
ぜ	前立腺肥大	ぜんりつせんひだい		93
そ	躁うつ病	そううつびょう	10	
そ	早期再分極	そうきさいぶんきょく		75
そ	双極性障害	そうきょくせいしょうがい	10	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
そ	早産	そうざん	62	
そ	総胆管拡張	そうたんかんかくちょう		87
そ	総胆管拡張症	そうたんかんかくちょうしょう	21	
そ	総胆管結石	そうたんかんけっせき	21	
そ	躁病	そうびょう	10	
そ	総ビリルビン	そうびりるびん		78
そ	僧帽弁逸脱症	そうぼうべんいつだつしょう	4	
そ	僧帽弁逸脱症候群	そうぼうべんいつだつしょうこうぐん	4	
そ	僧帽弁狭窄症	そうぼうべんきょうさくしょう	4	
そ	僧帽弁閉鎖不全症	そうぼうべんへいさふぜんしょう	4	
そ	鼠径ヘルニア	そけいへるにあ	18	
そ	そばかす	そばかす	58	
た	体格	たいかく	68	
た	体格	たいかく		71
た	帯状疱疹	たいじょうほうしん	56	
だ	大腿骨骨折	だいたいこつこっせつ	48	
だ	大腿ヘルニア	だいたいへるにあ	18	
だ	大腸癌	だいちょうがん	32	
だ	大腸憩室炎	だいちょうけいしつえん	17	
だ	大腸憩室炎	だいちょうけいしつえん		90
だ	大腸憩室症	だいちょうけいしつしょう	17	
だ	大腸憩室症	だいちょうけいしつしょう		90
だ	大腸乳頭腫	だいちょうにゅうとうしゅ	30	
だ	大腸乳頭腫	だいちょうにゅうとうしゅ		90
だ	大腸粘膜内癌（上皮内癌含む）	だいちょうねんまくないがん（じょうひないがんふくむ）	32	
だ	大腸ポリープ	だいちょうぽりーぷ	30	
だ	大腸ポリープ	だいちょうぽりーぷ		90
た	耐糖能異常	たいとうのういじょう	40	
だ	大動脈解離	だいどうみゃくかいり	5	
だ	大動脈拡張	だいどうみゃくかくちょう		81
だ	大動脈弓突出	だいどうみゃくきゅうとっしゅつ		80
だ	大動脈蛇行	だいどうみゃくだこう		80
だ	大動脈弁狭窄症	だいどうみゃくべんきょうさくしょう	4	
だ	大動脈弁閉鎖不全症	だいどうみゃくべんへいさふぜんしょう	4	
だ	大動脈瘤	だいどうみゃくりゅう	5	
だ	大脳白質病変	だいのうはくしつびょうへん		93
た	胎盤早期剥離	たいばんそうきはくり	62	

頭文字	傷病名･健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
た	体部白癬（ぜにたむし）	たいぶはくせん（ぜにたむし）	55	
た	高いT波	たかいてぃーは		75
た	たこ	たこ	58	
だ	唾石症	だせきしょう	29	
だ	脱臼	だっきゅう	49	
だ	脱肛	だっこう	19	
だ	脱腸	だっちょう	18	
た	多嚢胞性卵巣症候群	たのうほうせいらんそうしょうこうぐん	61	
た	多発性筋炎	たはつせいきんえん	57	
た	多発性硬化症	たはつせいこうかしょう	10	
た	多発性神経根炎	たはつせいしんけいこんえん	7	
た	多発性腎嚢胞	たはつせいじんのうほう	23	
た	多発性動脈炎	たはつせいどうみゃくえん	57	
だ	WPW症候群	だぶりゅーぴーだぶりゅーしょうこうぐん	5	
だ	WPW症候群	だぶりゅーぴーだぶりゅーしょうこうぐん		74
だ	打撲（胸部）	だぼく（きょうぶ）	44	
だ	打撲（上肢/下肢）	だぼく（じょうし/かし）	44	
だ	打撲（頭部）	だぼく（とうぶ）	44	
だ	打撲（腰部）	だぼく（ようぶ）	44	
た	胆管炎	たんかんえん	21	
た	胆管拡張	たんかんかくちょう		87
た	胆管癌	たんかんがん	38	
た	胆管結石	たんかんけっせき	21	
た	胆管結石	たんかんけっせき		85
た	胆石	たんせき		85
た	胆石症	たんせきしょう	21	
た	胆道炎	たんどうえん	21	
た	胆嚢炎	たんのうえん	21	
た	胆嚢癌	たんのうがん	38	
た	胆嚢結石	たんのうけっせき	21	
た	胆嚢結石	たんのうけっせき		85
た	胆嚢腺筋腫症	たんのうせんきんしゅしょう	31	
た	胆嚢腺筋腫症	たんのうせんきんしゅしょう		85
た	胆嚢損傷	たんのうそんしょう	53	
た	胆嚢壁肥厚	たんのうへきひこう		87
た	胆嚢ポリープ	たんのうぽりーぷ	31	
た	胆嚢ポリープ	たんのうぽりーぷ		85

頭文字	傷病名･健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
だ	弾発指	だんぱつし	52	
ち	蓄膿症	ちくのうしょう	29	
ち	膣癌	ちつがん	38	
ち	膣カンジダ症	ちつかんじだしょう	65	
ち	中耳炎（急性）	ちゅうじえん（きゅうせい）	27	
ち	中耳炎（真珠腫性）	ちゅうじえん（しんじゅしゅせい）	28	
ち	中耳炎（慢性）	ちゅうじえん（まんせい）	27	
ち	中心性漿液性網脈絡膜炎	ちゅうしんせいしょうえきせいもうみゃくらくまくえん	26	
ち	中心性漿液性網脈絡膜症	ちゅうしんせいしょうえきせいもうみゃくらくまくしょう	26	
ち	中心性網膜炎	ちゅうしんせいもうまくえん	26	
ち	中心性網膜症	ちゅうしんせいもうまくしょう	26	
ち	虫垂炎	ちゅうすいえん	17	
ち	肘部管症候群	ちゅうぶかんしょうこうぐん	52	
ち	腸重積	ちょうじゅうせき	18	
ち	腸穿孔（外傷性）	ちょうせんこう（がいしょうせい）	53	
ち	腸捻転	ちょうねんてん	18	
ち	腸閉塞	ちょうへいそく	18	
ち	聴力障害（片耳）	ちょうりょくしょうがい（かたみみ）	28	
ち	聴力障害（両耳）	ちょうりょくしょうがい（りょうみみ）	28	
ち	聴力低下	ちょうりょくていか		71
ち	直腸癌	ちょくちょうがん	32	
ち	直腸乳頭腫	ちょくちょうにゅうとうしゅ	30	
ち	直腸乳頭腫	ちょくちょうにゅうとうしゅ		90
ち	直腸粘膜内癌	ちょくちょうねんまくないがん	32	
ち	直腸ポリープ	ちょくちょうぽりーぷ	30	
ち	直腸ポリープ	ちょくちょうぽりーぷ		90
ち	チョコレート嚢胞	ちょこれーとのうほう	60	
ち	陳旧性胸膜炎	ちんきゅうせいきょうまくえん		81
ち	陳旧性肺結核	ちんきゅうせいはいけっかく		81
ち	陳旧性肺病変	ちんきゅうせいはいびょうへん		81
つ	椎間板症（胸椎）	ついかんばんしょう（きょうつい）	50	
つ	椎間板症（頚椎）	ついかんばんしょう（けいつい）	50	
つ	椎間板症（腰椎）	ついかんばんしょう（ようつい）	50	
つ	椎間板ヘルニア（胸椎）	ついかんばんへるにあ（きょうつい）	50	
つ	椎間板ヘルニア（頚椎）	ついかんばんへるにあ（けいつい）	50	
つ	椎間板ヘルニア（腰椎）	ついかんばんへるにあ（ようつい）	50	
つ	椎体骨折	ついたいこっせつ	47	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
つ	痛風	つうふう	40	
つ	痛風	つうふう		76
つ	爪白癬	つめはくせん	55	
つ	爪水虫	つめみずむし	55	
て	手足口病	てあしくちびょう	55	
て	T波増高	てぃーはぞうこう		75
て	帝王切開	ていおうせっかい	62	
て	低電位差	ていでんいさ		75
て	停留睾丸	ていりゅうこうがん	23	
て	停留精巣	ていりゅうせいそう	23	
て	適応障害	てきおうしょうがい	9	
て	滴状乾癬	てきじょうかんせん	56	
て	鉄欠乏性貧血	てつけつぼうせいひんけつ	41	
て	手の骨折	てのこっせつ	47	
て	手の打撲	てのだぼく	44	
て	手の捻挫	てのねんざ	44	
て	手指の欠損	てゆびのけっそん	54	
て	てんかん	てんかん	7	
で	伝染性紅斑	でんせんせいこうはん	15	
で	伝染性単核球症	でんせんせいたんかくきゅうしょう	20	
で	伝染性膿痂疹（とびひ）	でんせんせいのうかしん（とびひ）	56	
と	統合失調症	とうごうしっちょうしょう	10	
ど	洞性徐脈	どうせいじょみゃく		73
ど	洞性頻脈	どうせいひんみゃく		73
と	凍瘡	とうそう	58	
と	糖代謝異常	とうたいしゃいじょう		79
と	糖尿病	とうにょうびょう	40	
と	頭部打撲	とうぶだぼく	44	
と	頭部白癬（しらくも）	とうぶはくせん（しらくも）	55	
ど	動脈管開存症	どうみゃくかんかいぞんしょう	4	
と	特発性血小板減少性紫斑病	とくはつせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう	41	
と	時計回転	とけいかいてん		75
と	突発性難聴	とっぱつせいなんちょう	28	
と	突発性発疹症	とっぱつせいほっしんしょう	55	
ど	ドライアイ	どらいあい	27	
ど	ドルーゼン	どるーぜん		72
な	内痔核	ないじかく	19	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
な	内性子宮内膜症	ないせいしきゅうないまくしょう	60	
な	ナルコレプシー	なるこれぷしー	7	
な	軟性白斑	なんせいはくはん		72
な	難聴（片耳）	なんちょう（かたみみ）	28	
な	難聴（両耳）	なんちょう（りょうみみ）	28	
に	にきび	にきび	56	
に	肉腫	にくしゅ	38	
に	二相性T	にそうせいてぃー		74
に	日光角化症	にっこうかくかしょう	38	
に	2度房室ブロック	にどぼうしつぶろっく		74
に	日本脳炎	にほんのうえん	15	
に	乳癌	にゅうがん	33	
に	乳嘴突起炎	にゅうしとっきえん	27	
に	乳汁漏出症	にゅうじゅうろうしゅつしょう	43	
に	乳汁漏出性無月経症候群	にゅうじゅうろうしゅつせいむげっけいしょうこうぐん	43	
に	乳腺炎（急性）	にゅうせんえん（きゅうせい）	65	
に	乳腺腫瘤	にゅうせんしゅりゅう	65	
に	乳腺腫瘤	にゅうせんしゅりゅう		92
に	乳腺症	にゅうせんしょう	65	
に	乳腺症	にゅうせんしょう		92
に	乳腺石灰化	にゅうせんせっかいか	65	
に	乳腺石灰化	にゅうせんせっかいか		92
に	乳腺線維腺腫	にゅうせんせんいせんしゅ	65	
に	乳腺線維腺腫	にゅうせんせんいせんしゅ		92
に	乳腺嚢胞	にゅうせんのうほう	65	
に	乳腺嚢胞	にゅうせんのうほう		92
に	乳腺膿瘍	にゅうせんのうよう	65	
に	乳腺の良性腫瘍	にゅうせんのりょうせいしゅよう	65	
に	乳腺の良性腫瘍	にゅうせんのりょうせいしゅよう		92
に	乳房外パジェット病	にゅうぼうがいぱじぇっとびょう	38	
に	乳房腫瘤	にゅうぼうしゅりゅう	65	
に	乳房腫瘤	にゅうぼうしゅりゅう		92
に	乳房上皮内癌	にゅうぼうじょうひないがん	33	
に	乳房石灰化	にゅうぼうせっかいか	65	
に	乳房石灰化	にゅうぼうせっかいか		92
に	乳房の良性腫瘍	にゅうぼうのりょうせいしゅよう	65	
に	乳房の良性腫瘍	にゅうぼうのりょうせいしゅよう		92

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
に	乳房非浸潤癌	にゅうぼうひしんじゅんがん	33	
に	乳様突起炎	にゅうようとっきえん	27	
に	尿管結石	にょうかんけっせき	22	
に	尿管結石	にょうかんけっせき		86
に	尿潜血	にょうせんけつ		89
に	尿蛋白	にょうたんぱく		88
に	尿糖	にょうとう		88
に	尿道炎	にょうどうえん	22	
に	尿道結石	にょうどうけっせき	22	
に	尿道結石	にょうどうけっせき		86
に	尿道損傷	にょうどうそんしょう	53	
に	尿膜管遺残	にょうまくかんいざん	23	
に	尿路感染症	にょうろかんせんしょう	22	
に	尿路結石	にょうろけっせき	22	
に	尿路結石	にょうろけっせき		86
に	妊娠悪阻	にんしんおそ	63	
に	妊娠高血圧症候群	にんしんこうけつあつしょうこうぐん	63	
に	妊娠中	にんしんちゅう	62	
に	妊娠中毒症	にんしんちゅうどくしょう	63	
に	妊娠糖尿病	にんしんとうにょうびょう	64	
に	認知症	にんちしょう	10	
ね	熱傷	ねっしょう	58	
ね	熱性けいれん	ねっせいけいれん	7	
ね	ネフローゼ症候群	ねふろーぜしょうこうぐん	22	
ね	捻挫（頚椎）	ねんざ（けいつい）	44	
ね	捻挫（上肢/下肢）	ねんざ（じょうし/かし）	44	
ね	捻挫（腰部/腰椎）	ねんざ（ようぶ/ようつい）	44	
の	ノイローゼ	のいろーぜ	10	
の	脳萎縮	のういしゅく	10	
の	脳梗塞	のうこうそく	6	
の	脳出血	のうしゅっけつ	6	
の	脳震盪	のうしんとう	44	
の	脳動静脈瘻	のうどうじょうみゃくろう	6	
の	脳動脈瘤	のうどうみゃくりゅう	6	
の	嚢胞影（肺）	のうほうえい（はい）		80
の	嚢胞腎	のうほうじん	23	
ぱ	パーキンソン病	ぱーきんそんびょう	10	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
は	肺炎	はいえん	11	
は	肺癌	はいがん	35	
は	肺気胸	はいききょう	14	
は	肺気腫	はいきしゅ	13	
は	肺結核	はいけっかく	11	
は	肺動脈弁狭窄症	はいどうみゃくべんきょうさくしょう	4	
は	肺嚢胞	はいのうほう	12	
は	肺嚢胞	はいのうほう		81
は	肺MAC症	はいまっくしょう	12	
ば	瀑状胃	ばくじょうい		84
は	白癬疹	はくせんしん	55	
は	白内障	はくないしょう	25	
は	白斑	はくはん	58	
ば	麦粒腫	ばくりゅうしゅ	27	
は	はしか	はしか	15	
は	橋本病	はしもとびょう	42	
ば	バセドウ病	ばせどうびょう	42	
は	発育性股関節形成不全	はついくせいこかんせつけいせいふぜん	52	
は	白血球減少	はっけっきゅうげんしょう		78
は	白血球増多	はっけっきゅうぞうた		78
は	白血病	はっけつびょう	38	
ば	馬蹄腎	ばていじん		86
は	鳩胸	はとむね	51	
は	鼻茸	はなたけ	28	
は	鼻ポリープ	はなぽりーぷ	28	
ぱ	パニック障害	ぱにっくしょうがい	10	
ば	ばね指	ばねゆび	52	
ば	バレット食道	ばれっとしょくどう		82
は	半月板損傷	はんげつばんそんしょう	48	
は	瘢痕像	はんこんぞう		80
は	斑状影	はんじょうえい		81
は	斑状小水疱性白癬（たむし）	はんじょうしょうすいほうせいはくせん（たむし）	55	
は	ハンチントン舞踏病	はんちんとんぶとうびょう	10	
は	反時計回転	はんとけいかいてん		75
ぴ	PR短縮	ぴーあーるたんしゅく		74
び	BMI	びーえむあい	68	
び	BMI	びーえむあい		71

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
ぴ	PMS	ぴーえむえす	59	
び	B型肝炎（急性）	びーがたかんえん（きゅうせい）	20	
び	B型肝炎（慢性）	びーがたかんえん（まんせい）	20	
び	B型肝炎ウイルスキャリア	びーがたかんえんういるすきゃりあ	20	
ぴ	PQ延長	ぴーきゅーえんちょう		74
び	鼻炎	びえん	28	
ひ	非結核性抗酸菌症	ひけっかくせいこうさんきんしょう	12	
び	鼻骨骨折	びこつこっせつ	46	
ひ	膝の骨折	ひざのこっせつ	48	
ひ	膝の打撲	ひざのだぼく	44	
ひ	膝の捻挫	ひざのねんざ	44	
ひ	脾損傷	ひそんしょう	53	
ひ	肥大型心筋症	ひだいがたしんきんしょう	3	
び	鼻中隔弯曲症	びちゅうかくわんきょくしょう	29	
ひ	非定型抗酸菌症	ひていけいこうさんきんしょう	12	
ひ	皮膚癌（悪性黒色腫/メラノーマ）	ひふがん（あくせいこくしょくしゅ/めらのーま）	37	
ひ	皮膚癌（基底細胞癌）	ひふがん（きていさいぼうがん）	37	
ひ	皮膚癌（種類不明）	ひふがん（しゅるいふめい）	37	
ひ	皮膚癌（有棘細胞癌）	ひふがん（ゆうきょくさいぼうがん）	37	
ひ	皮膚筋炎	ひふきんえん	57	
ひ	皮膚腫瘍	ひふしゅよう	37	
ひ	皮膚上皮内癌	ひふじょうひないがん	38	
ひ	非ホジキンリンパ腫	ひほじきんりんぱしゅ	38	
ひ	肥満	ひまん	68	
ひ	肥満	ひまん		71
ひ	表層性胃炎	ひょうそうせいいえん		82
ひ	表皮内癌	ひょうひないがん	38	
び	びらん性胃炎	びらんせいいえん	16	
び	びらん性胃炎	びらんせいいえん		82
ひ	疲労	ひろう	67	
ぴ	ピロリ菌	ぴろりきん	16	
ぴ	ピロリ菌陽性	ぴろりきんようせい		82
ひ	貧血	ひんけつ		77
ひ	貧血（鉄欠乏性貧血以外）	ひんけつ（てつけつぼうせいひんけついがい）	40	
ひ	頻脈	ひんみゃく		73
ふ	ファロー四徴症	ふぁろーしちょうしょう	4	
ふ	不安障害	ふあんしょうがい	10	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
ふ	フィッシャー症候群	ふぃっしゃーしょうこうぐん	7	
ふ	風疹	ふうしん	15	
ふ	不応性貧血	ふおうせいひんけつ	41	
ふ	不完全右脚ブロック	ふかんぜんうきゃくぶろっく		73
ふ	副睾丸炎	ふくこうがんえん	24	
ふ	腹痛	ふくつう	67	
ふ	副鼻腔炎	ふくびくうえん	29	
ふ	腹部静脈瘤	ふくぶじょうみゃくりゅう	16	
ふ	腹膜炎	ふくまくえん	17	
ふ	不正性器出血	ふせいせいきしゅっけつ	59	
ふ	不整脈	ふせいみゃく	4	
ぶ	ぶどう膜炎	ぶどうまくえん	27	
ふ	不妊症（女性）	ふにんしょう（じょせい）	64	
ふ	不妊症（男性）	ふにんしょう（だんせい）	64	
ふ	不眠症	ふみんしょう	8	
ぶ	ブラ	ぶら	12	
ぶ	ブラ	ぶら		81
ぶ	ブルガダ型波形	ぶるがだがたはけい		75
ふ	フレグモーネ	ふれぐもーね	56	
ぶ	ブローアウト骨折	ぶろーあうとこっせつ	46	
ふ	粉瘤	ふんりゅう	57	
へ	平低T	へいていてぃー		74
べ	ベーチェット病	べーちぇっとびょう	57	
へ	ヘリコバクター・ピロリ菌	へりこばくたー・ぴろりきん	16	
へ	ヘルニア	へるにあ	50	
べ	ベル麻痺	べるまひ	7	
へ	変形性関節症（股関節）	へんけいせいかんせつしょう（こかんせつ）	49	
へ	変形性関節症（膝関節）	へんけいせいかんせつしょう（ひざかんせつ）	49	
へ	変形性胸椎症	へんけいせいきょうついしょう	51	
へ	変形性頚椎症	へんけいせいけいついしょう	50	
へ	変形性股関節症	へんけいせいこかんせつしょう	49	
へ	変形性脊椎症（胸椎）	へんけいせいせきついしょう（きょうつい）	51	
へ	変形性脊椎症（頚椎）	へんけいせいせきついしょう（けいつい）	50	
へ	変形性脊椎症（腰椎）	へんけいせいせきついしょう（ようつい）	51	
へ	変形性膝関節症	へんけいせいひざかんせつしょう	49	
へ	変形性腰椎症	へんけいせいようついしょう	51	
へ	片頭痛	へんずつう	66	

頭文字	傷病名･健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
べ	便潜血	べんせんけつ		90
へ	扁桃炎（急性）	へんとうえん（きゅうせい）	11	
へ	扁桃炎（慢性）	へんとうえん（まんせい）	11	
へ	扁桃周囲炎	へんとうしゅういえん	11	
へ	扁桃周囲膿瘍	へんとうしゅういのうよう	11	
へ	扁桃肥大	へんとうひだい	11	
べ	便秘	べんぴ	67	
ほ	蜂窩織炎	ほうかしきえん	56	
ぼ	膀胱炎	ぼうこうえん	22	
ぼ	膀胱癌	ぼうこうがん	36	
ぼ	膀胱結石	ぼうこうけっせき	22	
ぼ	膀胱結石	ぼうこうけっせき		86
ぼ	膀胱上皮内癌	ぼうこうじょうひないがん	36	
ぼ	膀胱損傷	ぼうこうそんしょう	53	
ほ	胞状奇胎	ほうじょうきたい	65	
ほ	蜂巣炎	ほうそうえん	56	
ぼ	ボーエン病	ぼーえんびょう	38	
ほ	頬骨骨折	ほおぼねこっせつ	46	
ほ	ホジキン病	ほじきんびょう	38	
ぼ	ボタロー管開存症	ぼたろーかんかいぞんしょう	4	
ほ	発作性上室性頻拍	ほっさせいじょうしつせいひんぱく	5	
ま	マイコプラズマ感染症	まいこぷらずまかんせんしょう	11	
ま	マイコプラズマ肺炎	まいこぷらずまはいえん	11	
ま	埋伏智歯	まいふくちし	29	
ま	まき爪	まきづめ	58	
ま	麻疹	ましん	15	
ま	慢性アルコール中毒	まんせいあるこーるちゅうどく	10	
ま	慢性胃炎	まんせいいえん	16	
ま	慢性肝炎	まんせいかんえん	21	
ま	慢性関節リウマチ	まんせいかんせつりうまち	56	
ま	慢性気管支炎	まんせいきかんしえん	13	
ま	慢性甲状腺炎	まんせいこうじょうせんえん	42	
ま	慢性硬膜外血腫	まんせいこうまくがいけっしゅ	45	
ま	慢性硬膜下血腫	まんせいこうまくかけっしゅ	45	
ま	慢性糸球体腎炎	まんせいしきゅうたいじんえん	22	
ま	慢性腎炎	まんせいじんえん	22	
ま	慢性腎不全	まんせいじんふぜん	23	

頭文字	傷病名･健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
ま	慢性膵炎	まんせいすいえん	19	
ま	慢性中耳炎	まんせいちゅうじえん	27	
ま	慢性脳虚血性変化	まんせいのうきょけつせいへんか		93
ま	慢性B型肝炎	まんせいびーがたかんえん	20	
ま	慢性副鼻腔炎	まんせいふくびくうえん	29	
ま	慢性閉塞性肺疾患	まんせいへいそくせいはいしっかん	13	
ま	慢性扁桃炎	まんせいへんとうえん	11	
み	みずぼうそう	みずぼうそう	58	
み	水虫	みずむし	55	
み	耳鳴	みみなり	66	
み	脈絡膜炎	みゃくらくまくえん	27	
む	無菌性髄膜炎	むきんせいずいまくえん	15	
む	虫歯	むしば	29	
む	無症候性脳梗塞	むしょうこうせいのうこうそく		93
む	無症候性脳出血	むしょうこうせいのうしゅっけつ		93
む	むちうち症	むちうちしょう	44	
む	むちうち損傷	むちうちそんしょう	44	
め	迷入膵	めいにゅうすい		84
め	メッケル憩室炎	めっけるけいしつえん	17	
め	メッケル憩室炎	めっけるけいしつえん		90
め	メッケル憩室症	めっけるけいしつしょう	17	
め	メッケル憩室症	めっけるけいしつしょう		90
め	メニエール症候群	めにえーるしょうこうぐん	28	
め	メニエール病	めにえーるびょう	28	
め	めばちこ	めばちこ	27	
め	めまい	めまい	66	
も	蒙古斑	もうこはん	58	
も	網状影	もうじょうえい		81
も	盲腸	もうちょう	17	
も	網膜色素変性症	もうまくしきそへんせいしょう	26	
も	網膜色素変性症	もうまくしきそへんせいしょう		71
も	網膜出血	もうまくしゅっけつ		72
も	網膜剥離	もうまくはくり	25	
も	網膜裂孔	もうまくれっこう	25	
も	ものもらい	ものもらい	27	
や	やけど	やけど	58	
や	やせ	やせ	68	

頭文字	傷病名・健康診断指摘項目	かな	傷病	健診
や	やせ	やせ		71
よ	腰椎骨折	ようついこっせつ	47	
よ	腰椎すべり症	ようついすべりしょう	51	
よ	腰椎椎間板ヘルニア	ようついついかんばんへるにあ	50	
よ	腰椎捻挫	ようついねんざ	44	
よ	腰椎分離症	ようついぶんりしょう	51	
よ	腰痛	ようつう	44	
よ	腰部脊柱管狭窄症	ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう	50	
よ	腰部打撲	ようぶだぼく	44	
よ	腰部捻挫	ようぶねんざ	44	
よ	翼状片	よくじょうへん	27	
ら	ラクナ梗塞	らくなこうそく	6	
ら	卵管炎	らんかんえん	61	
ら	卵巣炎	らんそうえん	61	
ら	卵巣癌	らんそうがん	38	
ら	卵巣出血	らんそうしゅっけつ	59	
ら	卵巣腫瘍	らんそうしゅよう	61	
ら	卵巣嚢腫	らんそうのうしゅ	61	
ら	卵巣嚢腫	らんそうのうしゅ		92
ら	卵巣嚢胞	らんそうのうほう	61	
ら	卵巣嚢胞	らんそうのうほう		92
り	リウマチ様関節炎	りうまちようかんせつえん	56	
り	リポーマ	りぽーま	57	
り	流行性結膜炎	りゅうこうせいけつまくえん	26	
り	流行性耳下腺炎	りゅうこうせいじかせんえん	15	
り	流産	りゅうざん	62	
り	粒状影	りゅうじょうえい		81
り	良性発作性頭位めまい症	りょうせいほっさせいとういめまいしょう	28	
り	緑内障	りょくないしょう	25	
り	緑内障	りょくないしょう		71
り	りんご病	りんごびょう	15	
れ	レーシック	れーしっく	25	
れ	裂肛	れっこう	19	
ろ	漏斗胸	ろうときょう	51	
ろ	漏斗胸	ろうときょう		81
ろ	肋骨骨折	ろっこつこっせつ	47	

特定疾病・部位不担保表

部位 No	身体部位・特定疾病の名称
1	眼球、眼球附属器（眼瞼、結膜、眼筋、網膜を含みます。）および視神経
2	耳（内耳、中耳、外耳、聴神経を含みます。）および乳様突起
3	鼻（副鼻腔を含みます。）
4	咽頭および喉頭
5	口腔、歯、歯肉、舌、顎下腺、耳下腺および 舌下腺
6	甲状腺
7	食道
8	胃、十二指腸および空腸
9	小腸（十二指腸、空腸、回腸）および大腸（結腸、直腸、盲腸、虫様突起）
10	盲腸および虫様突起
11	直腸および肛門
12	肝臓、胆嚢および胆管
13	膵臓
14	肺臓、胸膜、気管、気管支および胸郭
15	腎臓および尿管
16	膀胱および尿道
17	前立腺、睾丸、副睾丸、精管、精索および精嚢
18	子宮、卵巣および子宮附属器（異常分娩、妊娠異常が生じた場合を含みます。）

部位 NO.	身体部位・特定疾病の名称
19	乳房（乳腺を含みます。）
20	鼠蹊部（鼠蹊ヘルニア、陰嚢ヘルニア、または大腿ヘルニアが生じた場合に限ります。）
21	頸椎部（その神経を含みます。）
22	胸椎部（その神経を含みます。）
23	腰椎部（その神経を含みます。）
24	仙骨部および尾骨部（その神経を含みます。）
25	左肩関節部
26	右肩関節部
27	左鎖骨
28	右鎖骨
29	左股関節部
30	右股関節部
31	左上肢（左肩関節部を除きます。）
32	右上肢（右肩関節部を除きます。）
33	左下肢（左股関節部を除きます。）
34	右下肢（右股関節部を除きます。）
35	子宮体部（帝王切開を受けた場合に限ります。）
36	脊椎（その神経を含みます。）

部位 NO.	身体部位・特定疾病の名称
37	皮膚（頭皮を含みます。）
38	異常妊娠・異常分娩（帝王切開を含みます。）
39	胆石・胆嚢炎
40	腎・尿路結石
41	痔瘻・痔核・脱肛・肛門周囲膿瘍
42	白内障
43	皮膚炎・湿疹（アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎を含みます。）
44	副鼻腔炎・蓄膿症
45	骨折等の内固定具抜去
46	上顎骨、下顎骨、顎関節および頬骨
47	肋骨、肋軟骨および胸骨
48	骨盤（寛骨、仙骨および尾骨）
49	両肩関節
50	両股関節
51	両上肢（両肩関節部を除きます。）
52	両下肢（両股関節部を除きます。）
53	子宮内膜症（卵巣チョコレートのう胞を含みます。）および子宮腺筋症
54	傷害に伴う合併症・後遺症